# 令和８年度　行方市民意識調査

# 調査報告書

行方市

目次

I. 調査概要……1
調査の概要……1
1. 趣旨
2. 調査の方法
3. 調査項目
4. 報告書の見方

II. 調査結果 ……3
**回答者の属性**……3
(1)性別
(2)地区
(3)年齢
(4)職業
(5)居住年数
(6)世帯構成
(7)子どもの就学状況
**1. 市政への関心・市への愛着・幸福度について**……5
問1 行方市に愛着を持っているか
問2 現在、どのくらいの幸福を感じているか
**2. 暮らしやすさについて** ……6
問3 行方市の「住み心地」について
問4 住みやすいと感じる理由
問5 住みにくいと感じる理由
問6 今後も行方市に住み続けたいと思うか
**3. まちづくりへの満足度** ……10
問7 まちづくりに関する各項目の満足度について
問8 今後、市に求める特に重要な取り組みについて
**4. 健康・福祉について** ……25
問9 健康診断の受診状況について
問10 健康診断を受診しない理由
問11 この1年間にスポーツや運動をしたか
問12 健康づくりにおいて関心のある内容について
問13 障がい者福祉における重要な取り組みについて
問14 高齢者が安心して住み続けられる環境が整っていると思うか
問15 高齢者が安心して住み続けられるための重要な取り組みについて
問16 安心して子どもを産み育てられる環境が整っていると思うか
問17 安心して結婚・妊娠・子育てをするための重要な取り組みについて

**5. 生活環境について**……31
問18　住んでいる地区に対する意識について
問19　地域活動への参加状況について
問20　地域活動に参加していない理由
**6. 教育・文化について**……35
問21　学校教育における重要な取り組みについて
問22　生涯学習・文化・スポーツ振興における重要な取り組みについて
**7. 産業について**……37
問23　農林水産業の振興における重要な取り組みについて
問24　商工業の振興における重要な取り組みについて
**8. 定住・移住の促進について**……39
問25　定住・移住の促進に効果的な取り組みについて
**9. 行政サービスについて**……40
問26　市からの情報が十分に伝わっているか
問27　市政や地域に関する情報の取得方法について
問28　市政に対する関心について
**10. 住みやすいまちづくりについて**……43
問29　健康寿命を延ばすために必要な施策や支援について
問30　地域における「共助」の仕組みの維持・発展において重要なことについて
問31　親しい友人や家族への行方市のおすすめ度（NPS）について
**11. 行方市が注力している取組について**……46
問32　「行方市フォント」の認知度について
問33　ロケ地（フィルムコミッション）としての活用の認知度について

III. 資料（調査票）……47

# Ⅰ. 調査概要

## 調査の概要

1. 趣旨

市の現状やまちづくりの取り組みに対する満足度、市民が重要と感じている施策や課題、社会情勢から重点的な取り組みが必要な課題など、市民の市政に関する満足度等の市民意識から政策的課題を把握し、市民ニーズを的確に市政に反映するために実施するもの。

2. 調査の方法

(1)調査時期

令和8(2026)年７月1日(水)～令和8(2026)年７月 31 日(金)

(2)調査対象

市内に在住する満18歳以上の市民

(3)調査方法

インターネット調査(Questant)及び紙調査

(4)回収結果

| 対象数 | 回答件数 |
|---|---|
| 令和 8 年度　市民：30,515 人（R8.7.1 現在、回答対象とならない 17 歳以下も含む） | 715 件<br>Web：640 件、紙 75 件 |
| 令和 7 年度　市民：31,084 人（R7.7.1 現在、回答対象とならない 17 歳以下も含む） | 664 件<br>Web：590 件、紙 74 件 |
| 令和 6 年度　市民 31,710 人(R6.7.1 現在、回答対象とならない 17 歳以下も含む | 487 件 |
| 令和 5 年度　市民 32,152 人(R5.11.1 現在、回答対象とならない 17 歳以下も含む | 468 件 |

3. 調査項目

①市政への関心・市への愛着・幸福度について
②暮らしやすさについて　③まちづくりへの満足度
④健康・福祉について　⑤生活環境について
⑥教育・文化について　⑦産業について
⑧定住・移住の促進について　⑨行政サービスについて
⑩住みやすいまちづくりについて　⑪行方市が注力している取組について

4. 報告書の見方

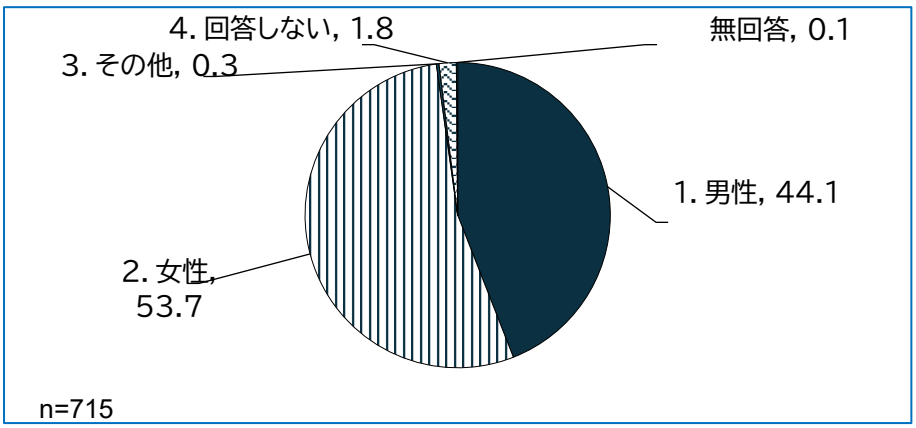
- 本文及び図中に示した調査結果の数値は百分比(%)で示してある。これらの数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため, 全項目の回答比率の合計が 100.0%とならない場合がある。
- 図表中の「n」は number of cases の略で, 回答数総数または分類別の回答者数を示す。
- 各比率はnを 100.0%として算出している。
- 複数の回答を求めた質問では, 回答比率の合計が 100.0%を超えることがある。
- 無効回答は集計結果から取り除いている。
- 分岐質問でない限り、割合はアンケート回答者総数を分母として算出している。

## Ⅱ. 調査結果

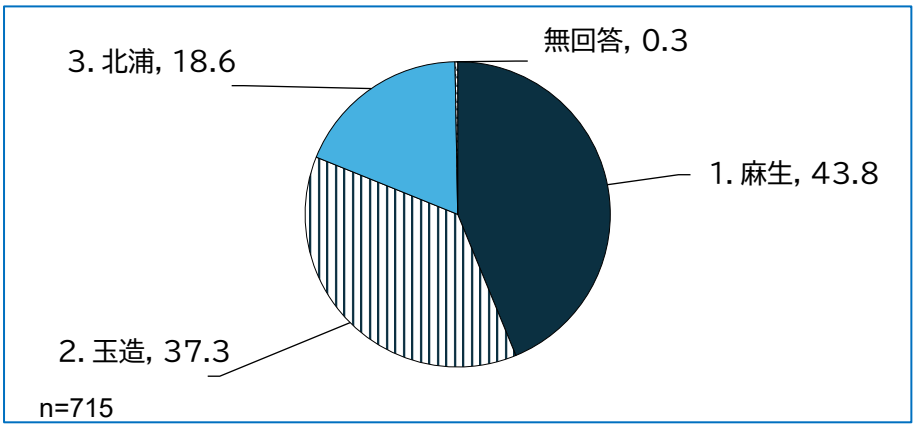
### 回答者の属性

あなたご自身のことについて、それぞれの項目ごとに、あてはまる番号を選んでください。

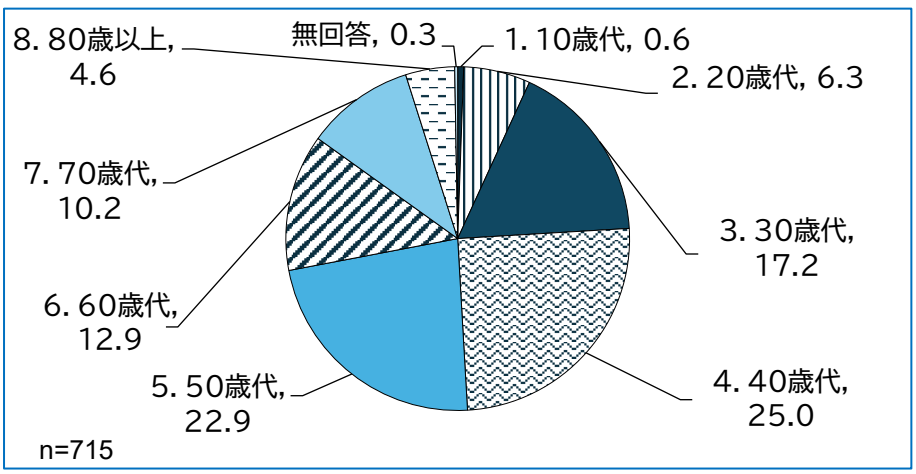
(1)性別



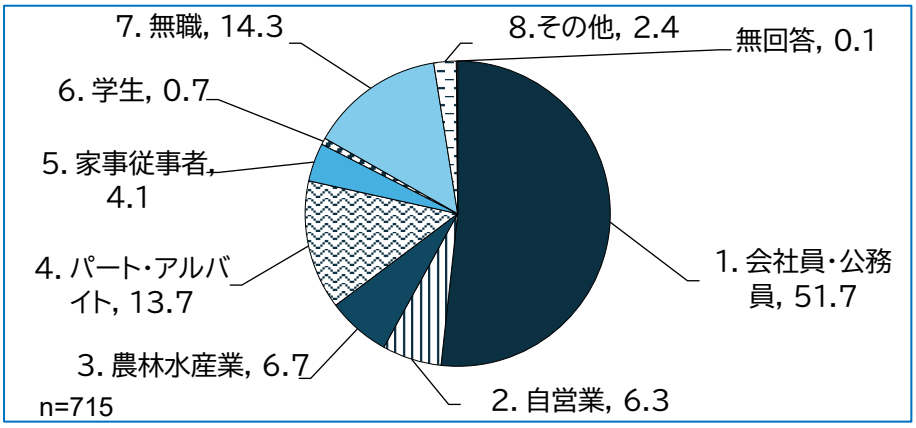

(2)地区



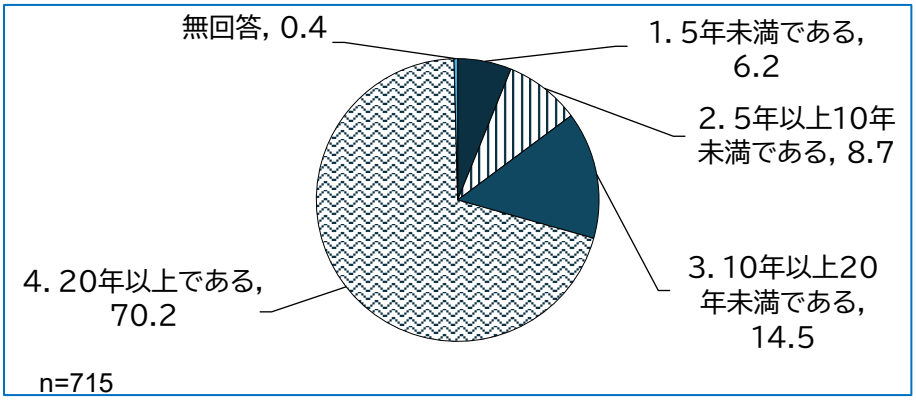

(3)年齢



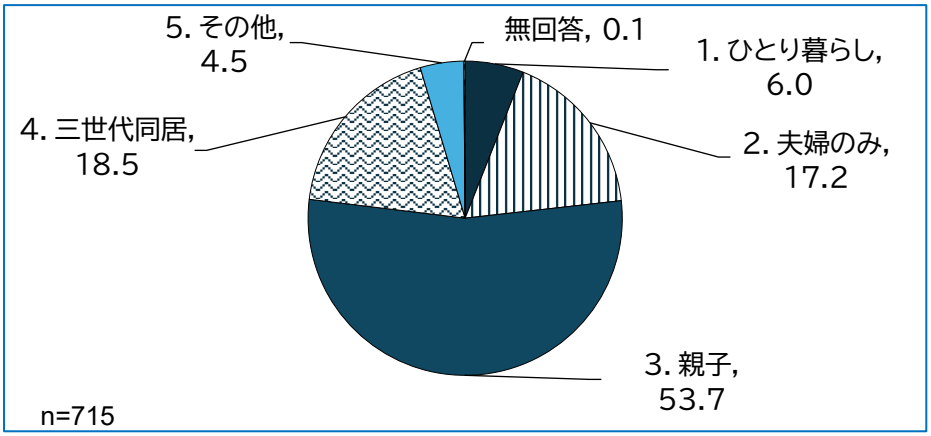
**(4)職業**



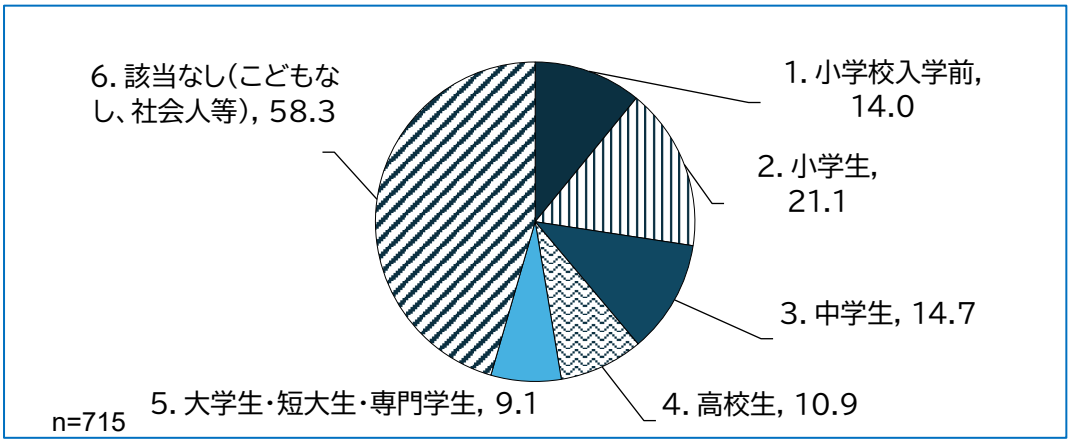

**(5)居住年数**




**(6)世帯構成**

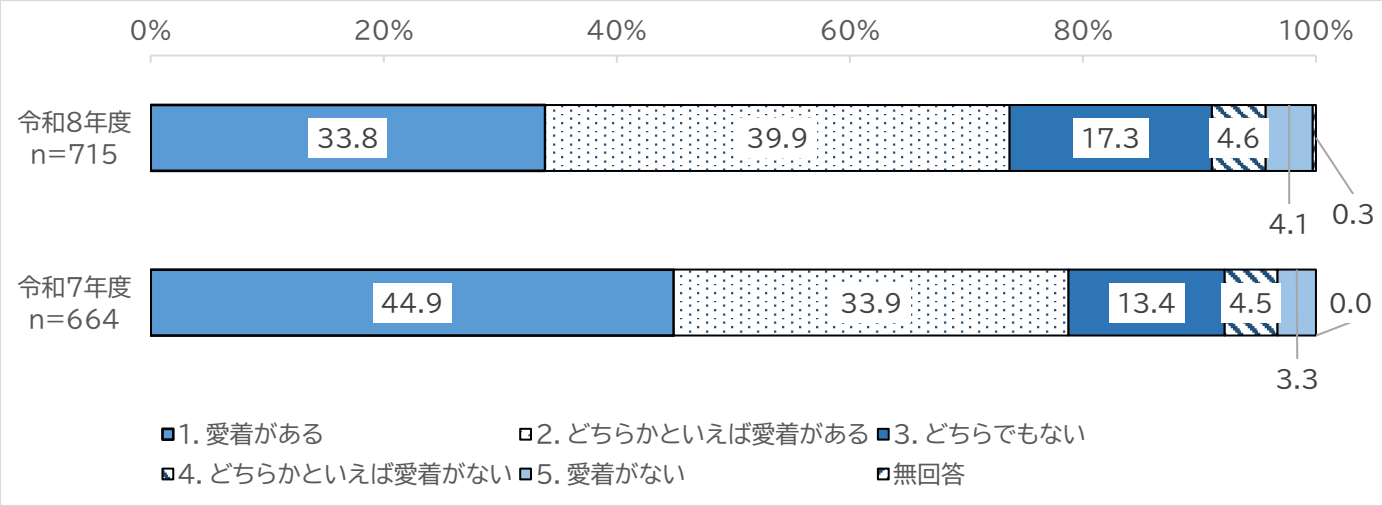



**(7)子どもの就学状況**



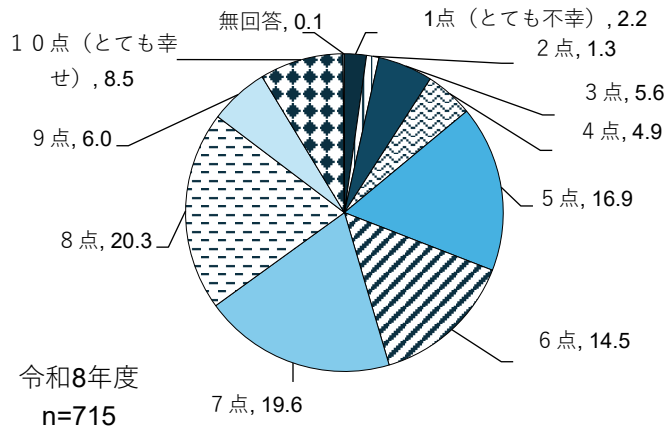
## 1. 市政への関心・市への愛着・幸福度について

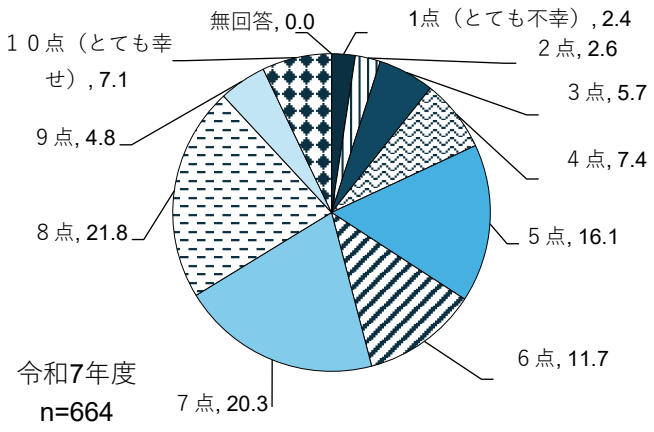
### 問1　行方市に愛着を持っているか（回答を1つ）




- 行方市への愛着度は、割合が最も高かったのは「2. どちらかといえば愛着がある」で 39.9%（285 人）であった。次いで「1. 愛着がある」が 33.8%（242 人）、「3. どちらでもない」が 17.3%（124 人）であった。割合が最も低かったのは「5. 愛着がない」で 4.1%（29 人）であった。
- 肯定的な回答である「愛着がある」と「どちらかといえば愛着がある」を合わせた割合は 73.7%（527 人）であり、否定的な回答である「愛着がない」と「どちらかといえば愛着がない」を合わせた割合は 8.7%（62 人）であった。前回調査より、肯定的な回答が減少した。
- なお前回調査で割合が最も高かったのは「1. 愛着がある」で 44.9%（298 人）であった。

### 問2　現在、どのくらいの幸福を感じているか（回答を1つ）

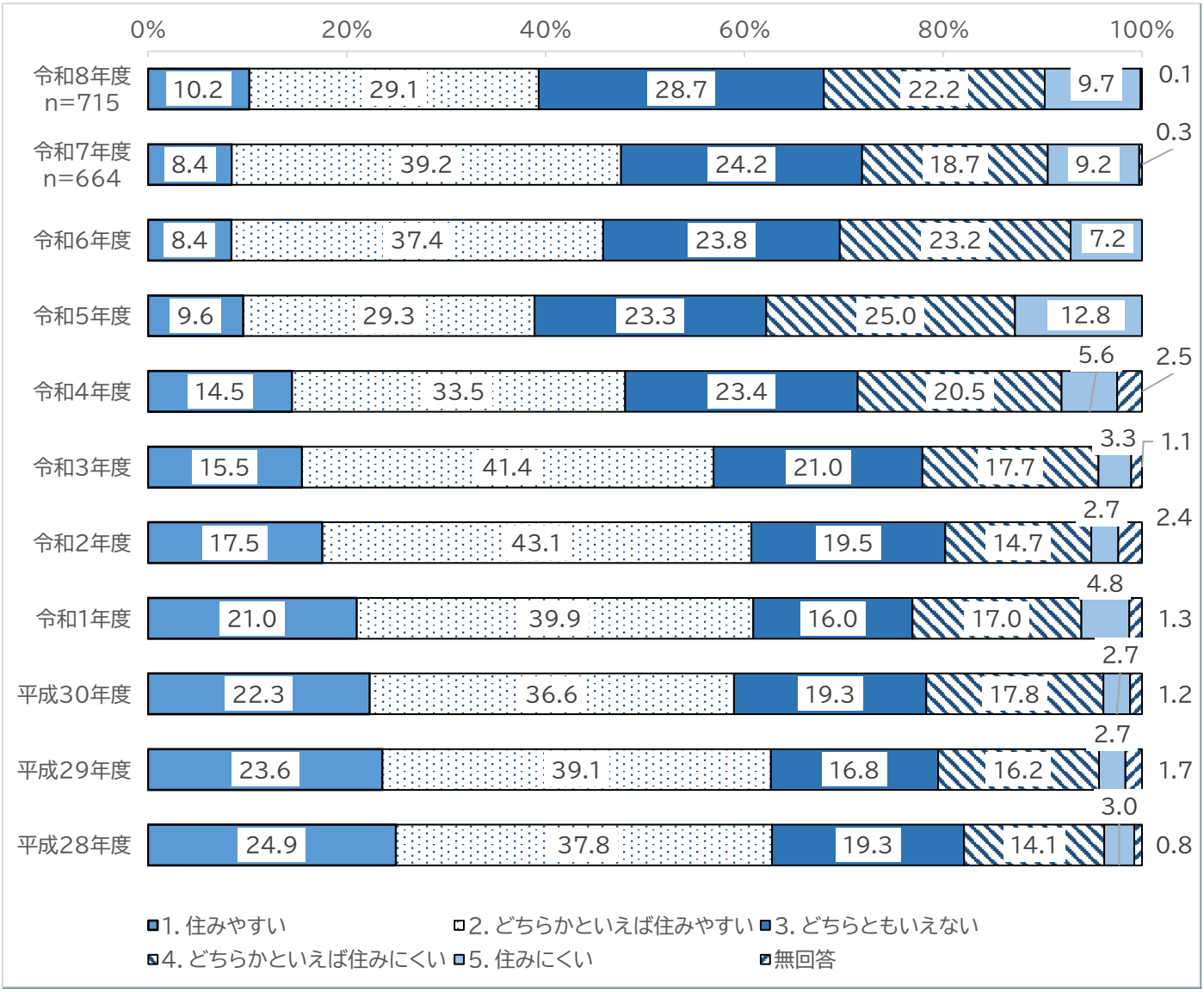



- 現在の幸福度（10 段階評価）は、割合が最も高かったのは「8 点」で 20.3%（145 人）であった。次いで「7 点」が 19.6%（140 人）、「5 点」が 16.9%（121 人）であった。割合が最も低かったのは「2 点」で 1.3%（9 人）であった。
- 幸福度の平均は、6.52 点で、国の幸福度の平均値 6.4 点、県の平均 6.3 点（デジタル庁「地域幸福度 Well-Being 指標」2026 年度指標より）をわずかに上回った。
- 前回調査と比較すると、割合が最も高かったのは同様に「8 点」で 21.8%（145 人）であった。

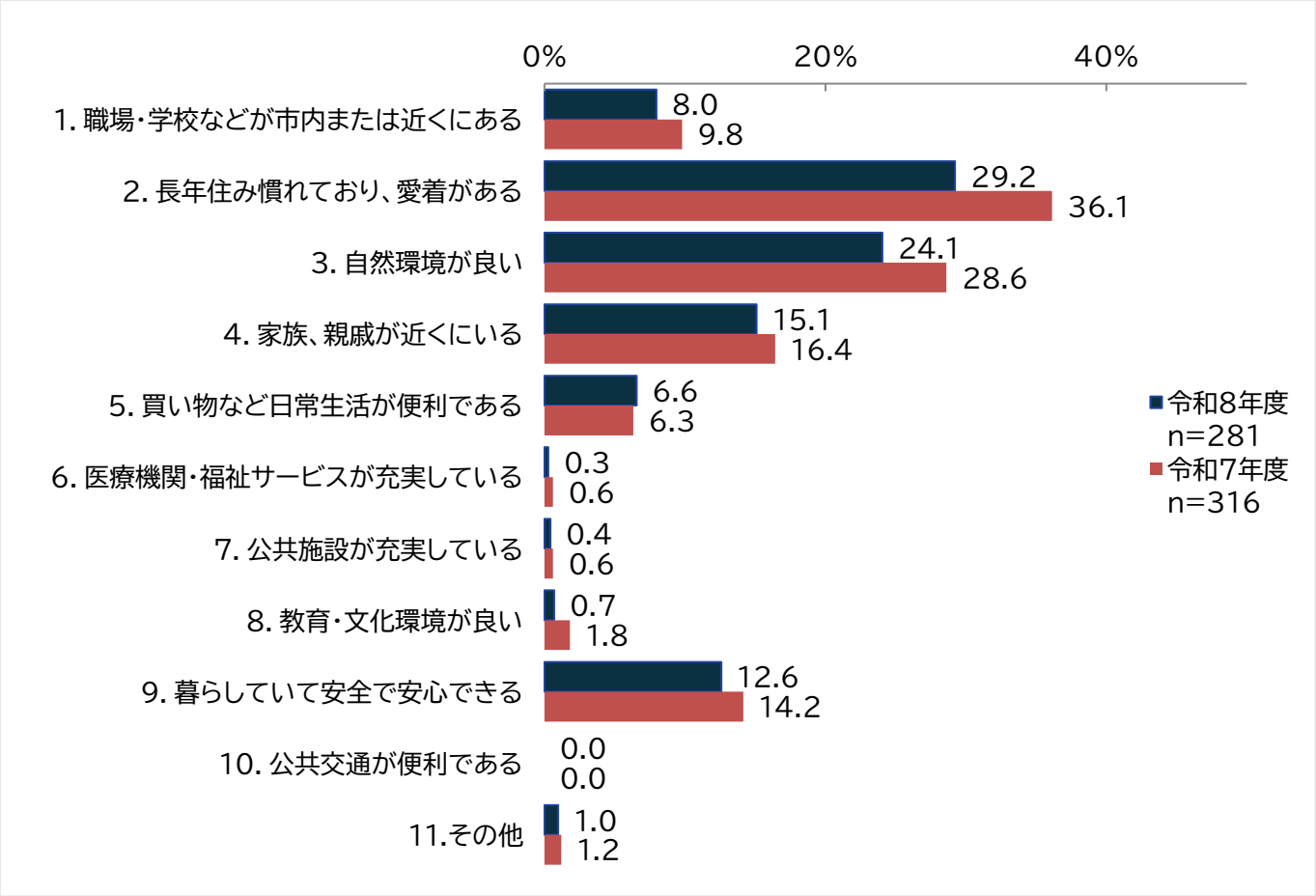
## 2. 暮らしやすさについて

### 問3　行方市の「住み心地」について（回答を1つ）



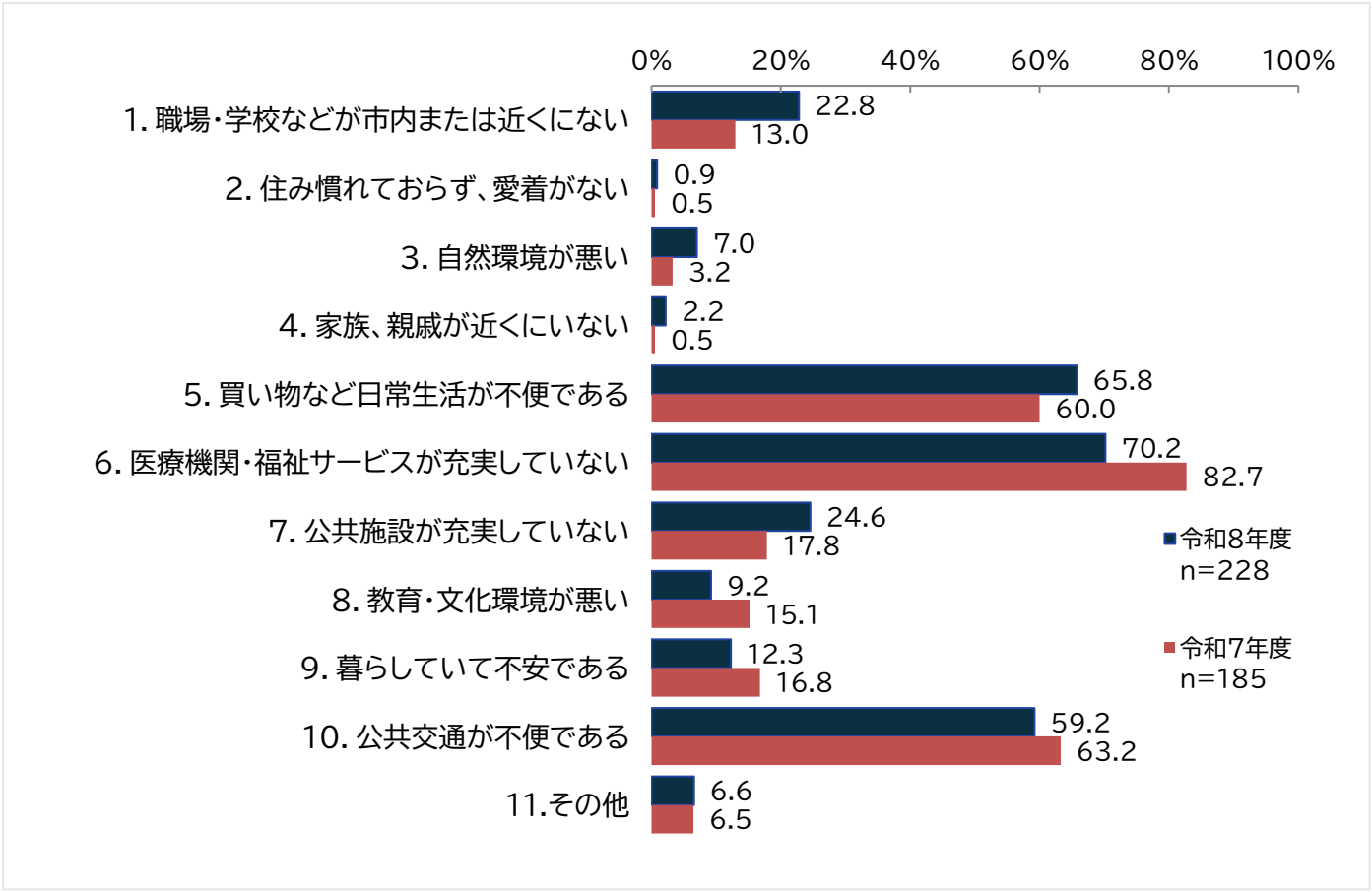

- 行方市の住み心地は、割合が最も高かったのは「2. どちらかといえば住みやすい」で 29.1%（208 人）であった。次いで「3. どちらともいえない」が 28.7%（205 人）、「4. どちらかといえば住みにくい」が 22.2%（159 人）であった。割合が最も低かったのは「5. 住みにくい」で 9.7%（69 人）であった。
- 肯定的な回答である「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合わせた割合は 39.3%（281 人）であり、昨年度より減少した。否定的な回答である「住みにくい」と「どちらかといえば住みにくい」を合わせた割合は 31.9%（228 人）であり増加している。
- 前回調査と比較すると、割合が最も高かったのは同様に「2. どちらかといえば住みやすい」で 39.2%（260 人）であった。

## 問4　住みやすいと感じる理由(回答を3つまで)



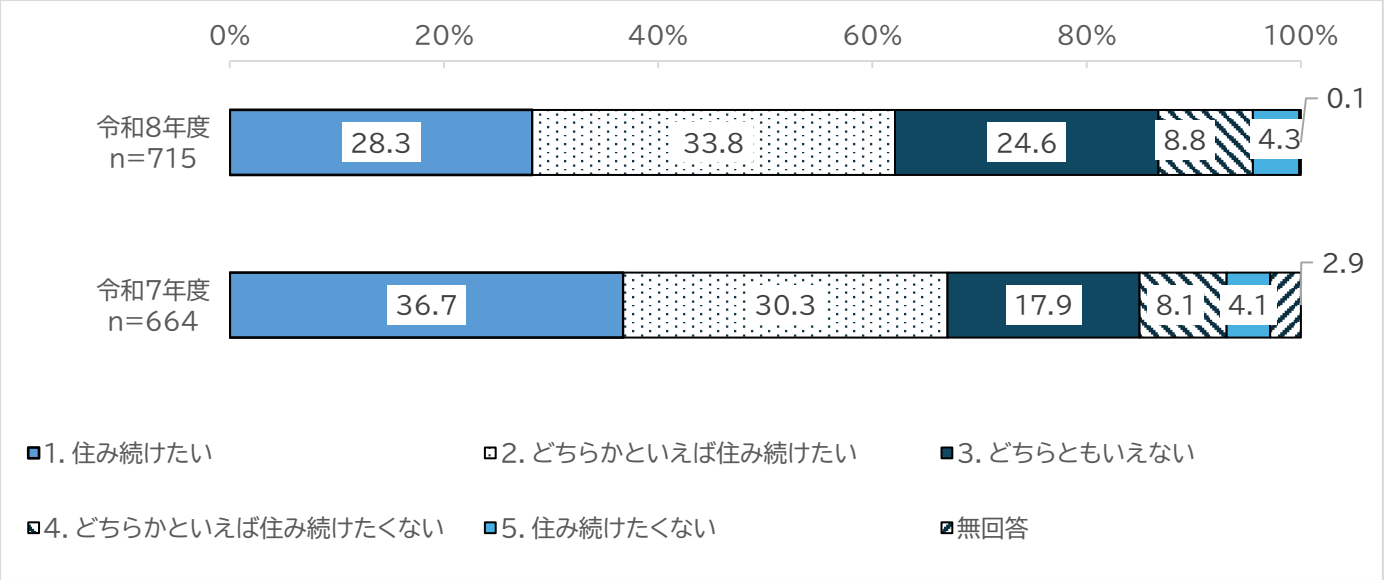

- 住みやすいと感じる理由(複数回答・回答3つまで)は、割合が最も高かったのは「2. 長年住み慣れており、愛着がある」で 29.2%(209 人)であった。次いで「3. 自然環境が良い」が 24.1%(172 人)となっている。割合が最も低かったのは「10. 公共交通が便利である」で 0.0%(0 人)であった。
- 前回調査と比較すると、割合が最も高かったのは同様に「2. 長年住み慣れており、愛着がある」で 36.1%(240 人)であった。

## 問5　住みにくいと感じる理由（回答を3つまで）




- 住みにくいと感じる理由（複数回答・回答 3 つまで）は、割合が最も高かったのは「6. 医療機関・福祉サービスが充実していない」で 70.2%（160 人）であった。次いで「5. 買い物など日常生活が不便である」が 65.8%（150 人）、「10. 公共交通が不便である」が 59.2%（135 人）であった。
- 前回調査と比較すると、割合が最も高かったのは同様に「6. 医療機関・福祉サービスが充実していない」で 82.7%（153 人）であった。

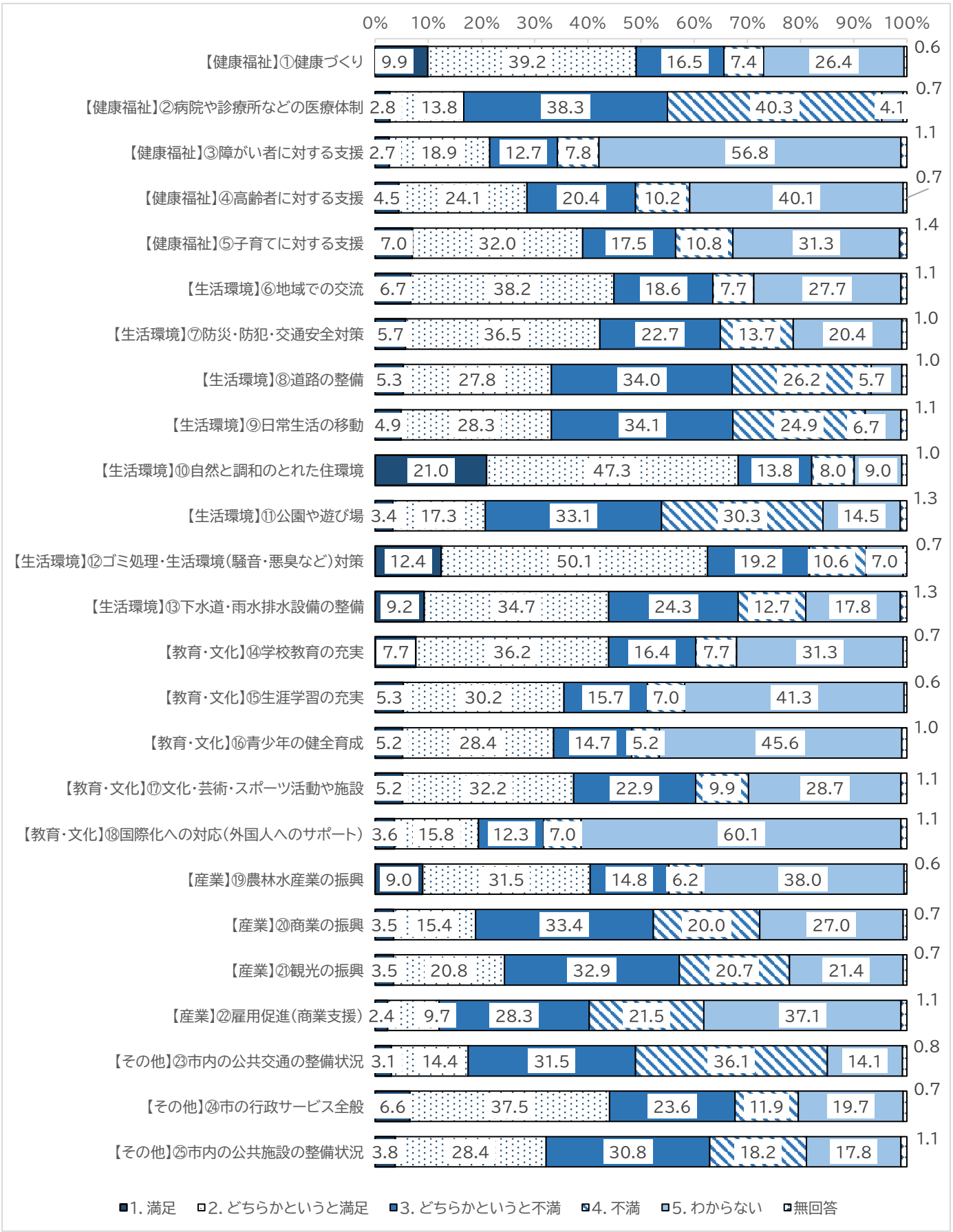
## 問6　今後も行方市に住み続けたいと思うか（回答を1つ）




- 今後の定住意向について、割合が最も高かったのは「2. どちらかといえば住み続けたい」で 33.8%（242 人）であった。次いで「1. 住み続けたい」が 28.3%（202 人）、「3. どちらともいえない」が 24.6%（176 人）であった。
- 肯定的な回答である「住み続けたい」と「どちらかといえば住み続けたい」を合わせた割合は 62.1%（444 人）であり、否定的な回答である「住み続けたくない」と「どちらかといえば住み続けたくない」を合わせた割合は 13.1%（94 人）であった。
- 前回調査で割合が最も高かったのは「1. 住み続けたい」で 36.7%（244 人）であった。

## 3. まちづくりへの満足度

### 問7　まちづくりに関する各項目の満足度について（項目ごとに回答を1つ）



- 満足度が高い分野（満足系の回答： 満足＋どちらかというと満足の上位3分野）

  ⑩「自然と調和のとれた住環境」　68.3%(488 人)

  ⑫「ゴミ処理・生活環境(騒音・悪臭など)対策」 62.5%(447 人)

  ①「健康づくり」　49.1%（351 人）

- 不満足度が高い分野（不満系の回答： どちらかというと不満＋不満の下位3分野）

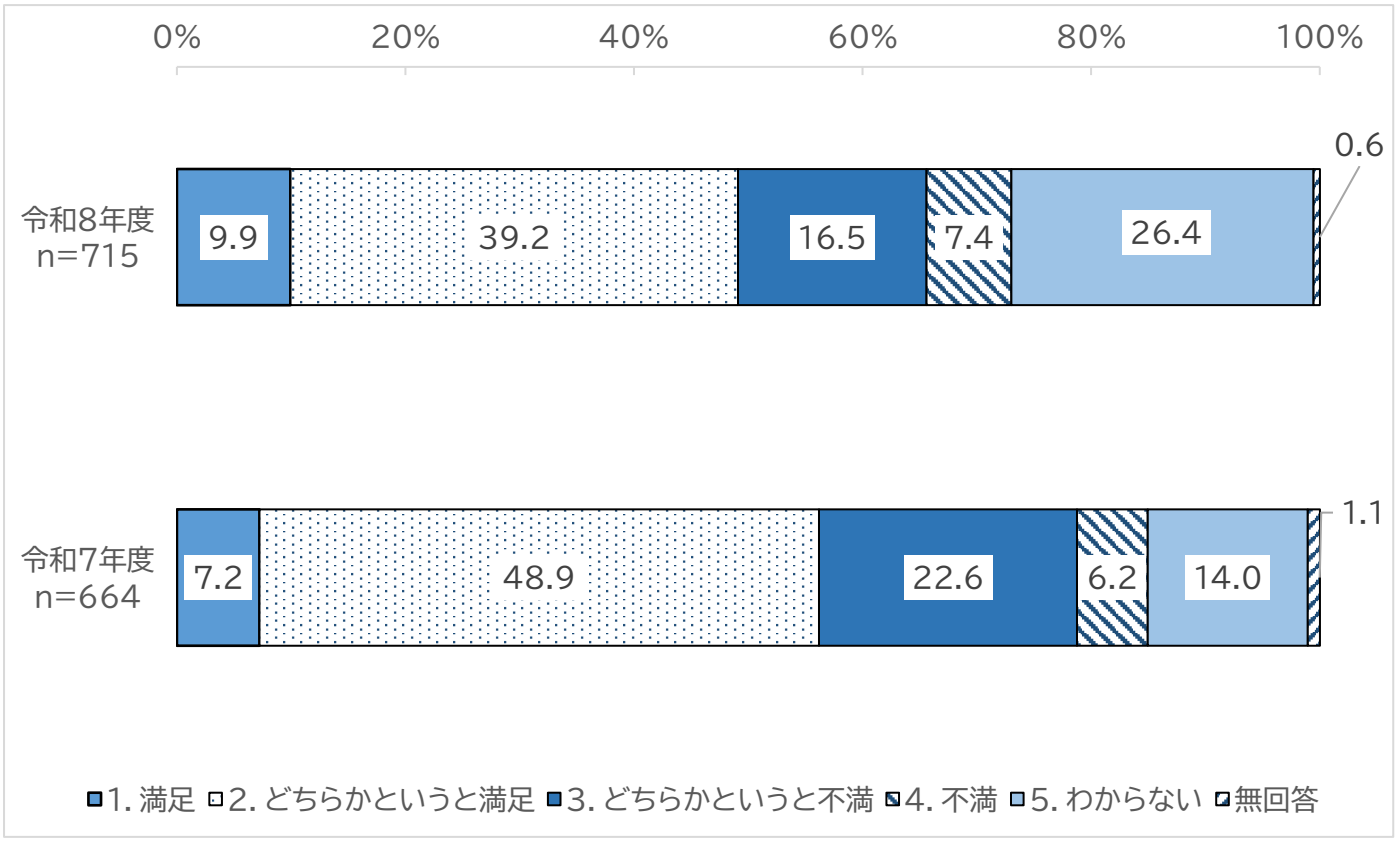
  ②「病院や診療所などの医療体制」 78.6%(562 人)

  ㉓「市内の公共交通の整備状況」 67.6%(483 人)

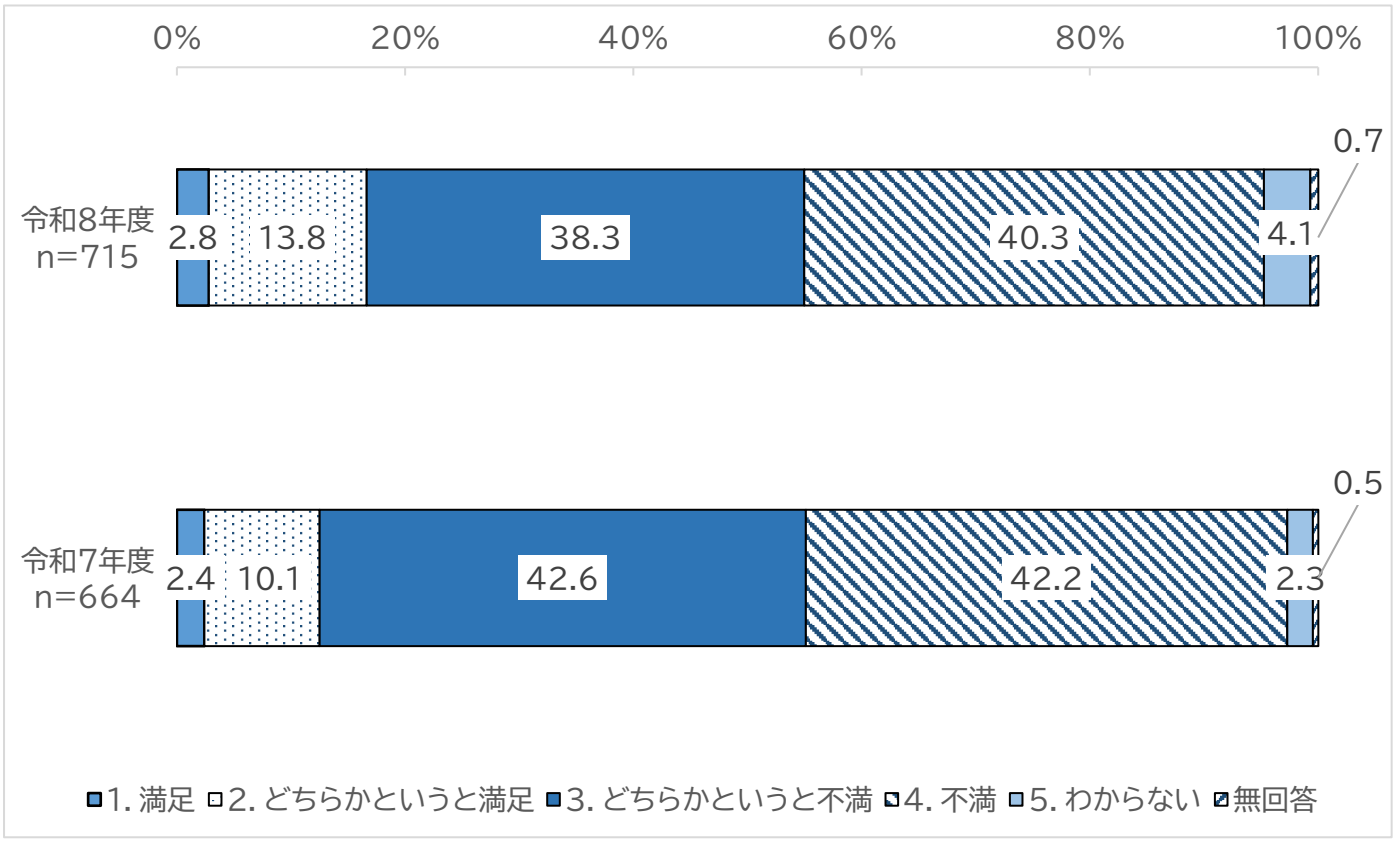
  ⑪「公園や遊び場」　63.4%(454 人)

## まちづくりに関する各項目の詳細（満足度）

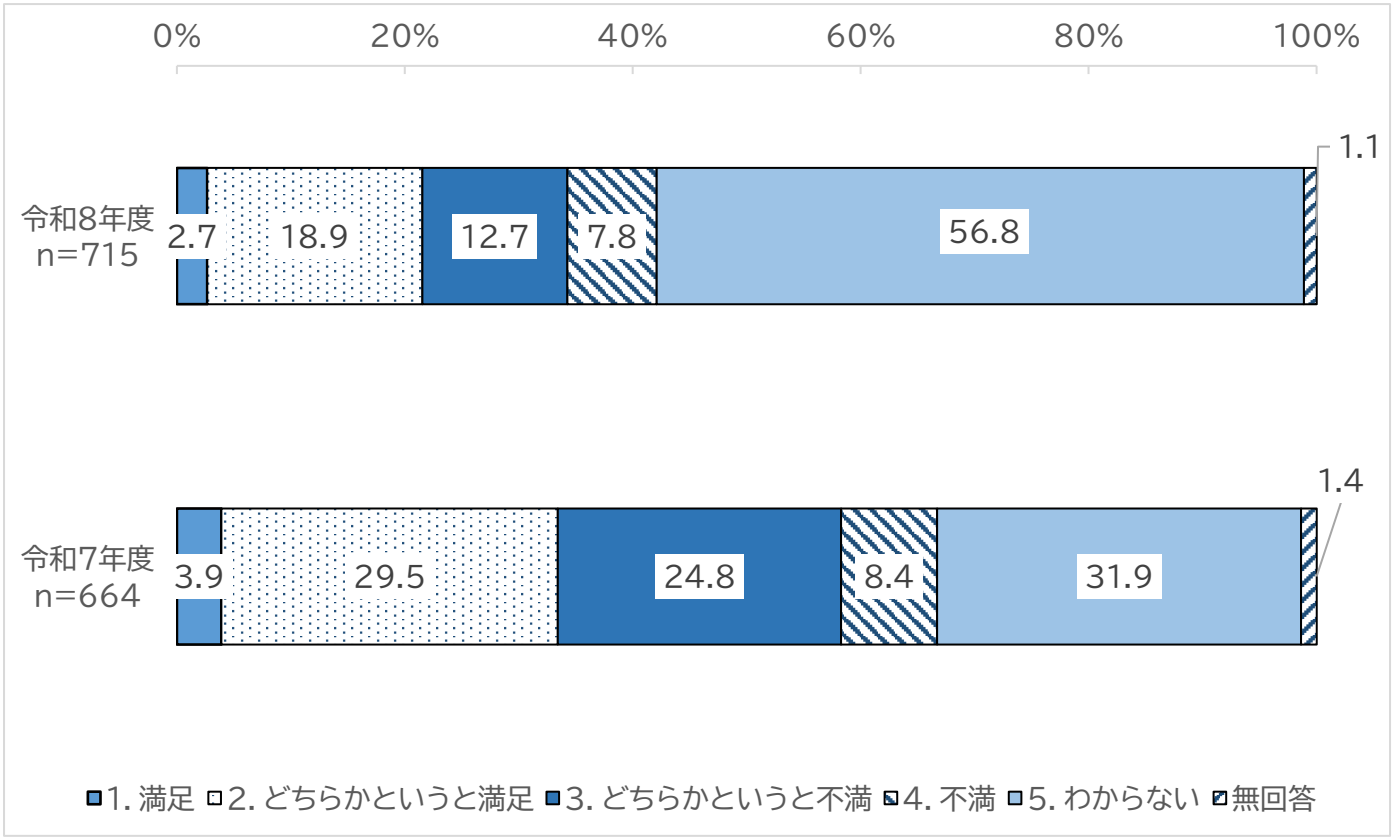
### ①健康づくり



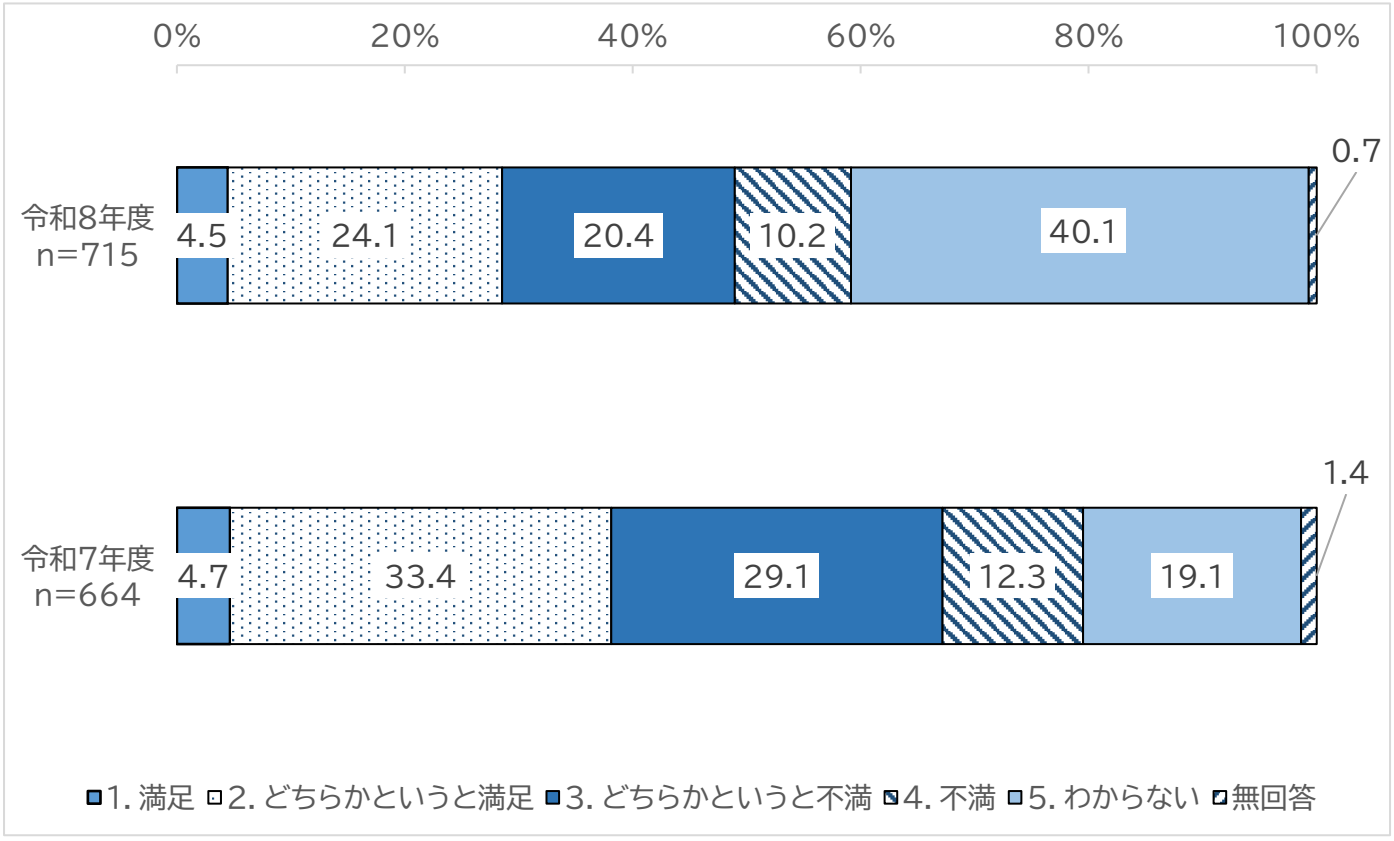

### ②病院や診療所などの医療体制



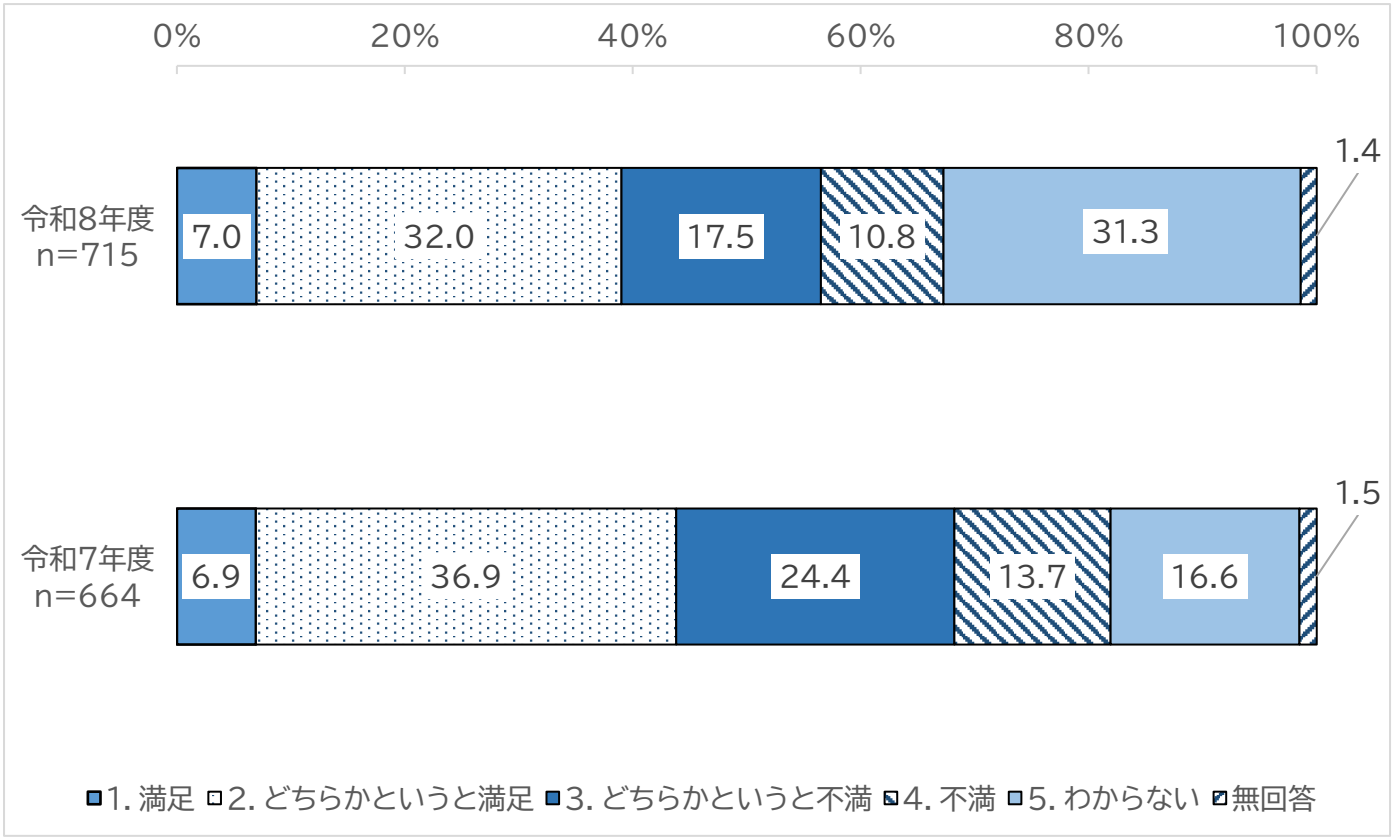
### ③障がい者に対する支援



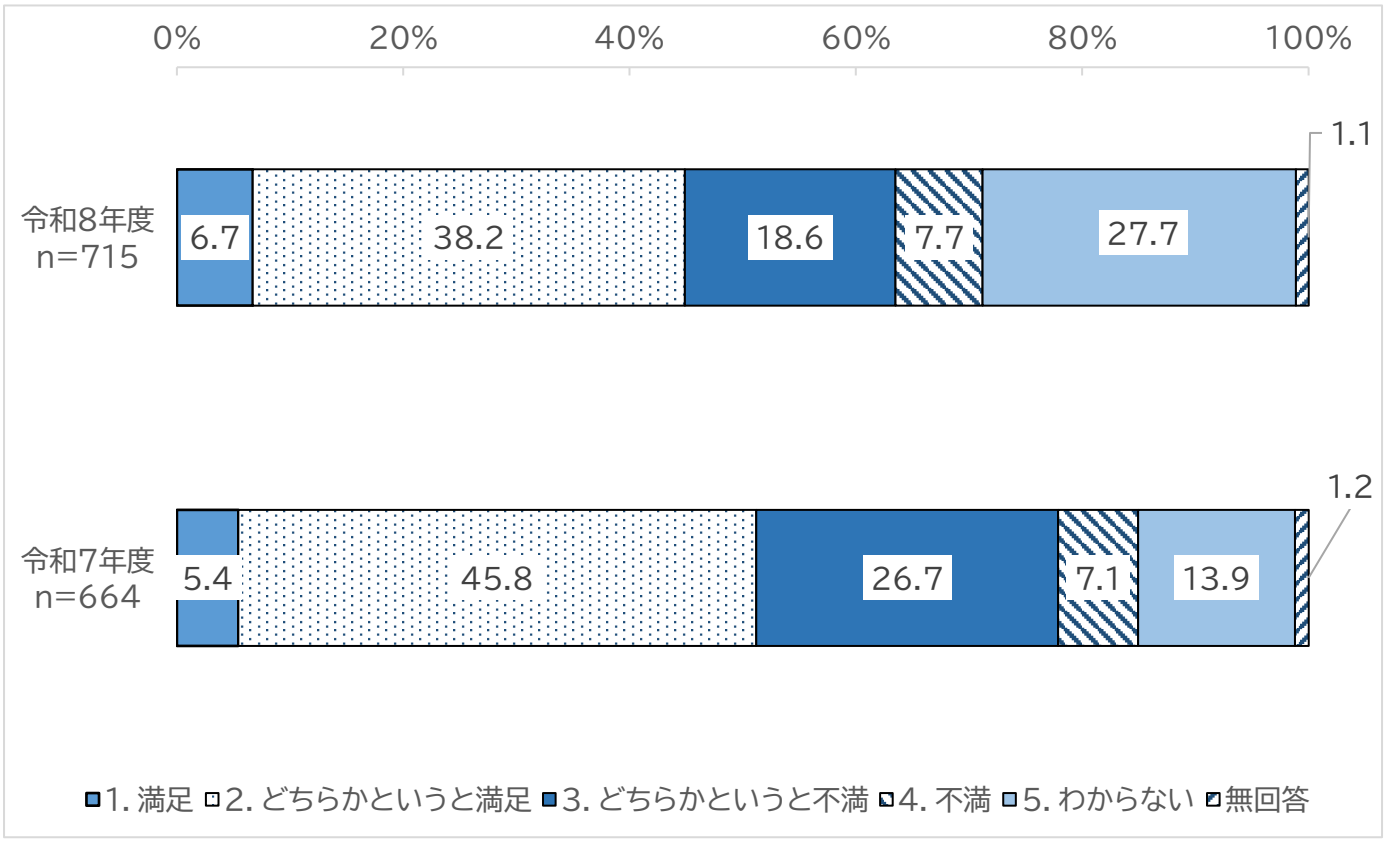

### ④高齢者に対する支援



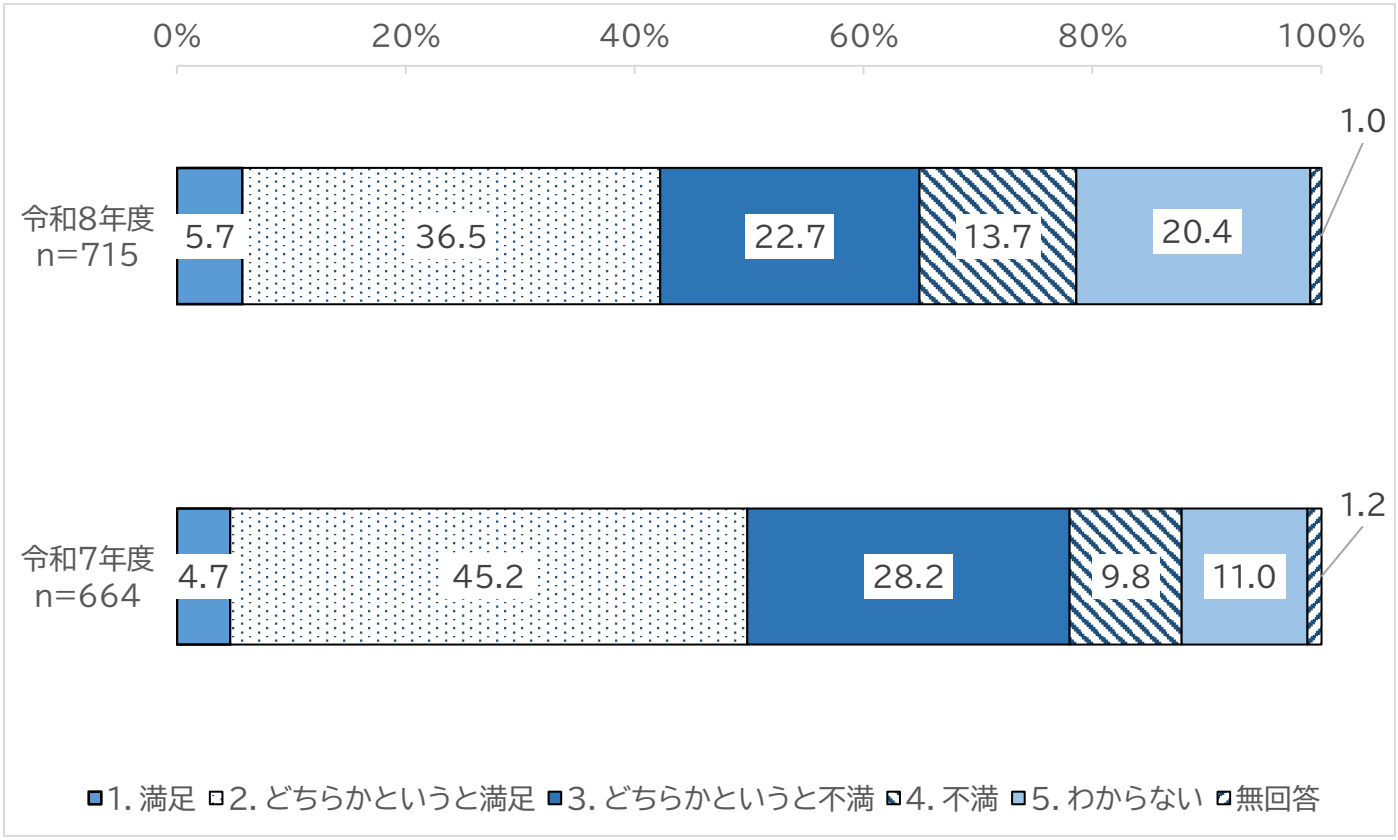
### ⑤子育てに対する支援



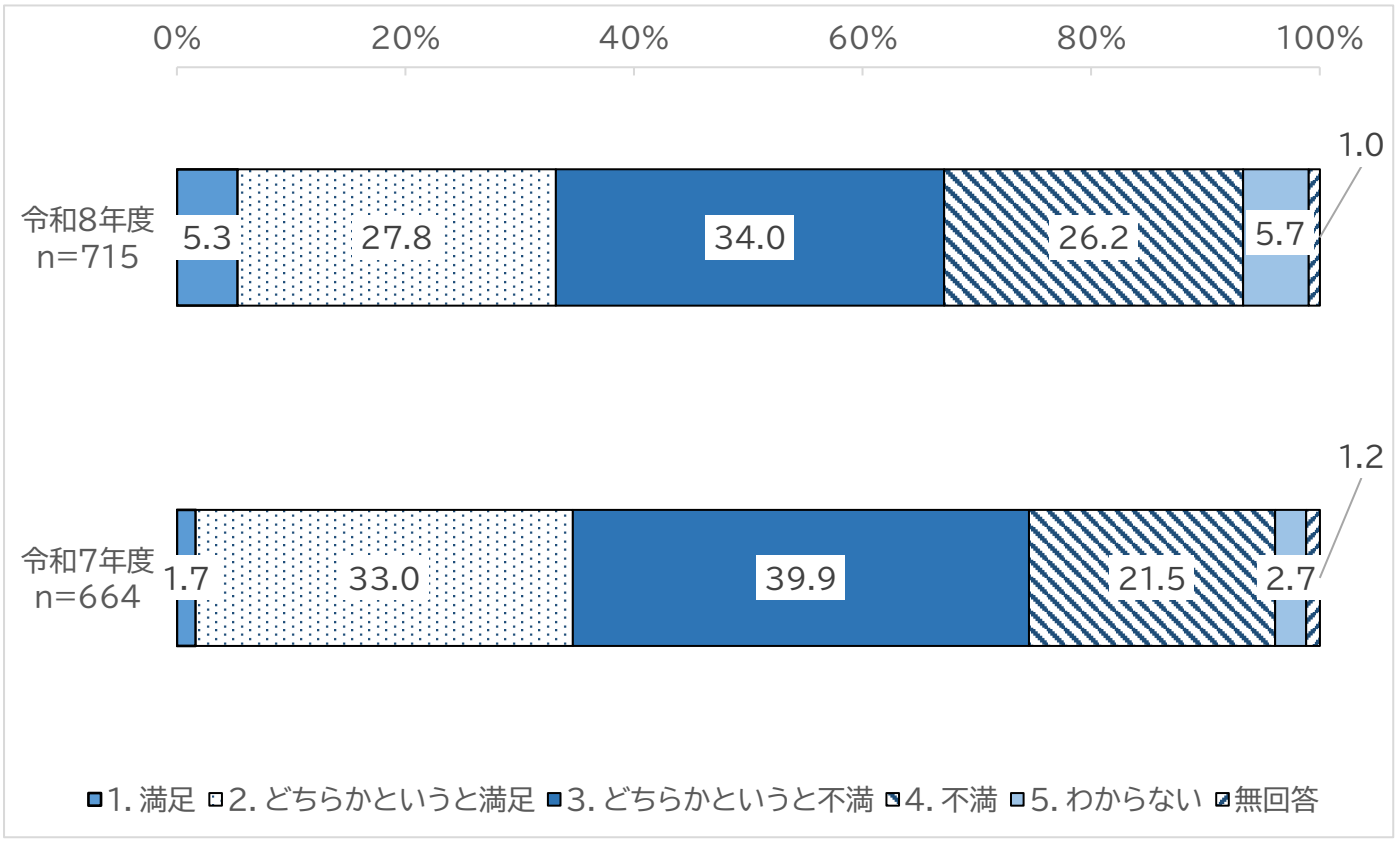

### ⑥地域での交流



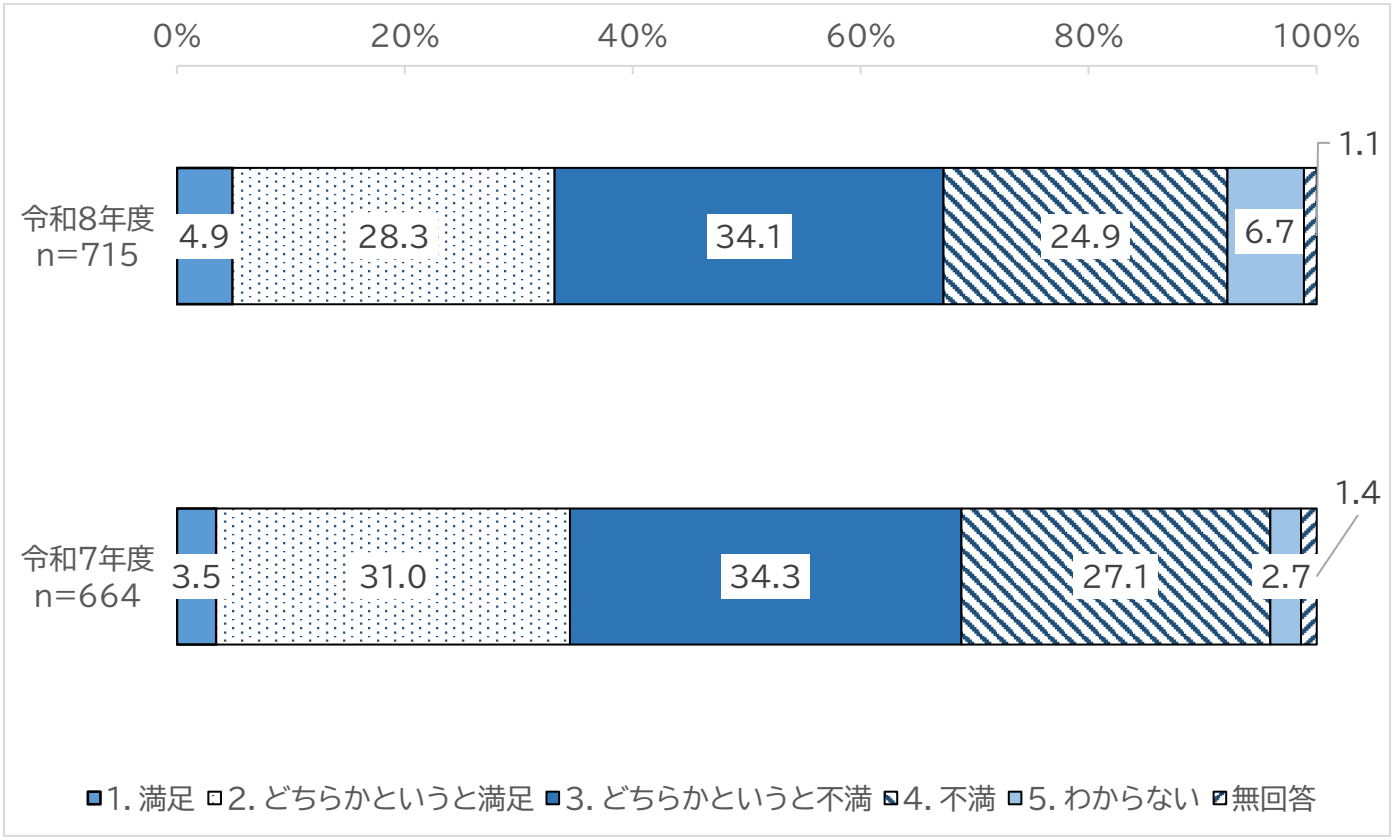
### ⑦防災・防犯・交通安全対策



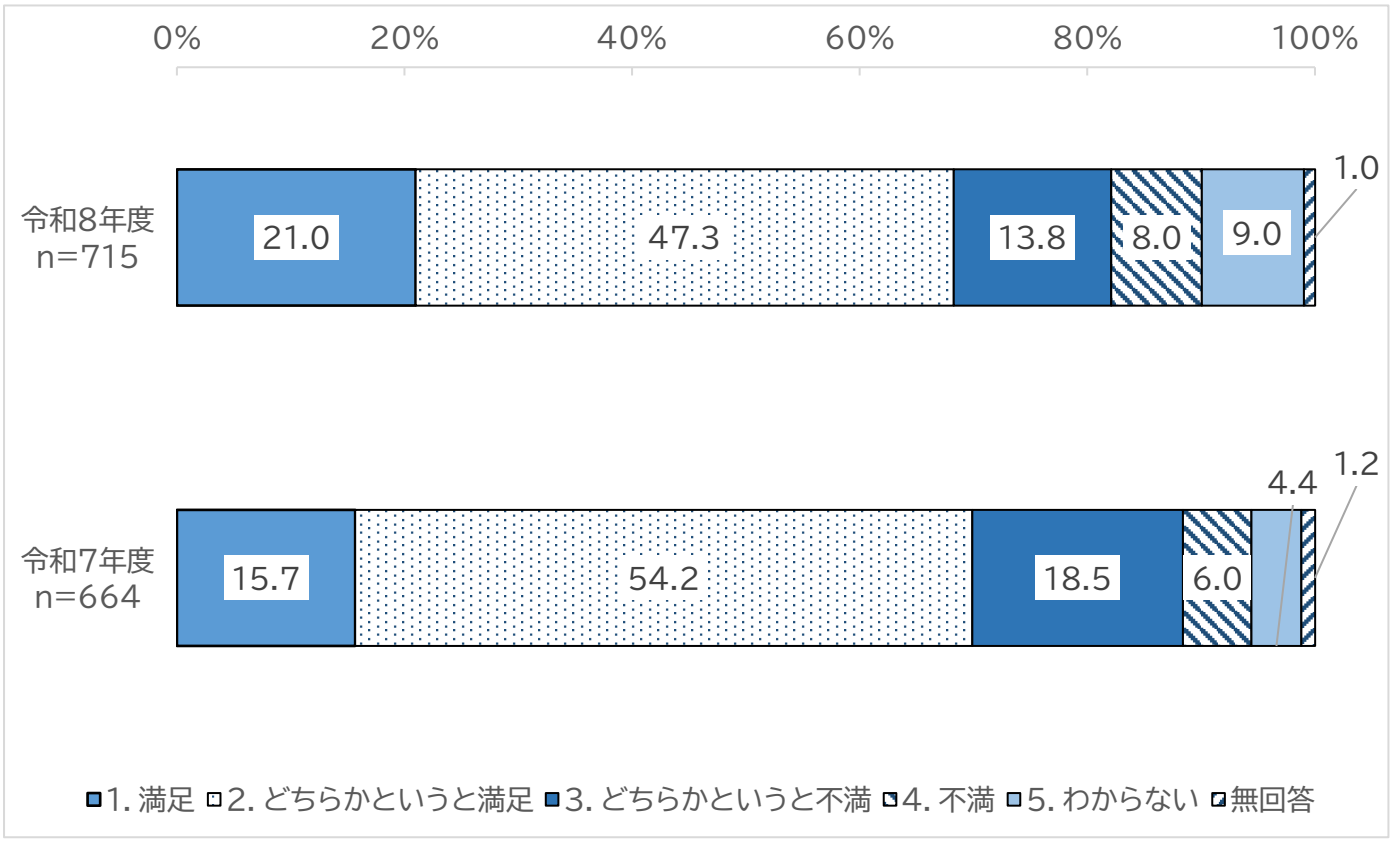

### ⑧道路の整備



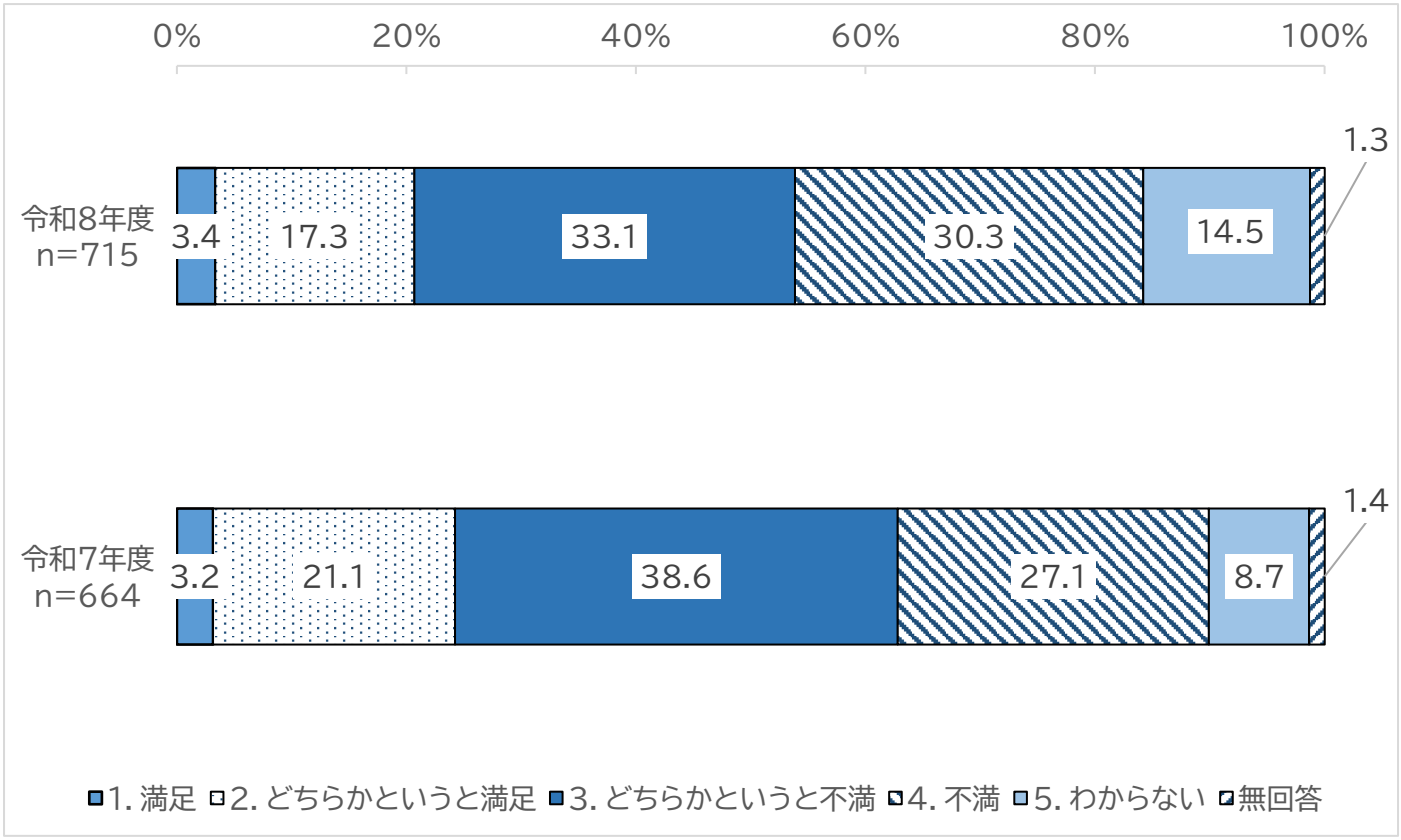
### ⑨日常生活の移動



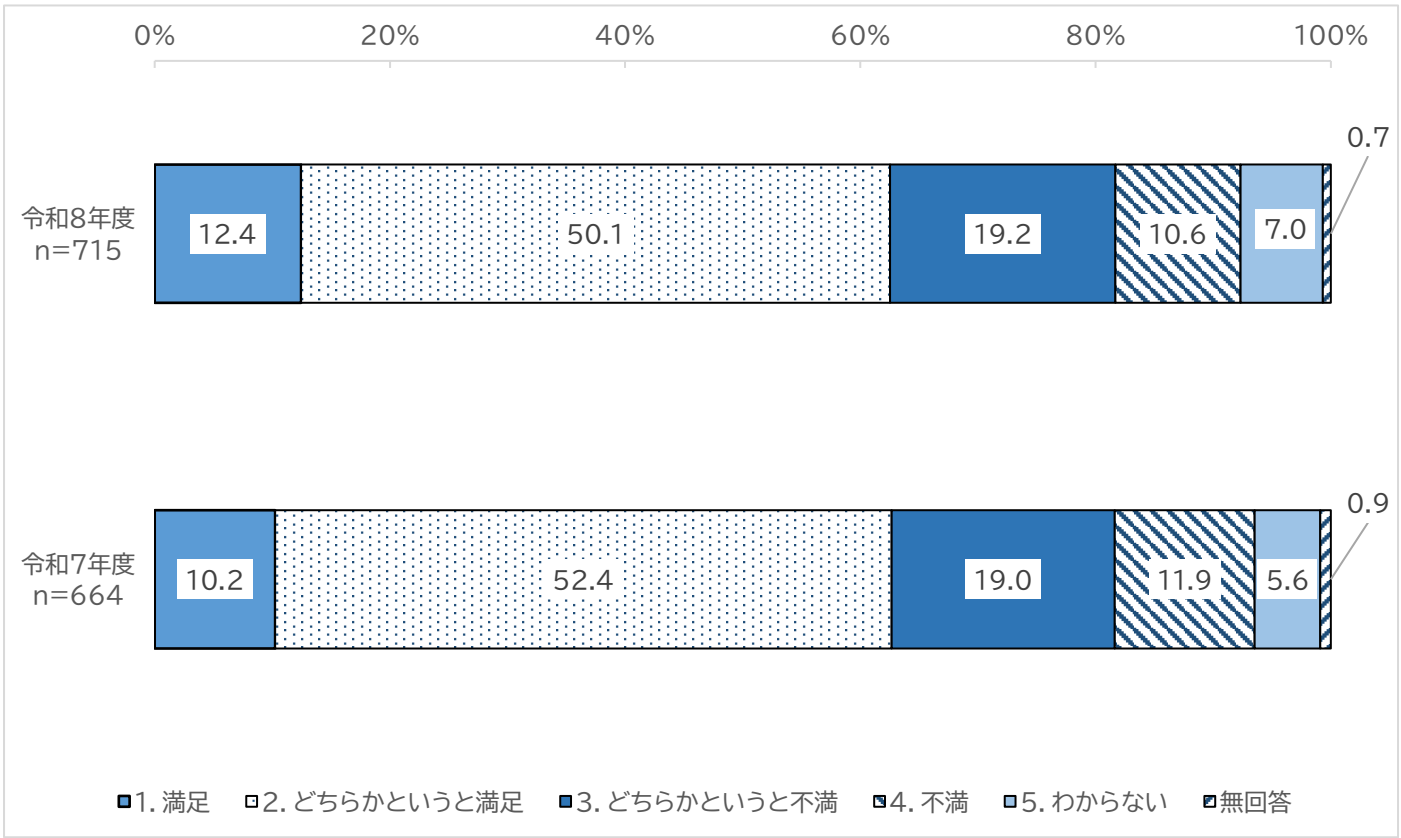

### ⑩自然と調和のとれた住環境



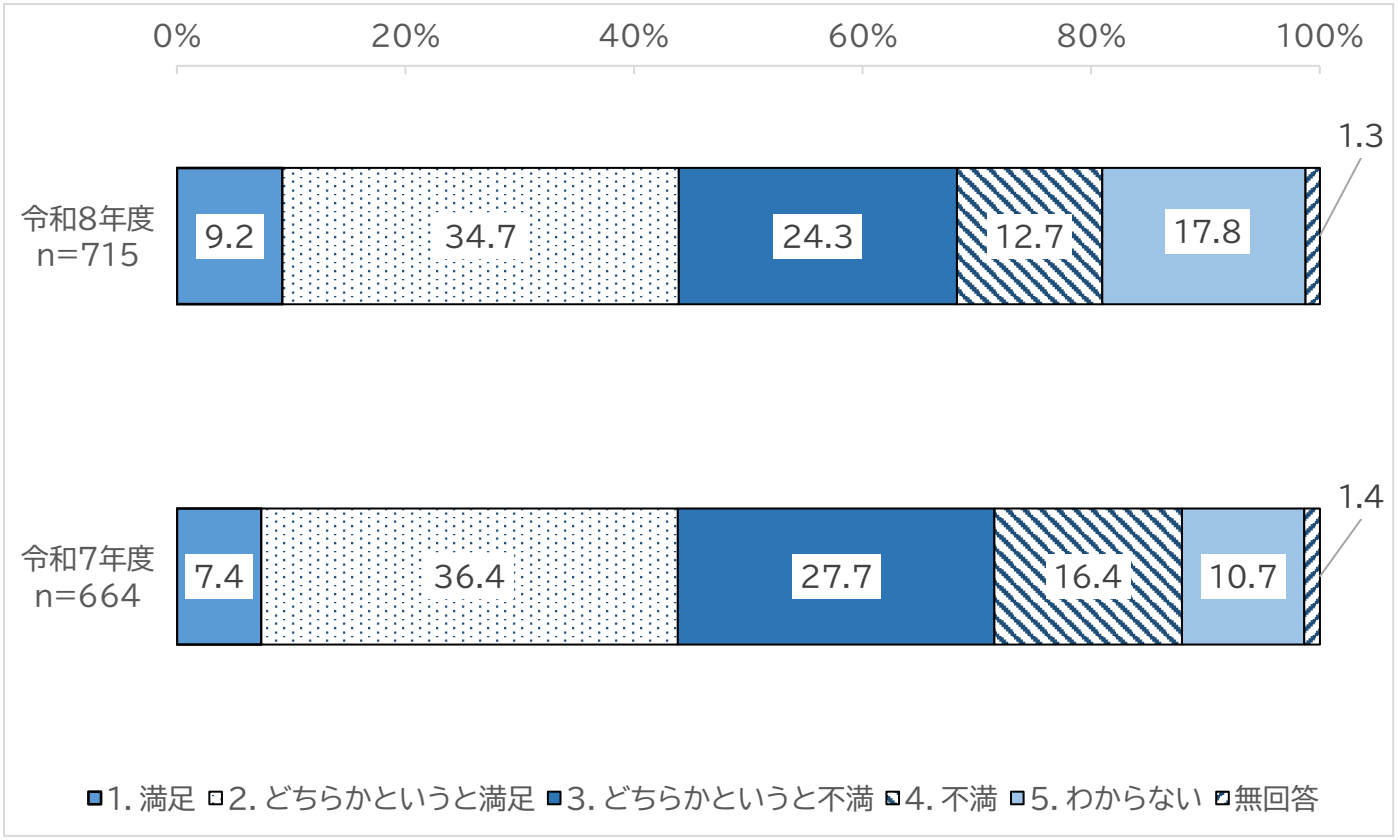
### ⑪公園や遊び場



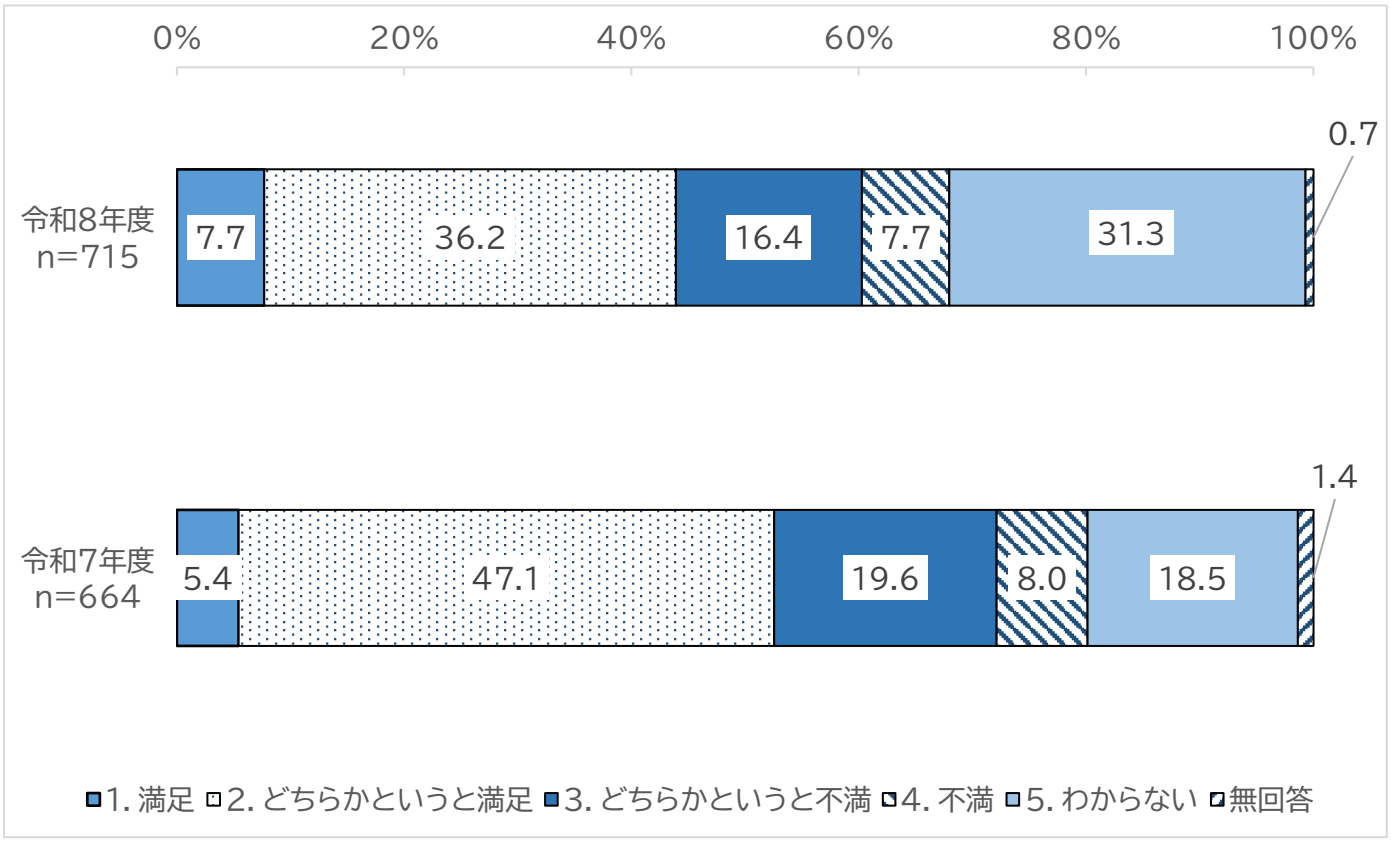

### ⑫ゴミ処理・生活環境（騒音・悪臭など）対策



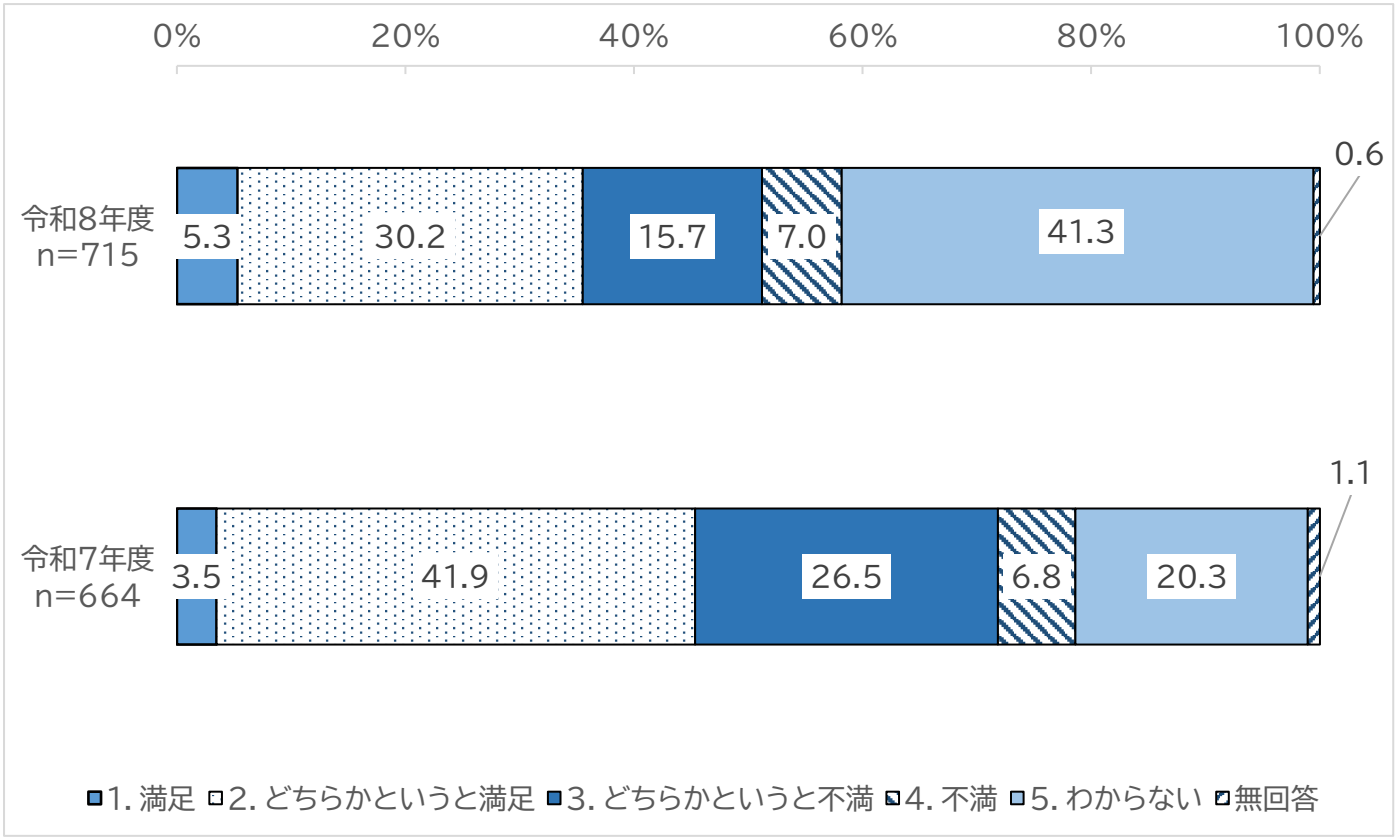
### ⑬下水道・雨水排水設備の整備



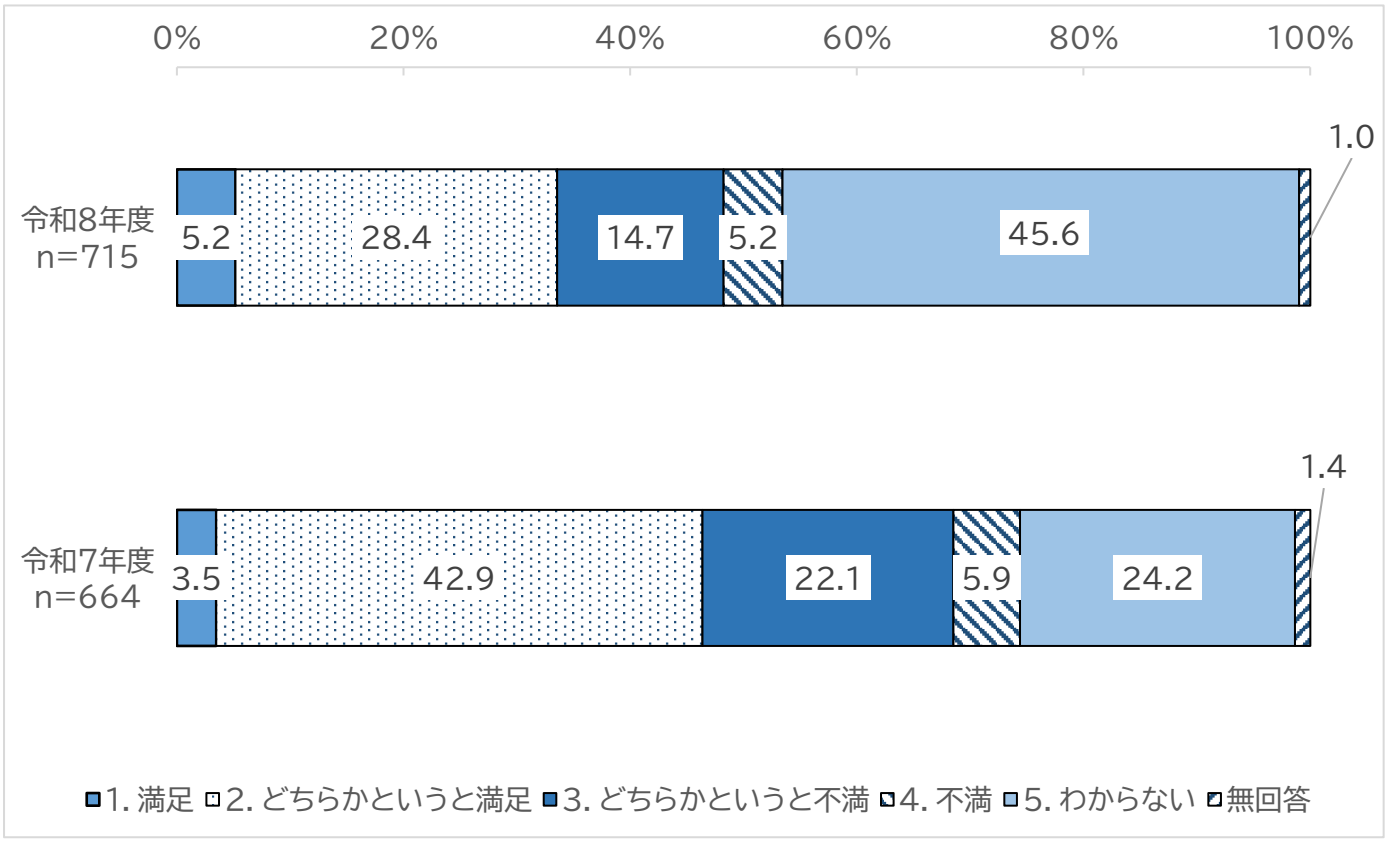

### ⑭学校教育の充実



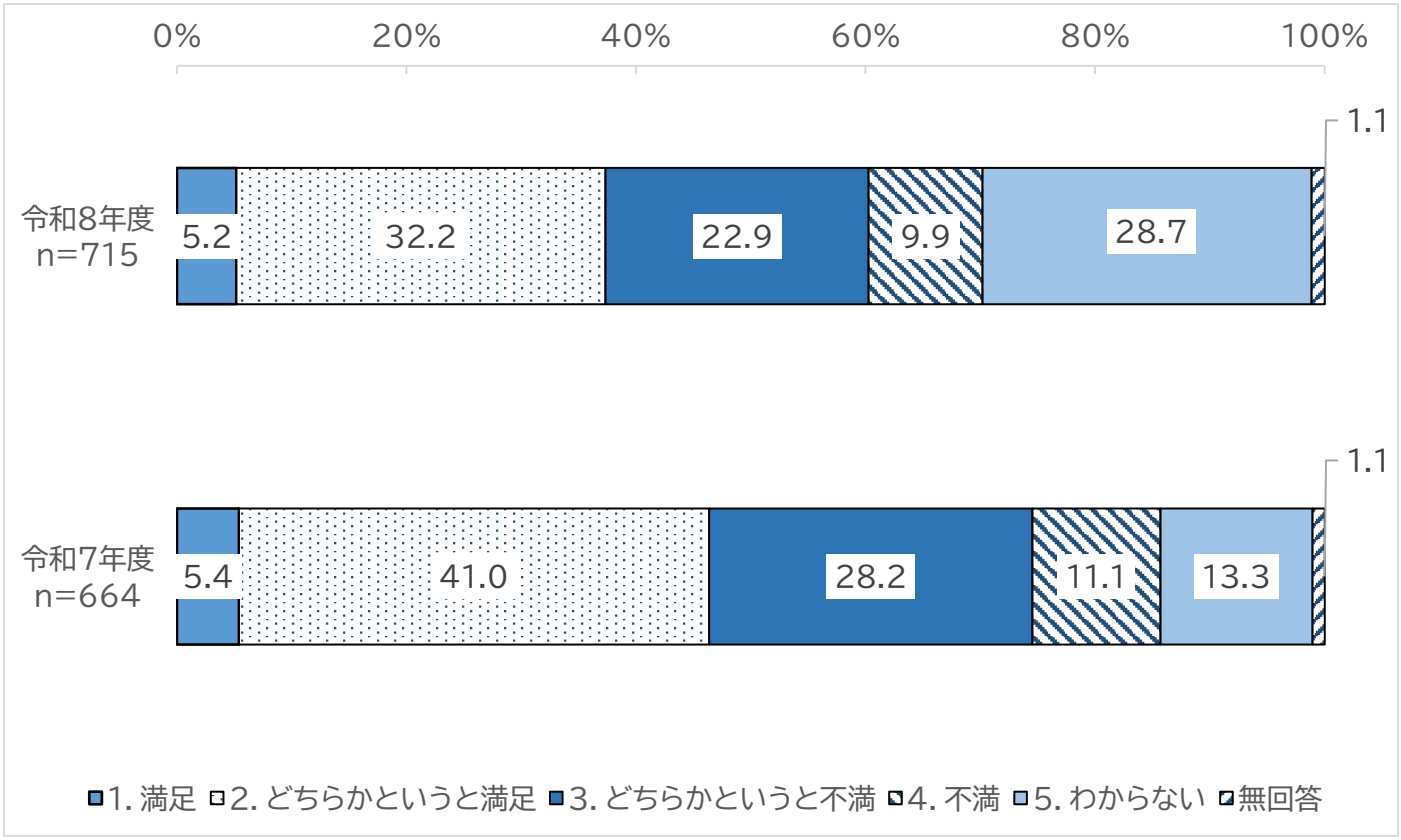
### ⑮生涯学習の充実



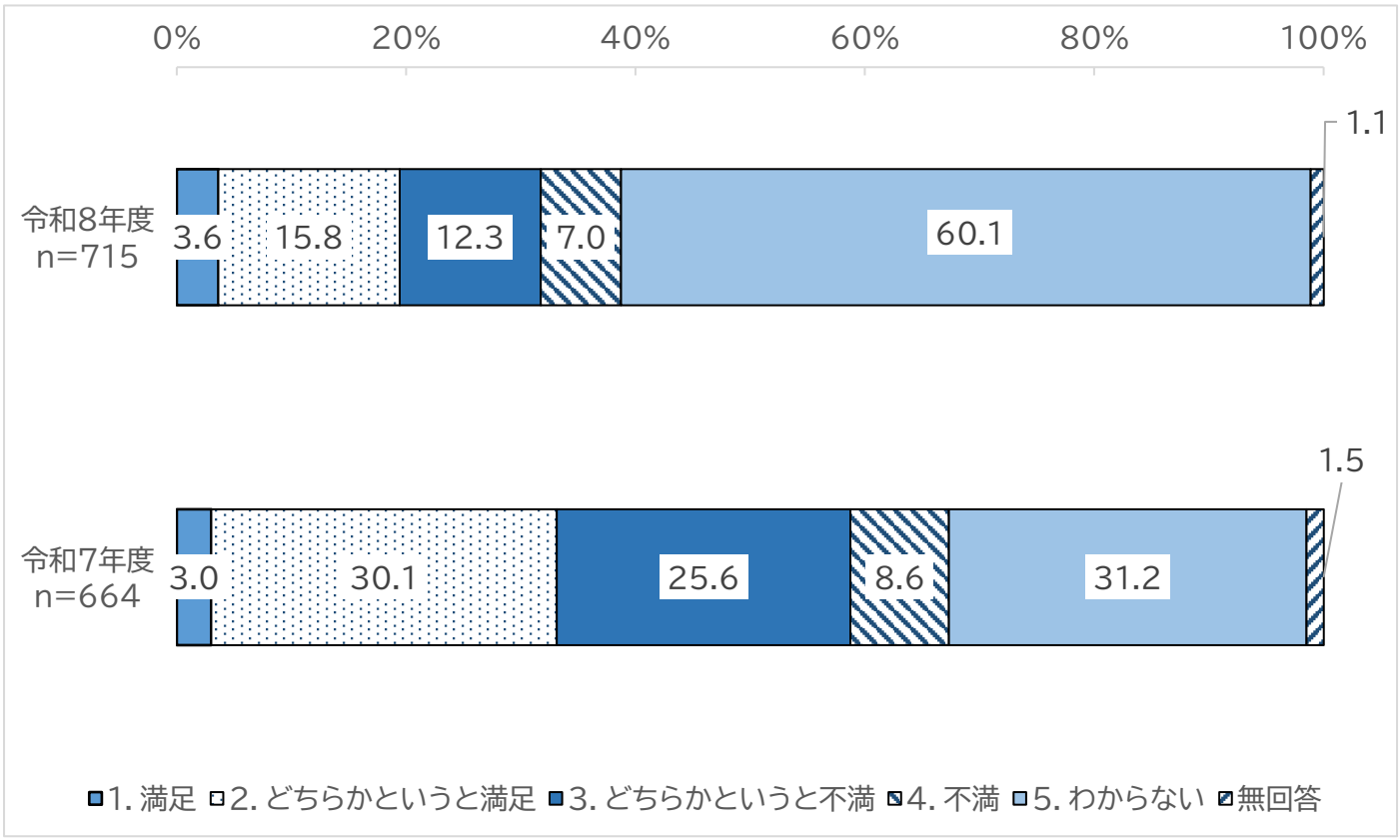

### ⑯青少年の健全育成



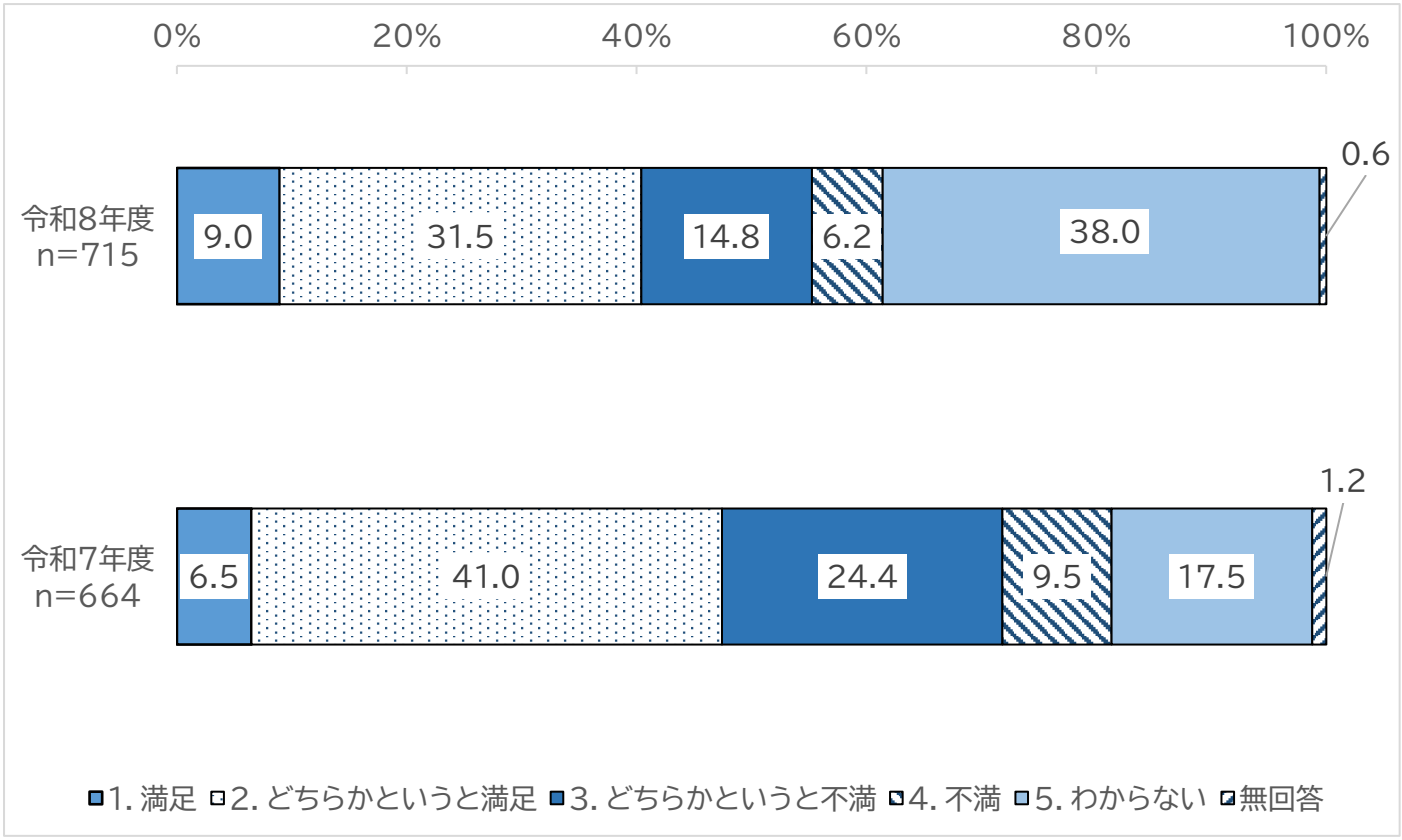
### ⑰文化・芸術・スポーツ活動や施設



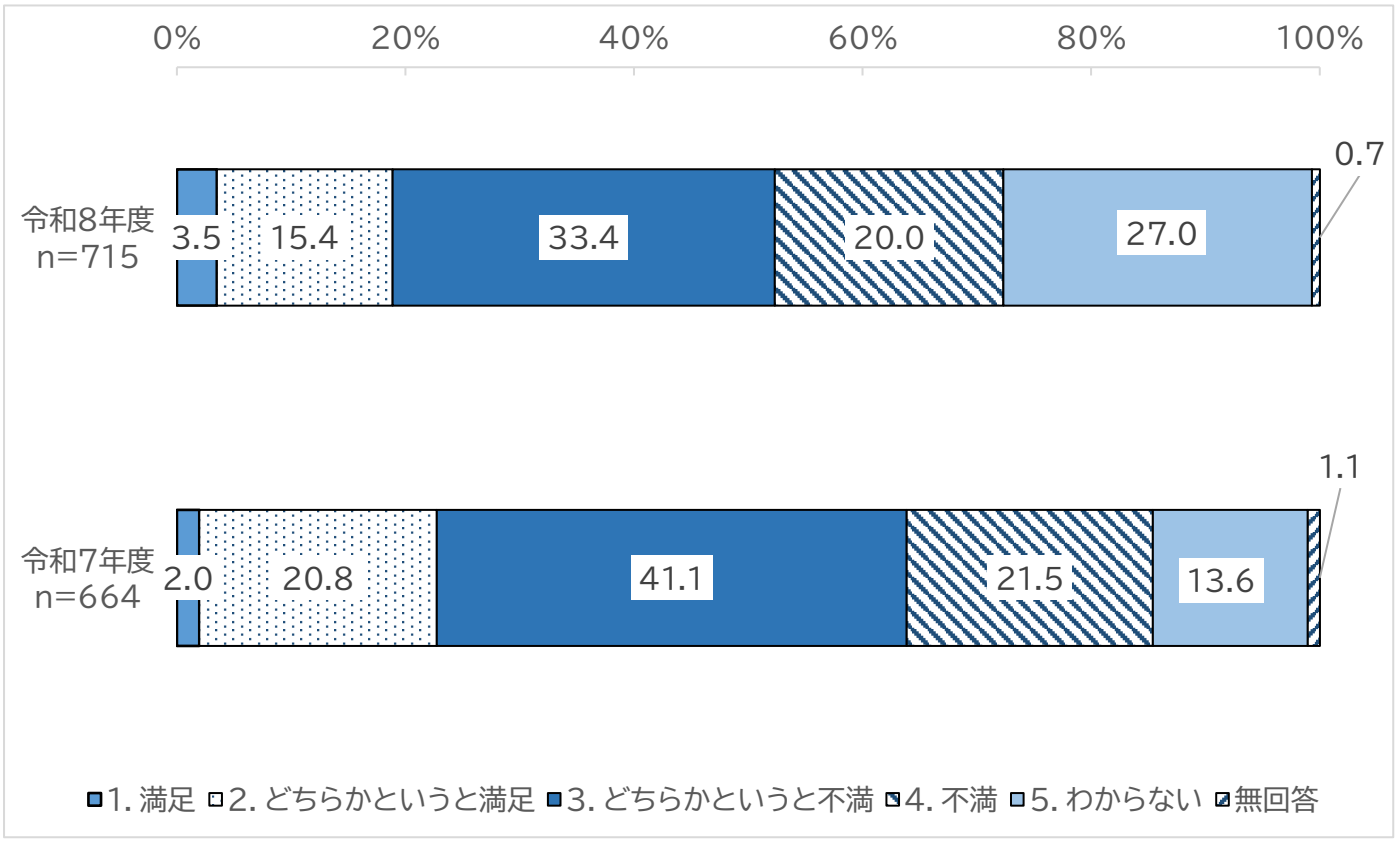

### ⑱国際化への対応（外国人へのサポート）



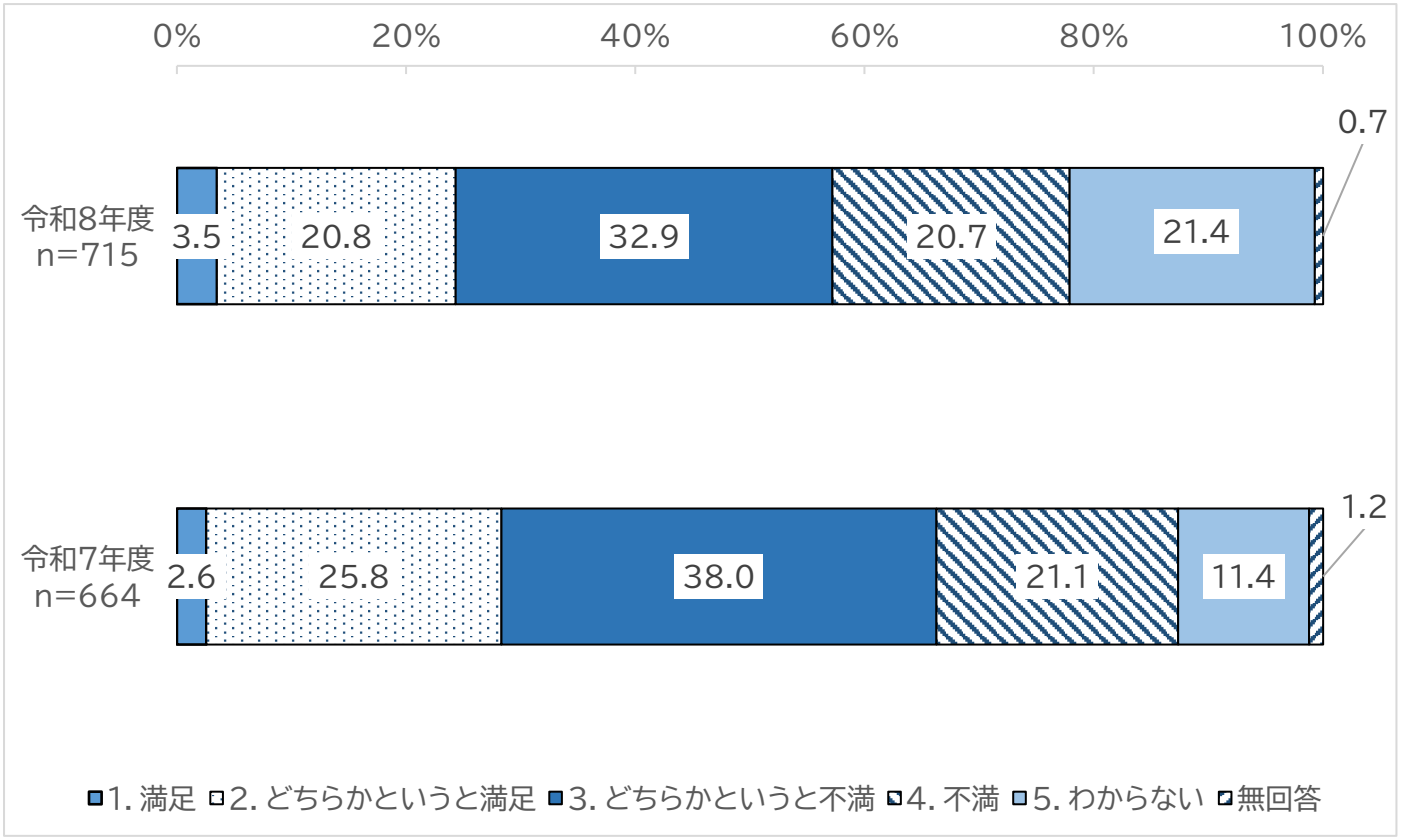
### ⑲農林水産業の振興



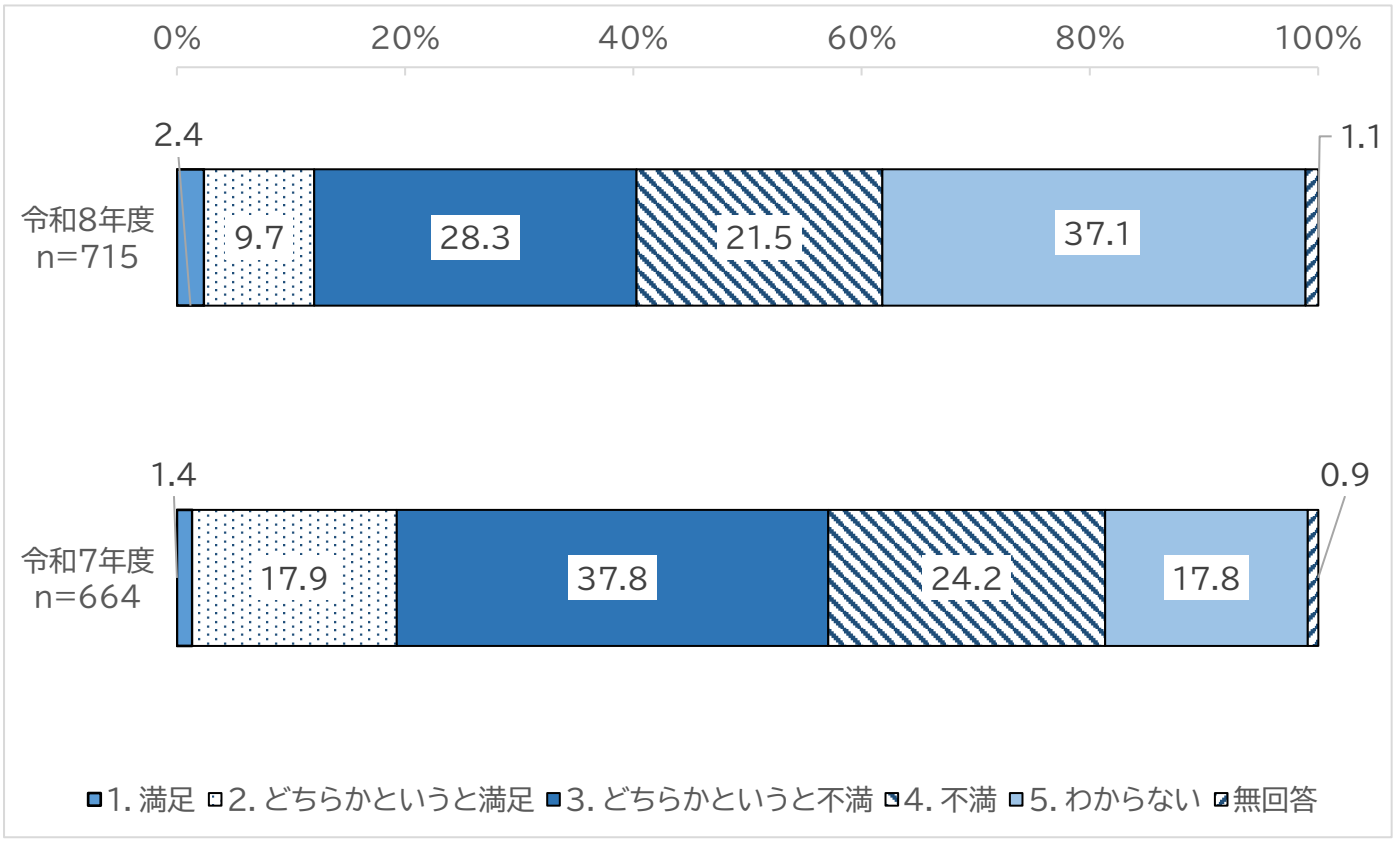

### ⑳商業の振興



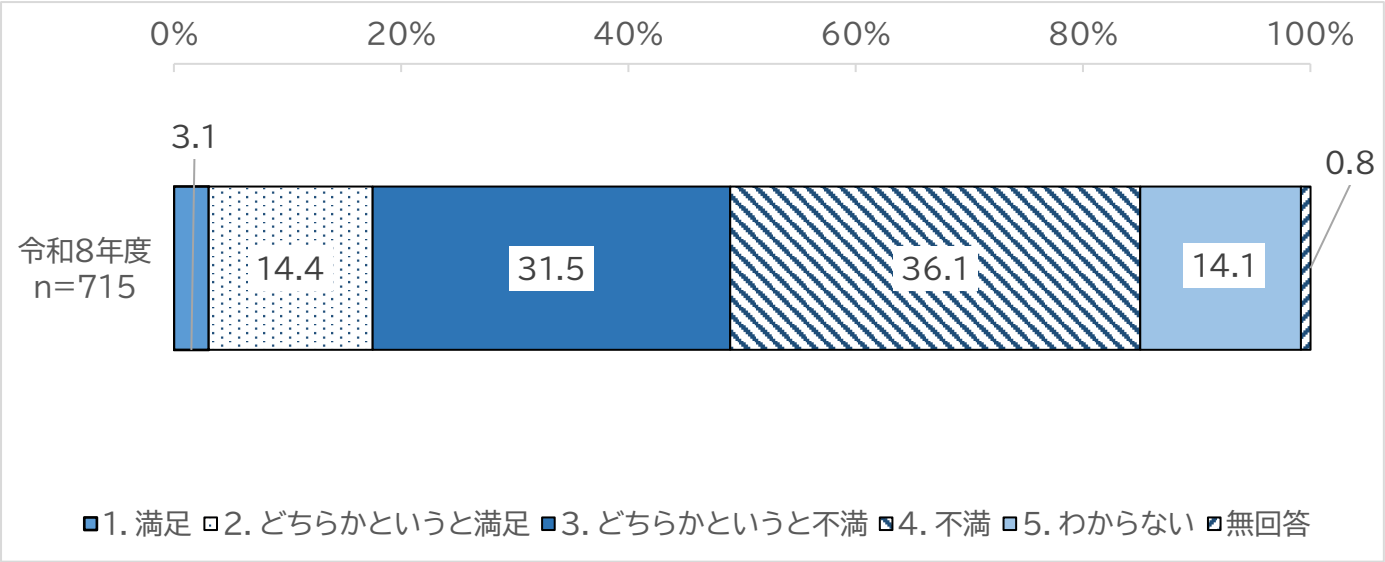
## ㉑観光の振興



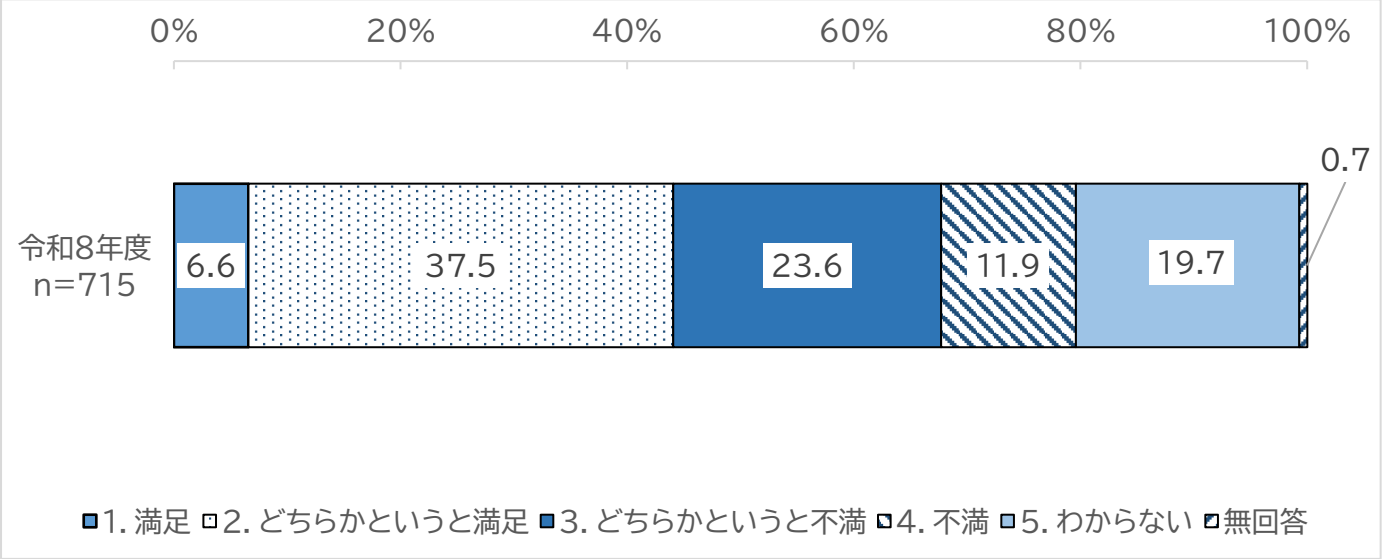

## ㉒雇用促進（商業支援）



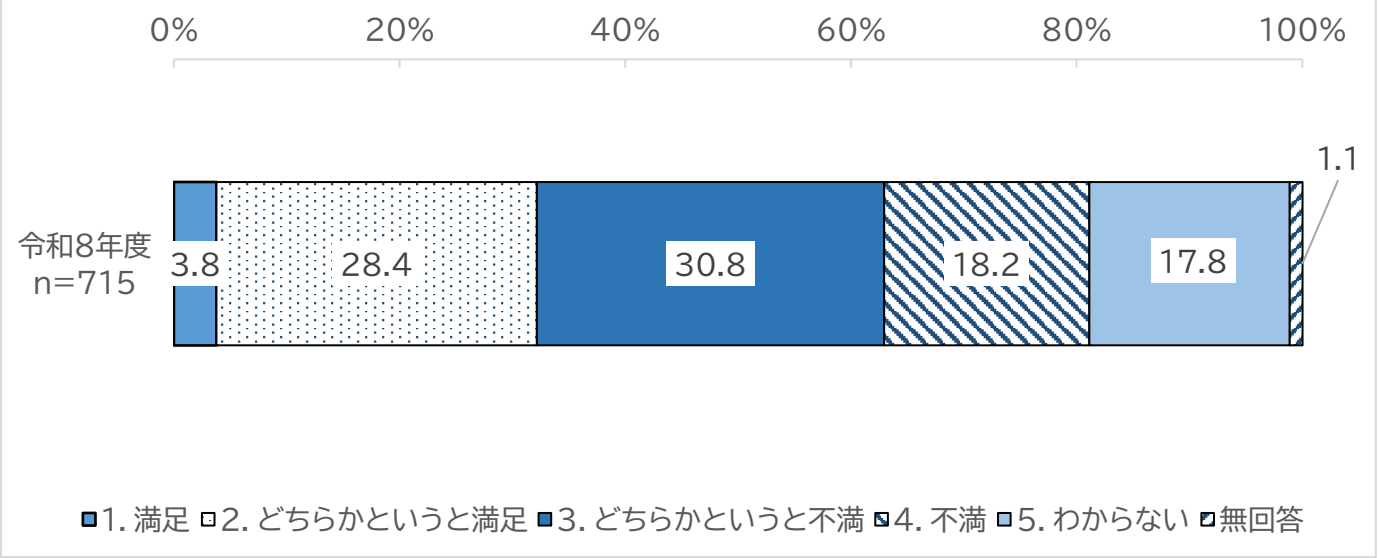
### ㉓市内の公共交通の整備状況




### ㉔市の行政サービス全般

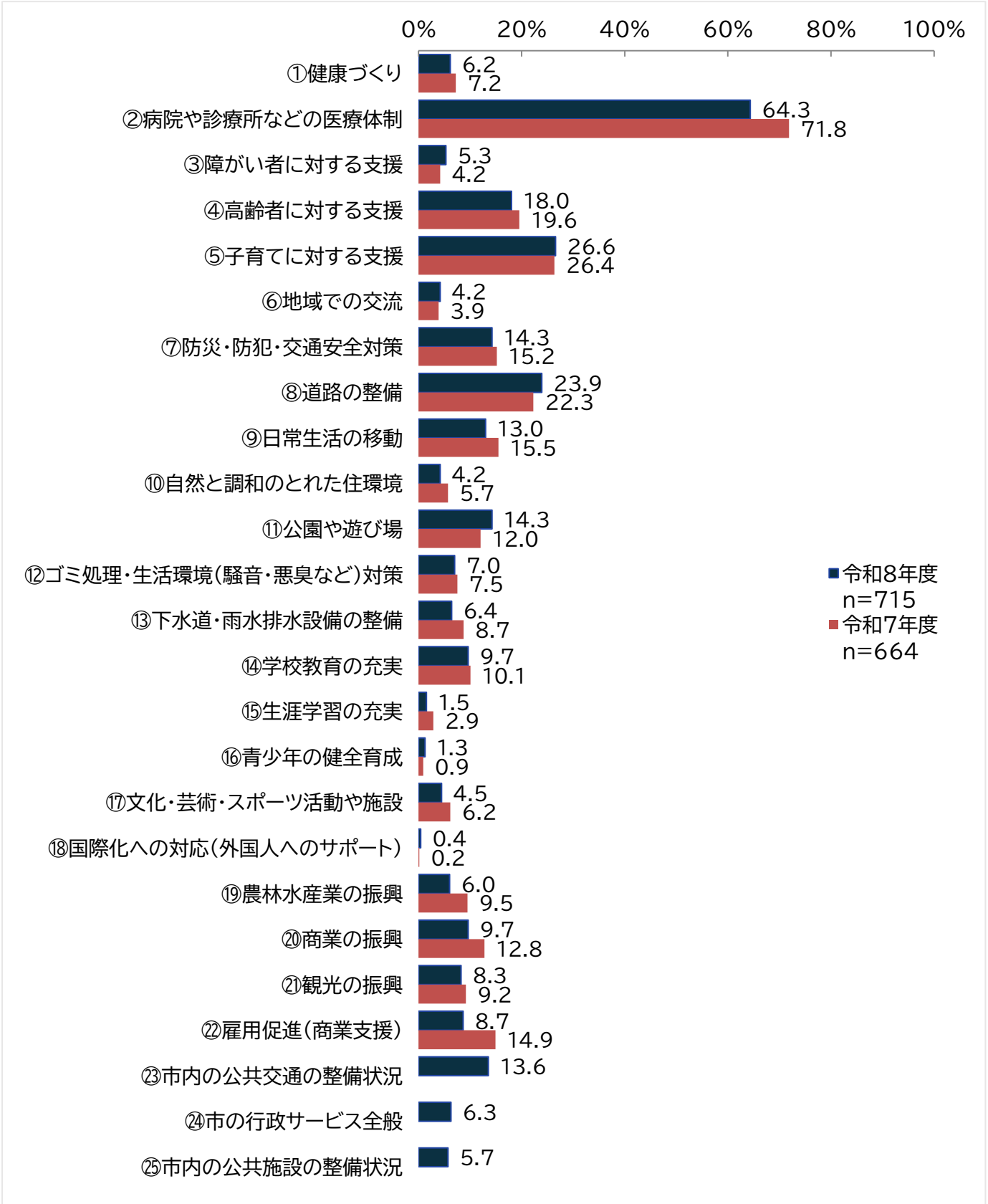



### ㉕市内の公共施設の整備状況



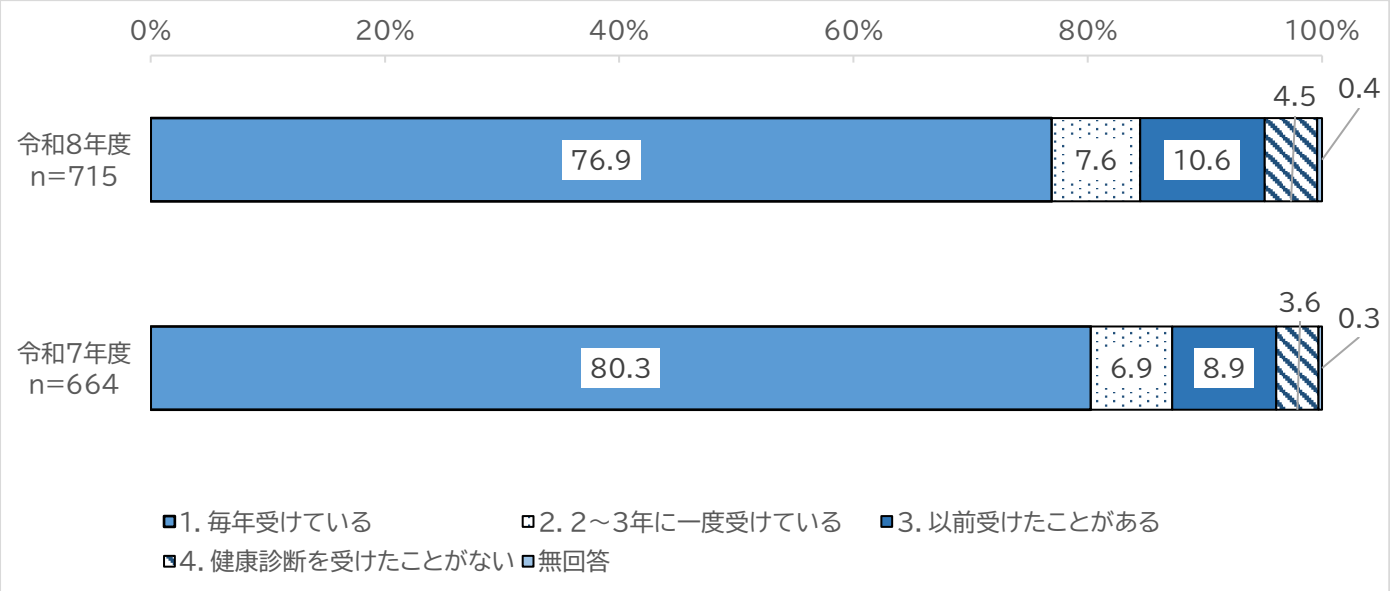
## 問8　今後、市に求める特に重要な取り組みについて（回答を3つまで）

- 重要度が高い分野
  「②病院や診療所などの医療体制」　64.3%（460 人）
  「⑤子育てに対する支援」　26.6%（190 人）
  「⑧道路の整備」　23.9%（171 人）



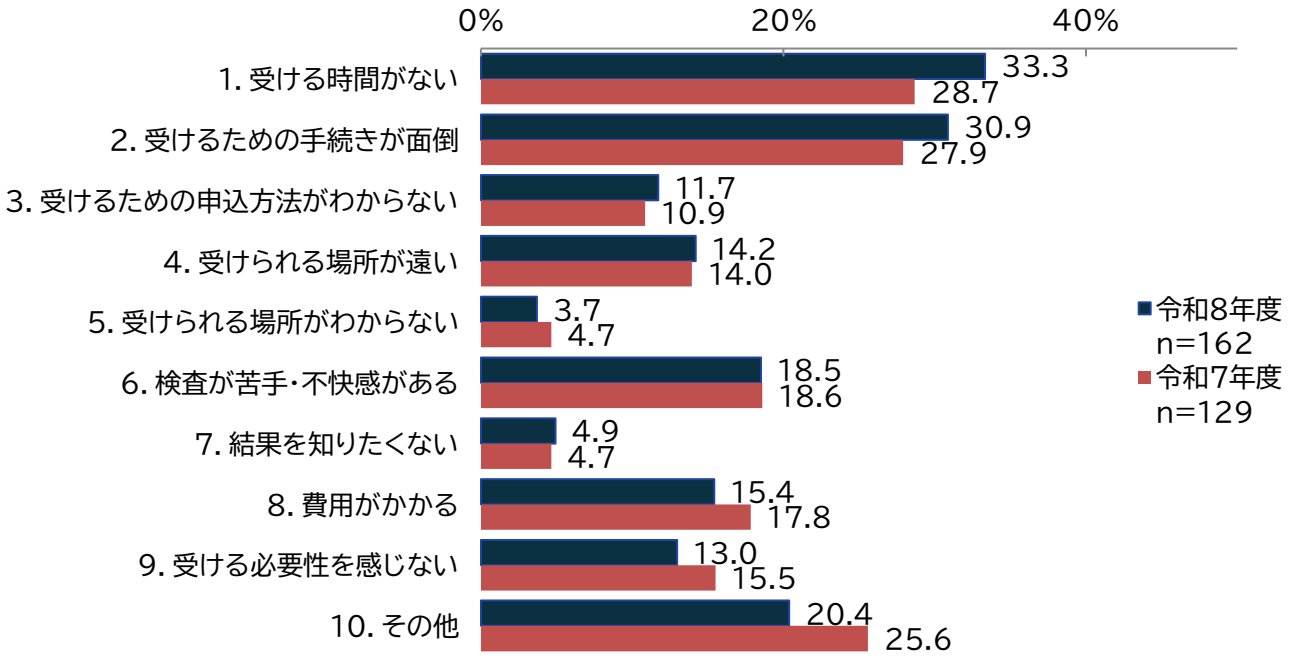
## 4. 健康・福祉について

### 問9　健康診断の受診状況について（回答を1つ）



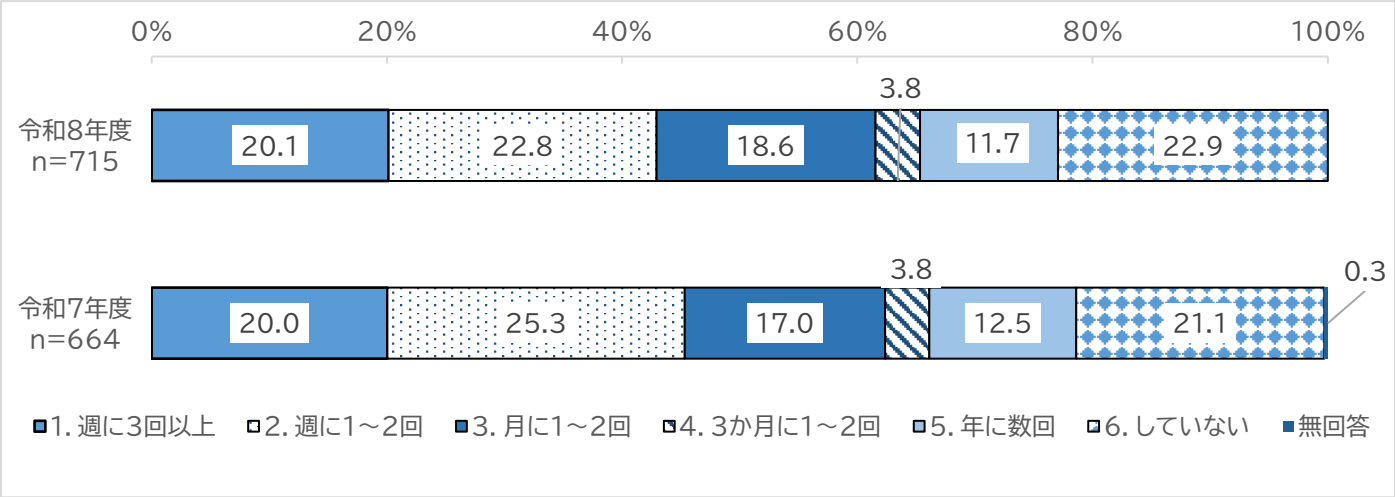

- 「1. 毎年受けている」（76.9%、550 人）と「2. 2～3 年に一度受けている」（7.6%、54 人）の合計が 84.5%となった。
- 同合計が 87.4%だった前回調査と比較すると減少している。

## 問10　健康診断を受診しない理由（回答を3つまで）



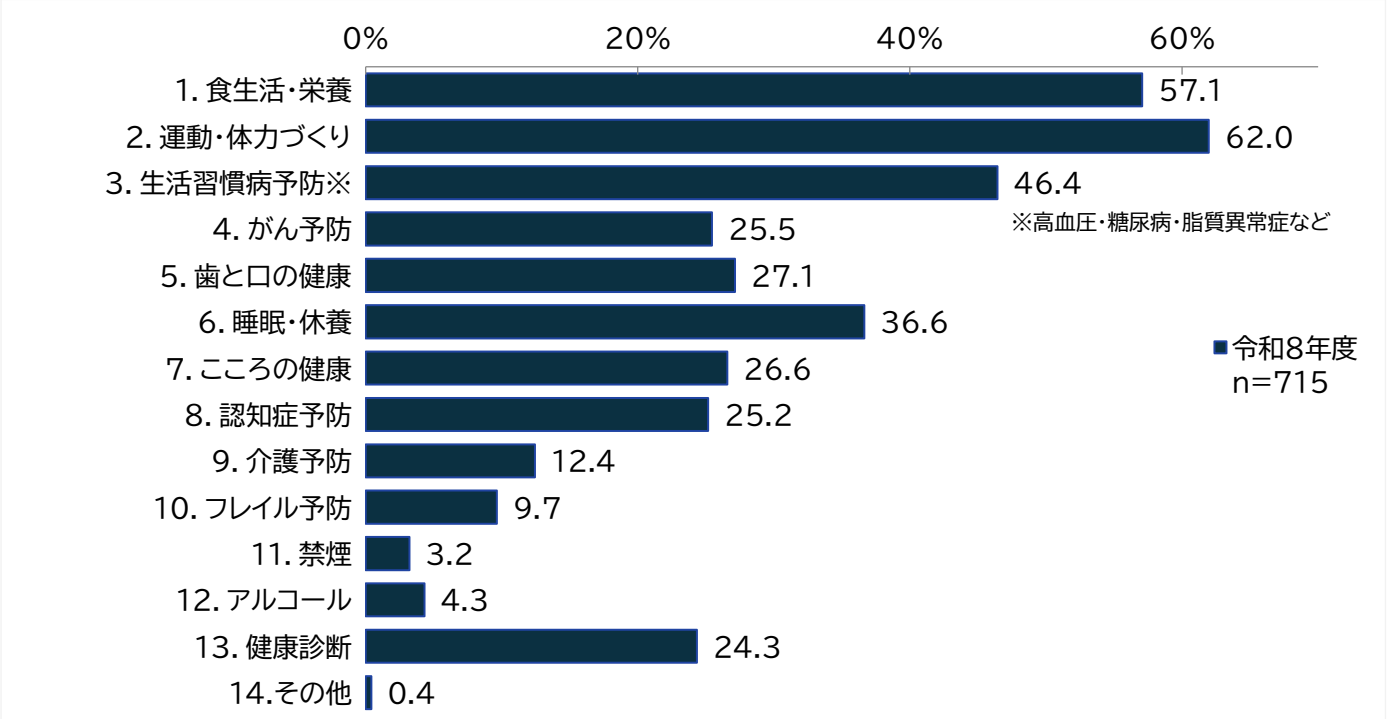

- 割合が最も高かったのは「1. 受ける時間がない」で 33.3%（54 人）であった。次いで「2. 受けるための手続きが面倒」が 30.9%（50 人）、「10. その他」が 20.4%（33 人）であった。
- 割合が最も低かったのは「5. 受けられる場所がわからない」であった。
- 前回調査と比較すると、いずれも同様の結果であった。

## 問11　この1年間にスポーツや運動をしたか（回答を1つ）



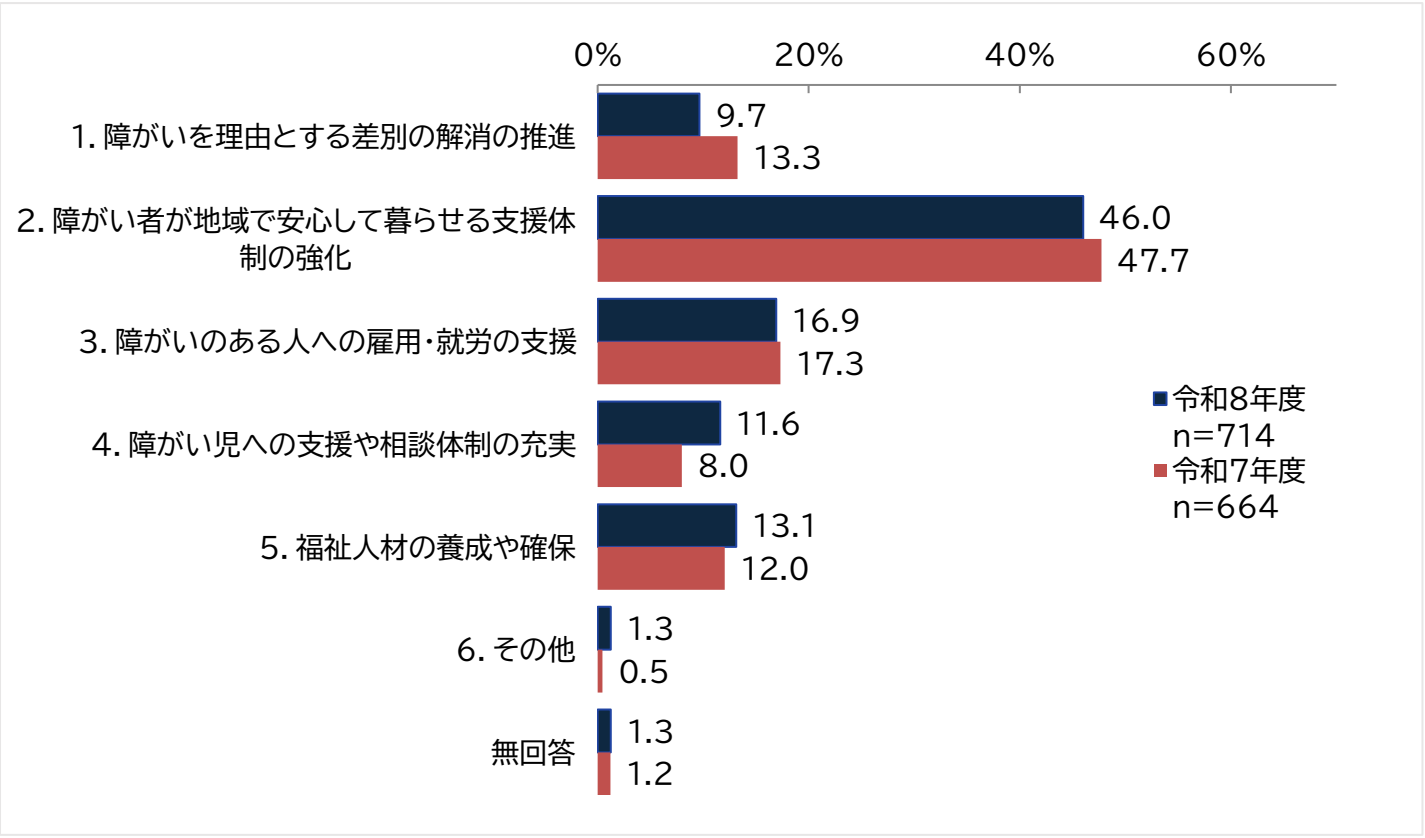

- 割合が最も高かったのは「6. していない」で 22.9%（164 人）であった。次いで「2. 週に 1～2 回」が 22.8%（163 人）、「1. 週に 3 回以上」が 20.1%（144 人）であった。
- 割合が最も低かったのは「4. 3 か月に 1～2 回」で 3.8%（27 人）であった。
- 前回調査で最も割合が高かったのは「2. 週に 1～2 回」であり、今回の調査とは異なる結果となった。

## 問12　健康づくりにおいて関心のある内容について（複数回答）



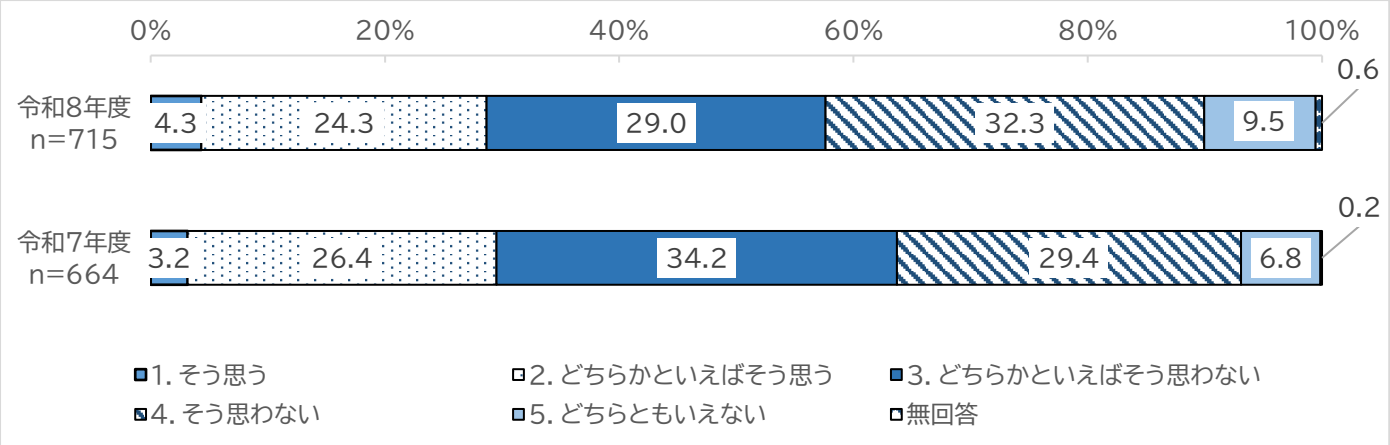

- 割合が最も高かったのは「2. 運動・体力づくり」で 62.0%（443 人）であった。次いで「1. 食生活・栄養」が 57.1%（408 人）、「3. 生活習慣病予防」が 46.4%（332 人）であった。割合が最も低かったのは「11. 禁煙」で 3.2%（23 人）であった（「14. その他」を除く）。
- なお、本設問は今回調査の新規項目のため前回調査のデータはない。

## 問13　障がい者福祉における重要な取り組みについて（回答を1つ）



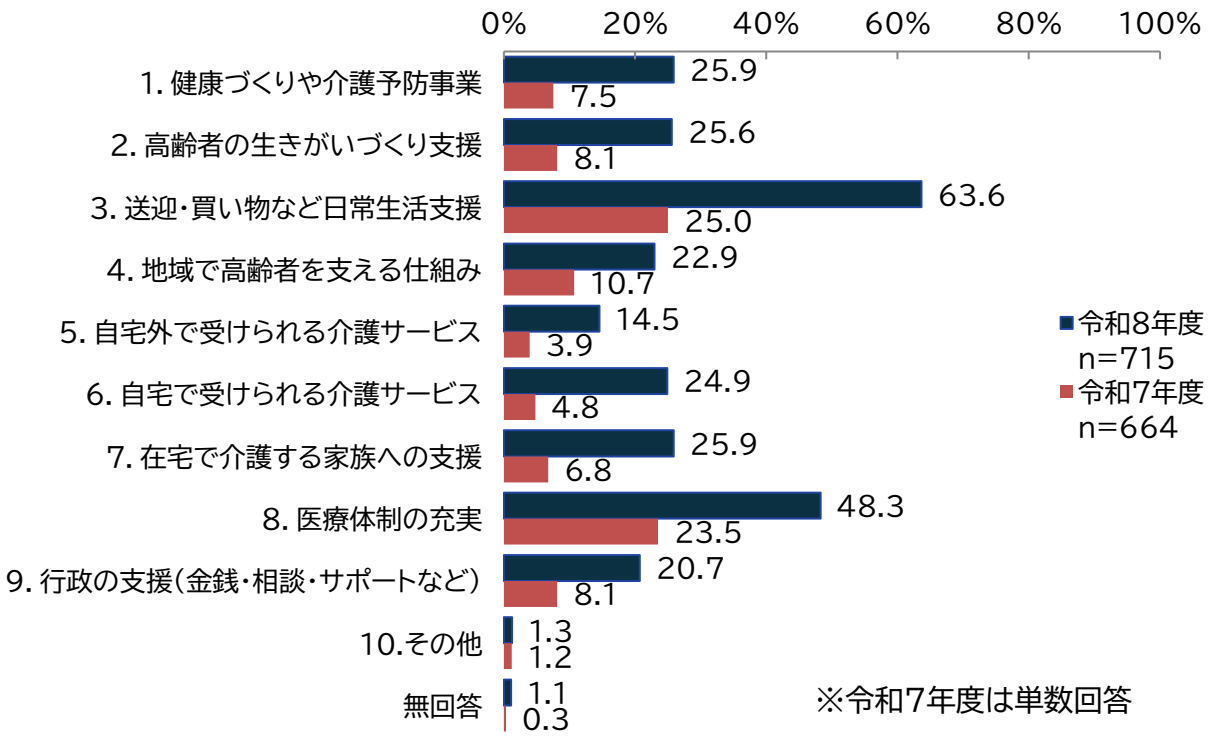

- 割合が最も高かったのは「2. 障がい者が地域で安心して暮らせる支援体制の強化」で 46.0%（329 人）であった。次いで「3. 障がいのある人への雇用・就労の支援」が 16.9%（121 人）、「5. 福祉人材の養成や確保」が 13.1%（94 人）であった。割合が最も低かったのは「1. 障がいを理由とする差別の解消の推進」で 9.7%（69 人）であった（「6. その他」および「無回答」を除く）。
- 前回調査でも同様に「2. 障がい者が地域で安心して暮らせる支援体制の強化」が最多であった。

## 問14　高齢者が安心して住み続けられる環境が整っていると思うか（回答を1つ）



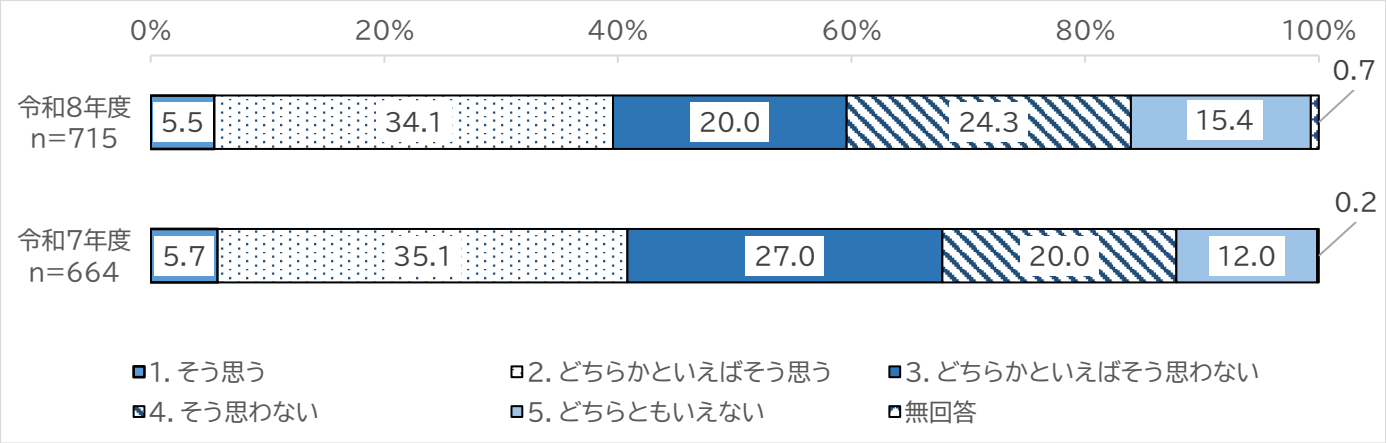

- 肯定的な回答である「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は 28.6%（205 人）であった。
- 否定的な回答である「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合は 61.3%（438 人）であった。

## 問15　高齢者が安心して住み続けられるための重要な取り組みについて（回答を3つまで）



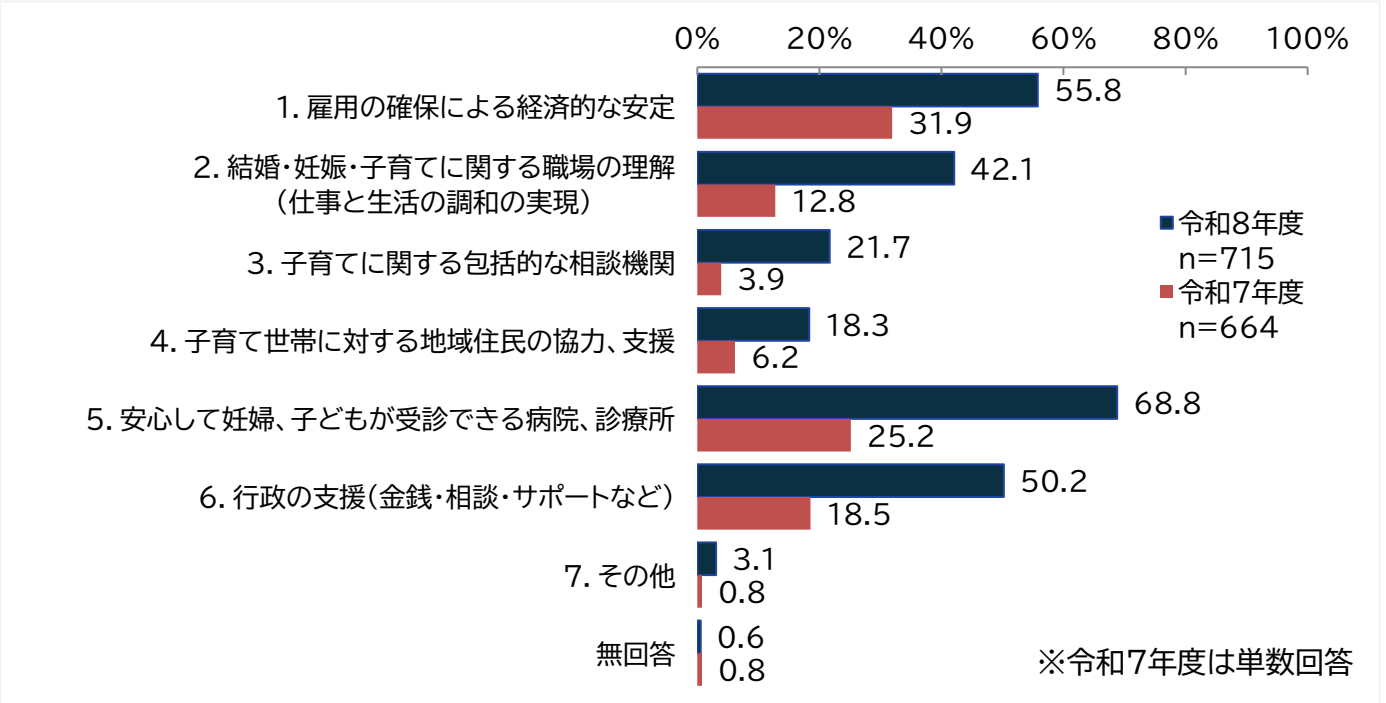

- 割合が最も高かったのは「3. 送迎・買い物など日常生活支援」で 63.6%（455 人）であり、次いで「8. 医療体制の充実」が 48.3%（345 人）、「1. 健康づくりや介護予防事業」および「7. 在宅で介護する家族への支援」がそれぞれ 25.9%（185 人）であった。
- 割合が最も低かったのは「5. 自宅外で受けられる介護サービス」で 14.5%（104 人）であった（「10. その他」および「無回答」を除く）。

## 問16　安心して子どもを産み育てられる環境が整っていると思うか（回答を1つ）




- 肯定的な回答である「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は 39.6%（283 人）であり、前回調査よりもわずかに減少している。
- 否定的な回答である「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合は 44.3%（317 人）であった。
- 前回調査と比較すると、同様に「2. どちらかといえばそう思う」が最多であった。

## 問17　安心して結婚・妊娠・子育てをするための重要な取り組みについて（回答を3つまで）

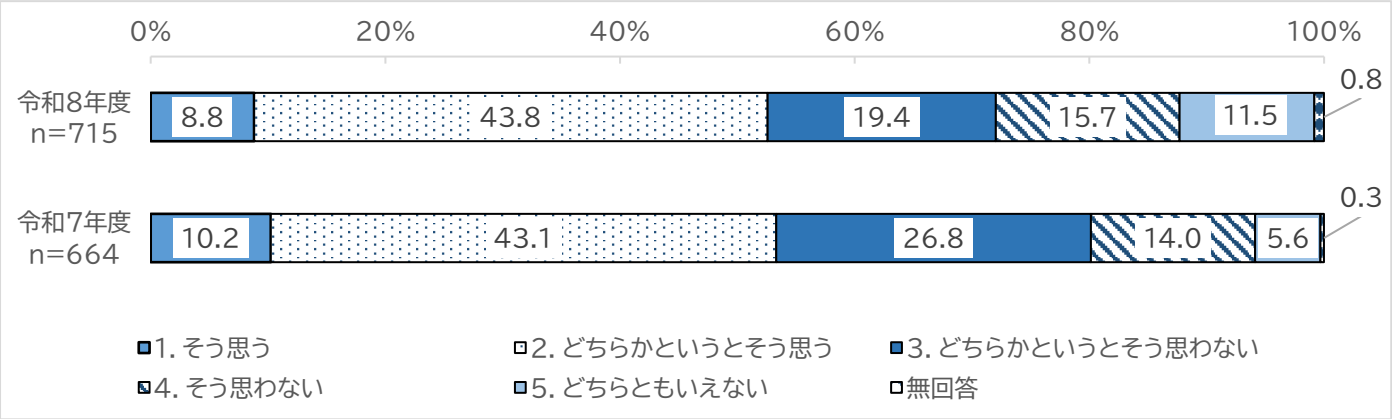



- 割合が最も高かったのは「5. 安心して妊婦、子どもが受診できる病院、診療所」で 68.8%（492 人）であった。次いで「1. 雇用の確保による経済的な安定」が 55.8%（399 人）、「6. 行政の支援（金銭・相談・サポートなど）」が 50.2%（359 人）であった。
- 前回調査と比較すると、最も割合が高かったのは「1. 雇用の確保による経済的な安定」であり、今回の調査とは異なる結果となった。

## 5. 生活環境について

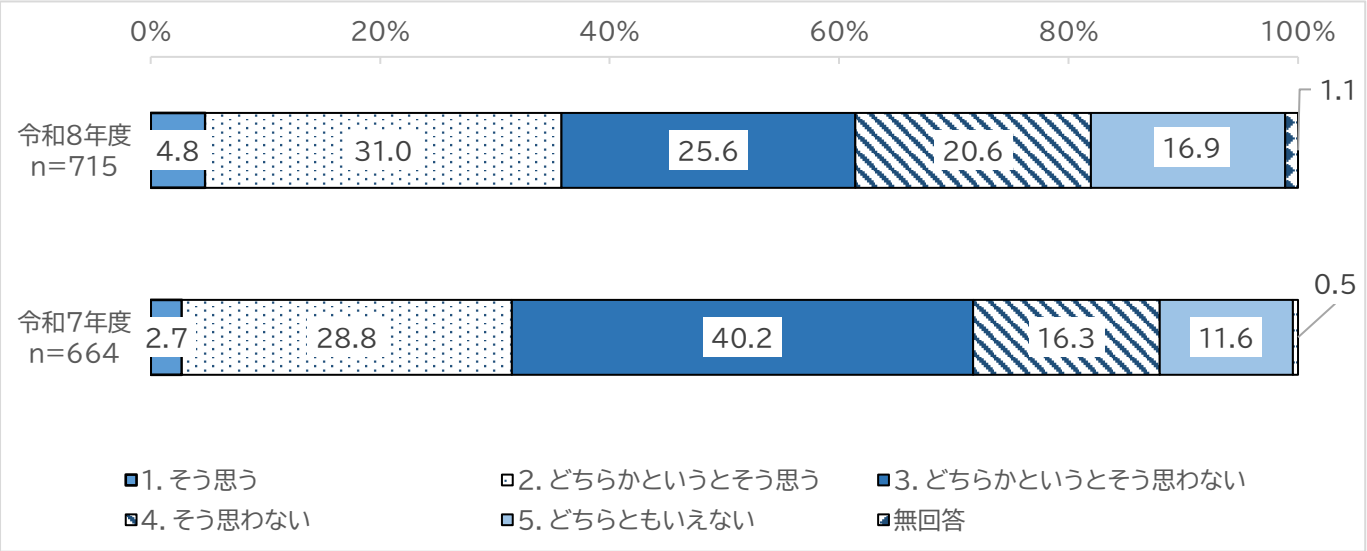
### 問18　住んでいる地区に対する意識について（項目ごとに回答を1つ）

#### ①近所付き合いや地域活動が活発である



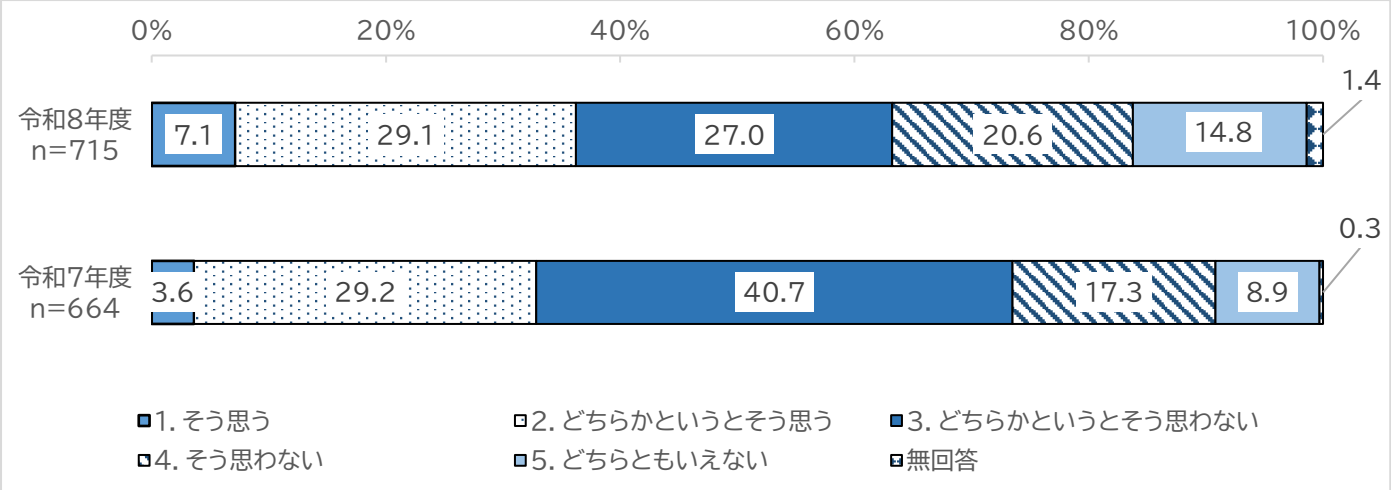

- 肯定的な回答である「そう思う」と「どちらかというとそう思う」を合わせた割合は 52.6%（376 人）であり、否定的な回答である「そう思わない」と「どちらかというとそう思わない」を合わせた割合は 35.1%（251 人）であった。前回調査より否定的な回答が減少している。
- 前回調査と比較すると、同様に「2. どちらかというとそう思う」の割合が最も高かった。

#### ②困っている人を助ける仕組みができている



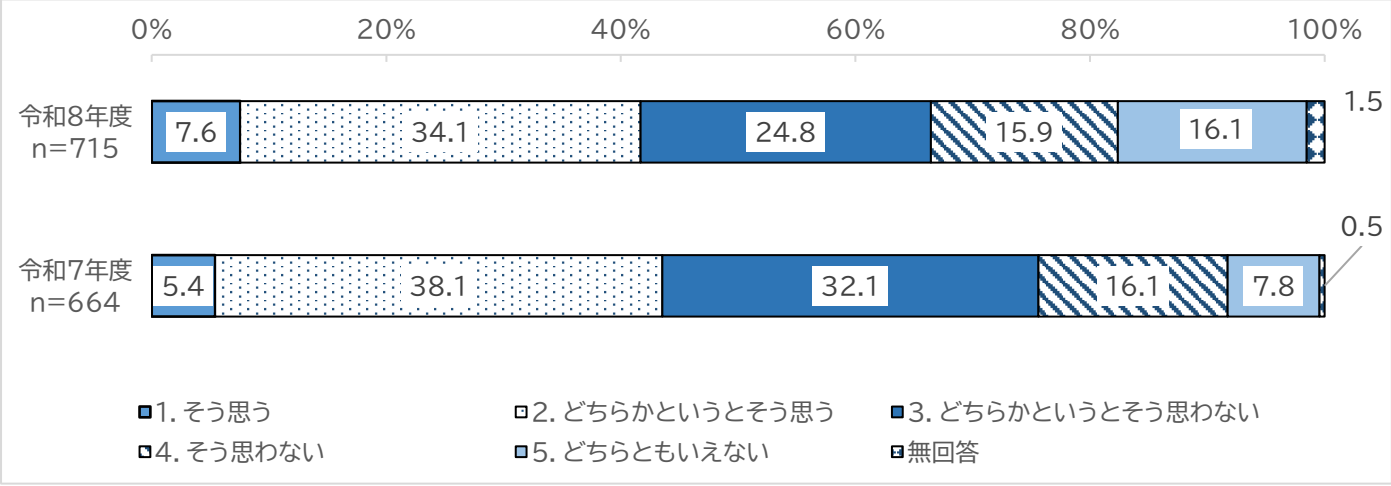

- 肯定的な回答である「そう思う」と「どちらかというとそう思う」を合わせた割合は 35.8%（256 人）であり、否定的な回答である「そう思わない」と「どちらかというとそう思わない」を合わせた割合は 46.2%（330 人）であった。前回調査より肯定的な回答が増加している。
- 前回調査で最も割合が高かったのは「3. どちらかというとそう思わない」であり、今回調査とは異なる結果となった。

### ③日頃から防犯のための目配りができている



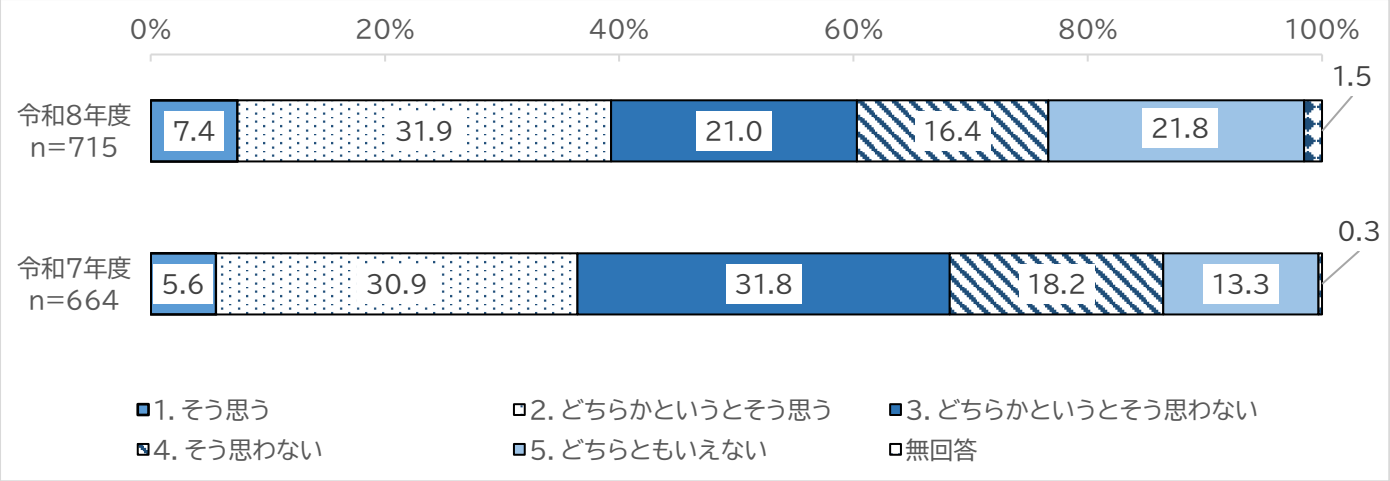

- 肯定的な回答である「そう思う」と「どちらかというとそう思う」を合わせた割合は 36.2%（259 人）であり、否定的な回答である「そう思わない」と「どちらかというとそう思わない」を合わせた割合は 47.6%（340 人）であった。前回調査より肯定的な回答が増加している。
- 前回調査で最も割合が高かったのは「3. どちらかというとそう思わない」であり、今回調査とは異なる結果となった。

### ④環境美化活動に熱心である



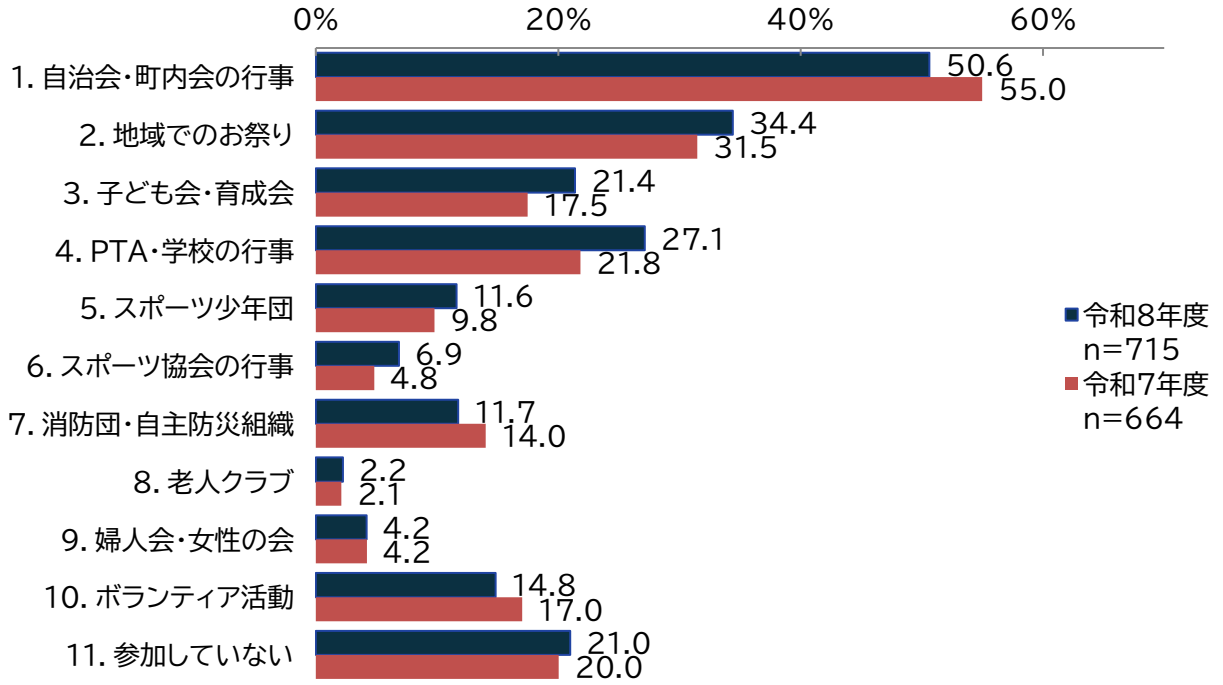

- 肯定的な回答である「そう思う」と「どちらかというとそう思う」を合わせた割合は 41.7%（298 人）であり、否定的な回答である「そう思わない」と「どちらかというとそう思わない」を合わせた割合は 40.7%（291 人）であった。前回調査より否定的な回答が減少している。
- 前回調査と同様に「2. どちらかというとそう思う」の割合が最も高かった。

### ⑤性別に関係なく社会進出(参加)ができている



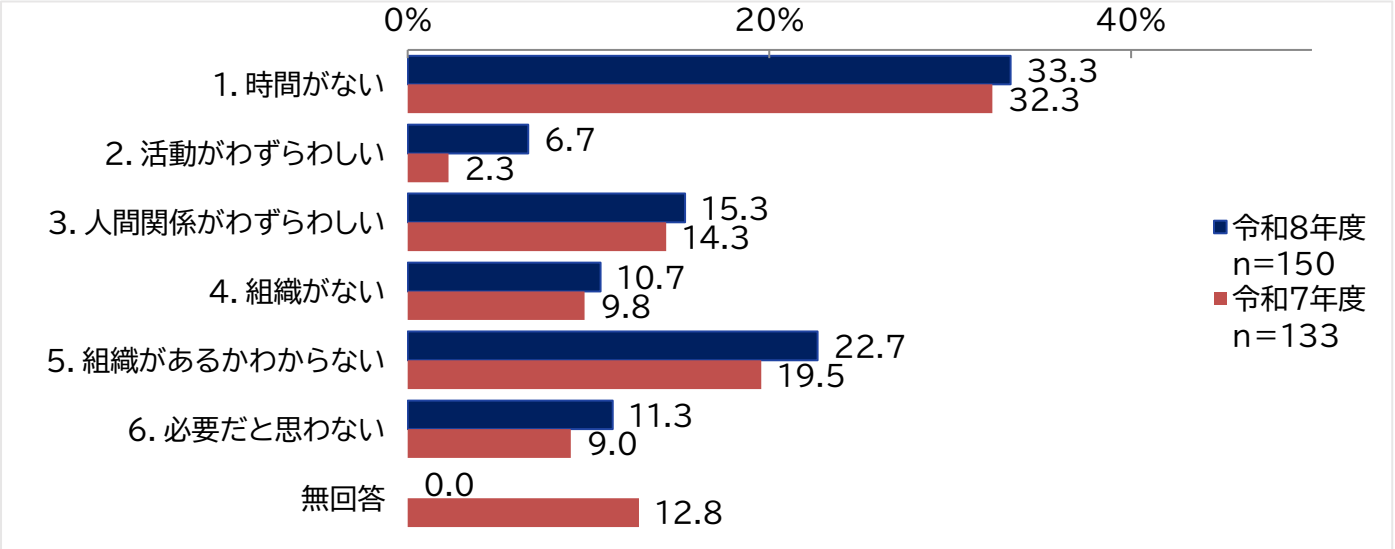

- 肯定的な回答である「そう思う」と「どちらかというとそう思う」を合わせた割合は 39.3%(281 人)であり、否定的な回答である「そう思わない」と「どちらかというとそう思わない」を合わせた割合は 37.4%(267 人)であった。前回調査より否定的な回答が大きく減少している。
- 前回調査と比較すると、最も割合が高かったのは「3. どちらかというとそう思わない」であり、今回調査とは異なる結果となった。

## 問19　地域活動への参加状況について（複数回答）




- 割合が最も高かったのは「1. 自治会・町内会の行事」で 50.6%（362 人）であった。次いで「2. 地域でのお祭り」が 34.4%（246 人）、「4. PTA・学校の行事」が 27.1%（194 人）となっている。
- 前回調査と比較すると、いずれも同様の結果であった。

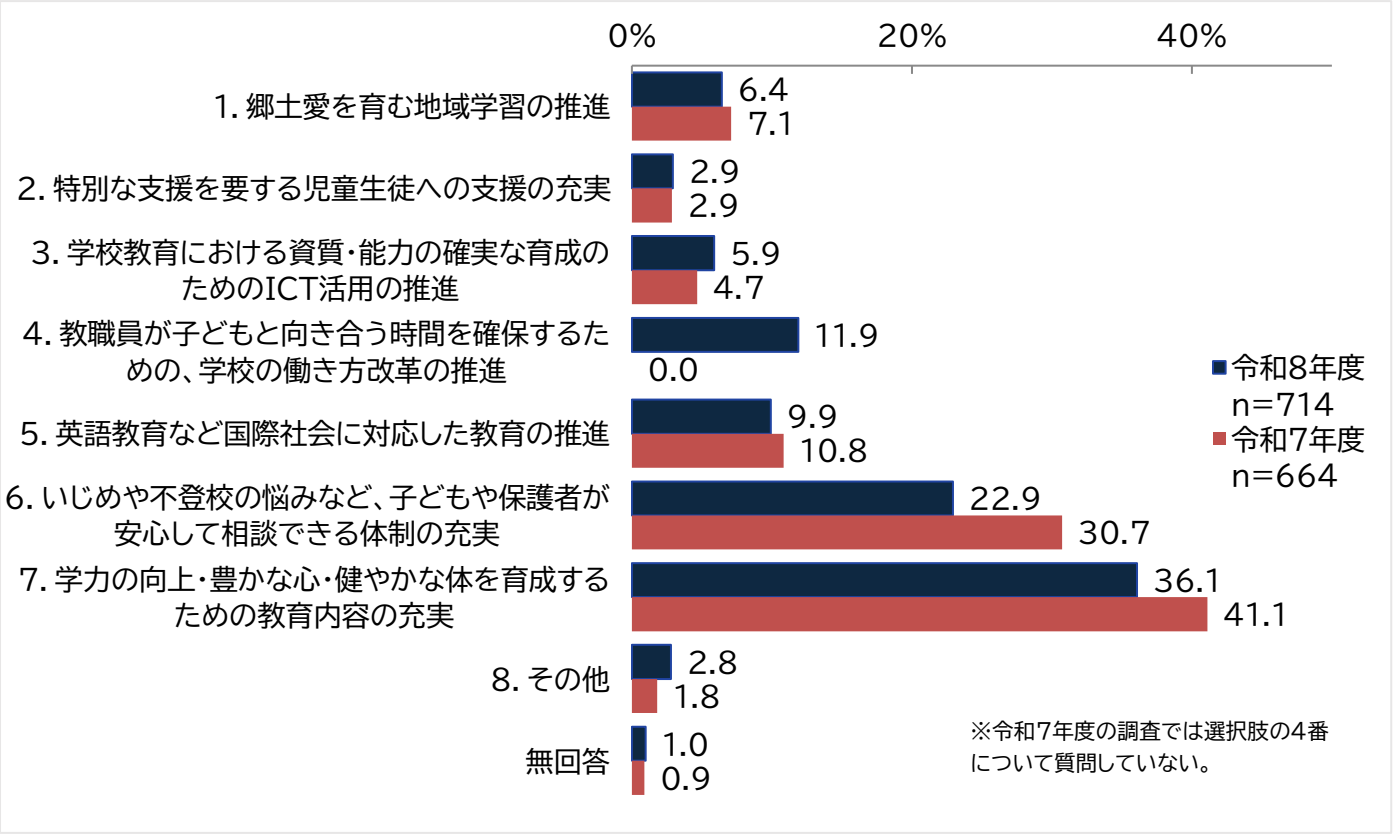
## 問20　地域活動に参加していない理由（回答を1つ）




- 割合が最も高かったのは「1. 時間がない」で 33.3%（50 人）であった。次いで「5. 組織があるかわからない」が 22.7%（34 人）、「3. 人間関係がわずらわしい」が 15.3%（23 人）であった。割合が最も低かったのは「2. 活動がわずらわしい」で 6.7%（10 人）であった（「無回答」を除く）。
- 前回調査と比較すると、いずれも同様の結果であった。

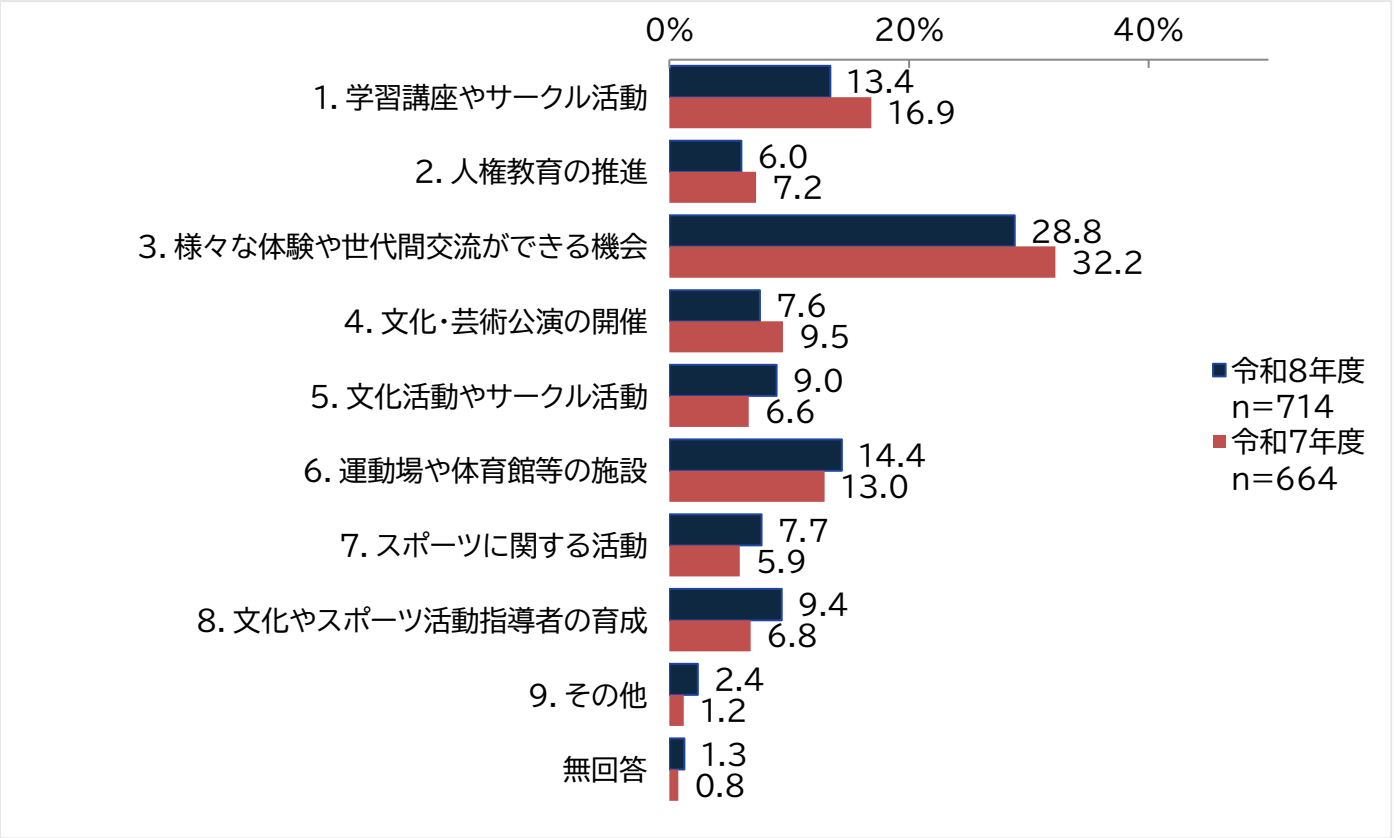
## 6. 教育・文化について

### 問21　学校教育における重要な取り組みについて（回答を1つ）




- 割合が最も高かったのは「7. 学力の向上・豊かな心・健やかな体を育成するための教育内容の充実」で 36.1%（258 人）であった。次いで「6. いじめや不登校の悩みなど、子どもや保護者が安心して相談できる体制の充実」が 22.9%（164 人）、「4. 教職員が子どもと向き合う時間を確保するための、学校の働き方改革の推進」が 11.9%（85 人）であった。これら 3 項目を合計すると 7 割を超える。
- 前回調査と同様に「7. 学力の向上・豊かな心・健やかな体を育成するための教育内容の充実」が最多であった。また、割合が最も低かった項目についても、同様に「2. 特別な支援を要する児童生徒への支援の充実」が最少であった。
- なお、「4. 教職員が子どもと向き合う時間を確保するための、学校の働き方改革の推進」は今回調査から追加された新規項目のため、前回調査のデータは存在しない。

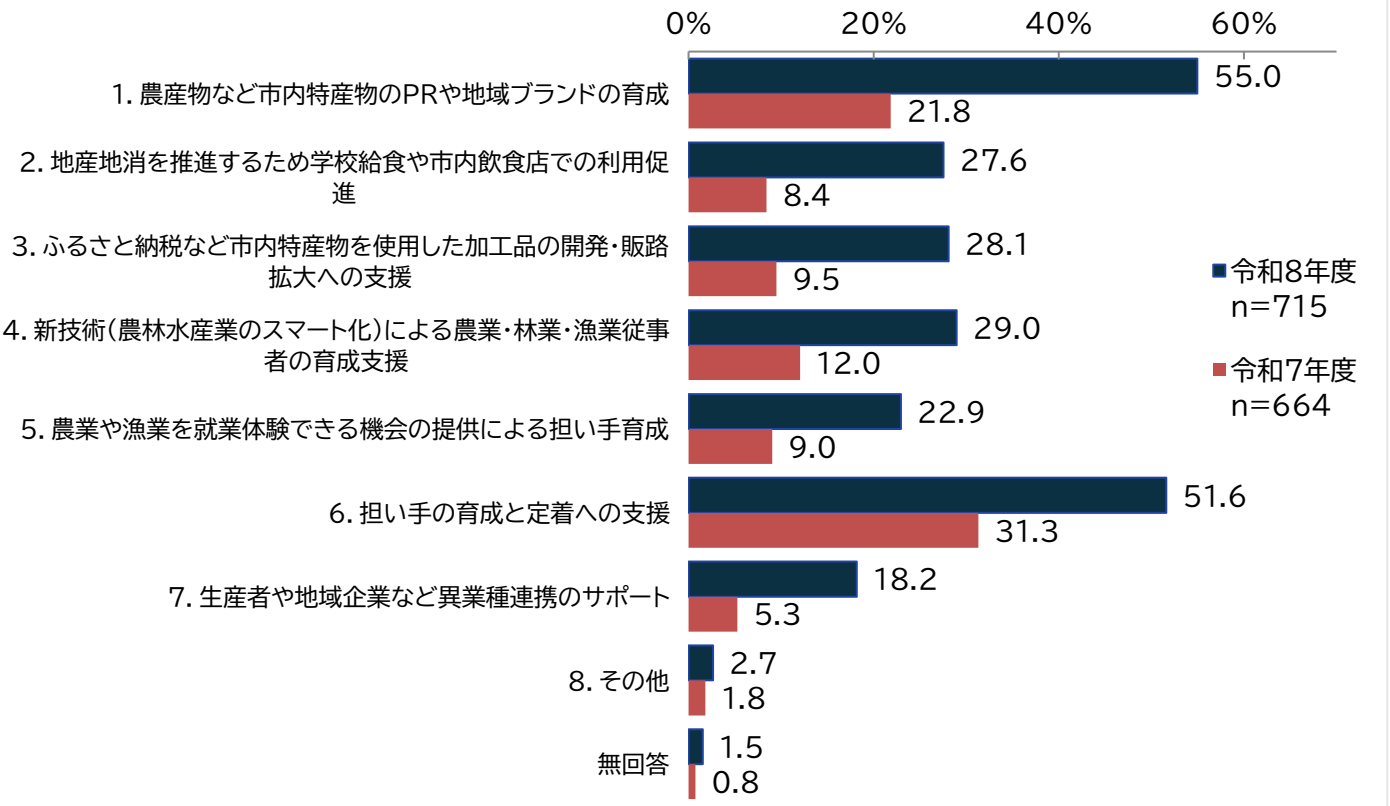
## 問22　生涯学習・文化・スポーツ振興における重要な取り組みについて（回答を1つ）




- 割合が最も高かったのは「3. 様々な体験や世代間交流ができる機会」で 28.8%（206 人）であった。次いで「6. 運動場や体育館等の施設」が 14.4%（103 人）、「1. 学習講座やサークル活動」が 13.4%（96 人）であった。割合が最も低かったのは「2. 人権教育の推進」で 6.0%（43 人）であった（「9. その他」および「無回答」を除く）。
- 前回調査と比較すると、同様に「3. 様々な体験や世代間交流ができる機会」が最多であった。また、割合が最も低かった項目についても、同様に「2. 人権教育の推進」が最少であった。

## 7. 産業について

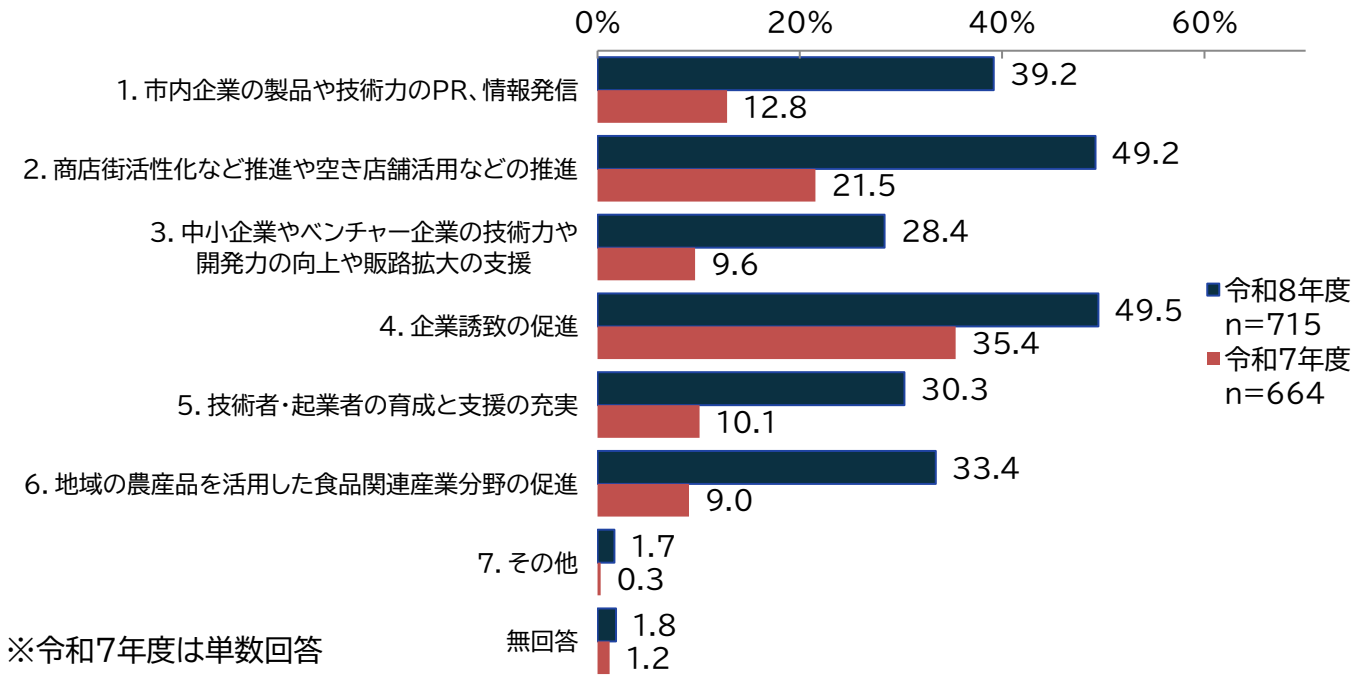
### 問23　農林水産業の振興における重要な取り組みについて（回答を3つまで）




※令和7年度は単数回答

- 割合が最も高かったのは「1. 農産物など市内特産物の PR や地域ブランドの育成」で 55.0%（393 人）であった。次いで「6. 担い手の育成と定着への支援」が 51.6%（369 人）であった。
- 前回調査では「6. 担い手の育成と定着への支援」が最も高くなっており、異なる調査結果となった。
- 割合が最も低かったのは「7. 生産者や地域企業など異業種連携のサポート」で18.2%（130 人）であった（「8. その他」および「無回答」を除く）。
- なお今回調査では複数選択であり、前回調査では単一選択調査であったことから、異なる結果となっている。

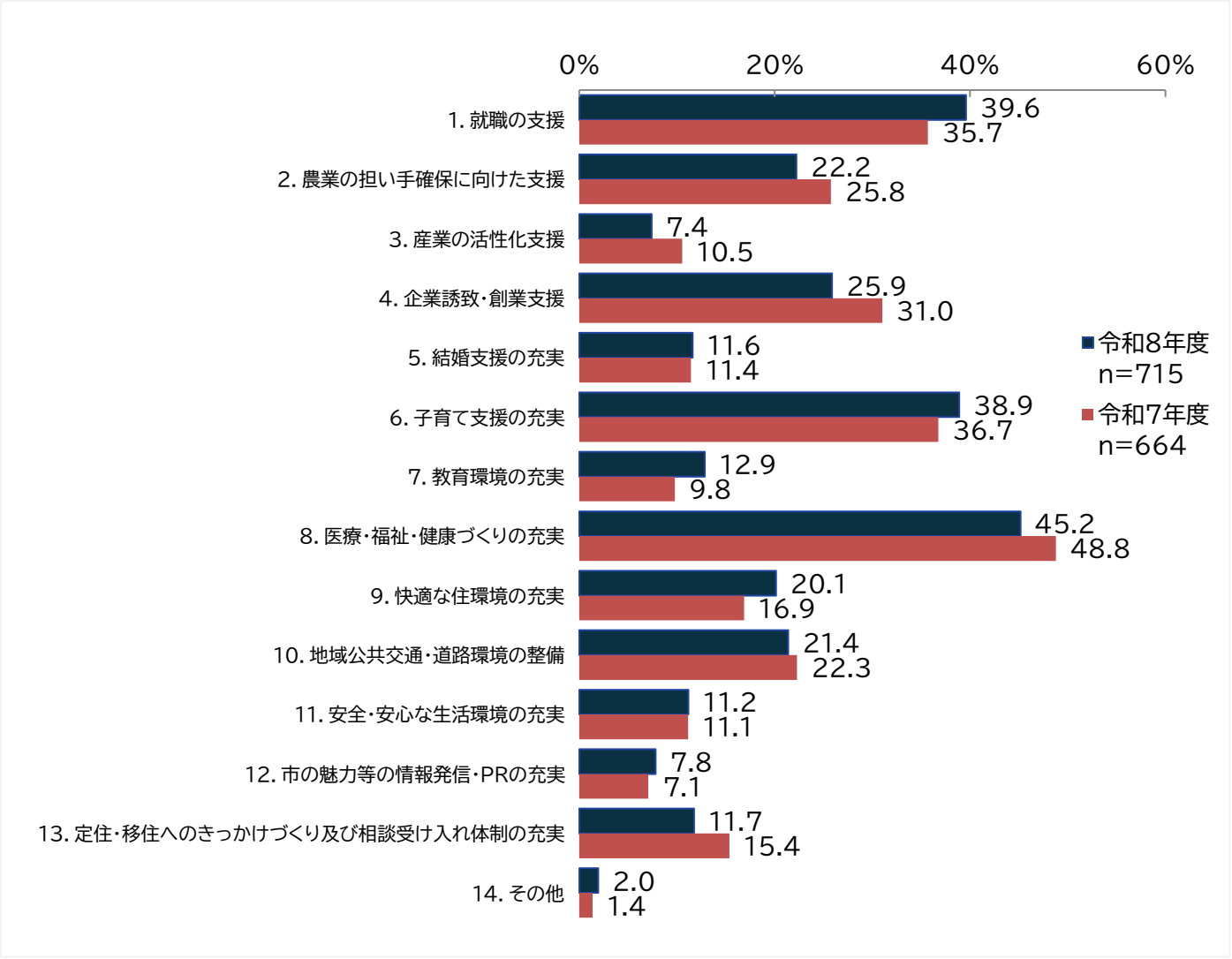
## 問24　商工業の振興における重要な取り組みについて（回答を3つまで）




- 割合が最も高かったのは「4. 企業誘致の促進」で 49.5%（354 人）であった。次いで「2. 商店街活性化など推進や空き店舗活用などの推進」が 49.2%（352 人）、「1. 市内企業の製品や技術力の PR、情報発信」が 39.2%（280 人）であった。ほぼすべての項目で選択率が 30%を超えている。
- 割合が最も低かったのは「3. 中小企業やベンチャー企業の技術力や開発力の向上や販路拡大の支援」で 28.4%（203 人）であった（「7. その他」および「無回答」を除く）。
- なお今回調査では複数選択であり、前回調査では単一選択調査であったことから、異なる結果となっている。

## 8. 定住・移住の促進について

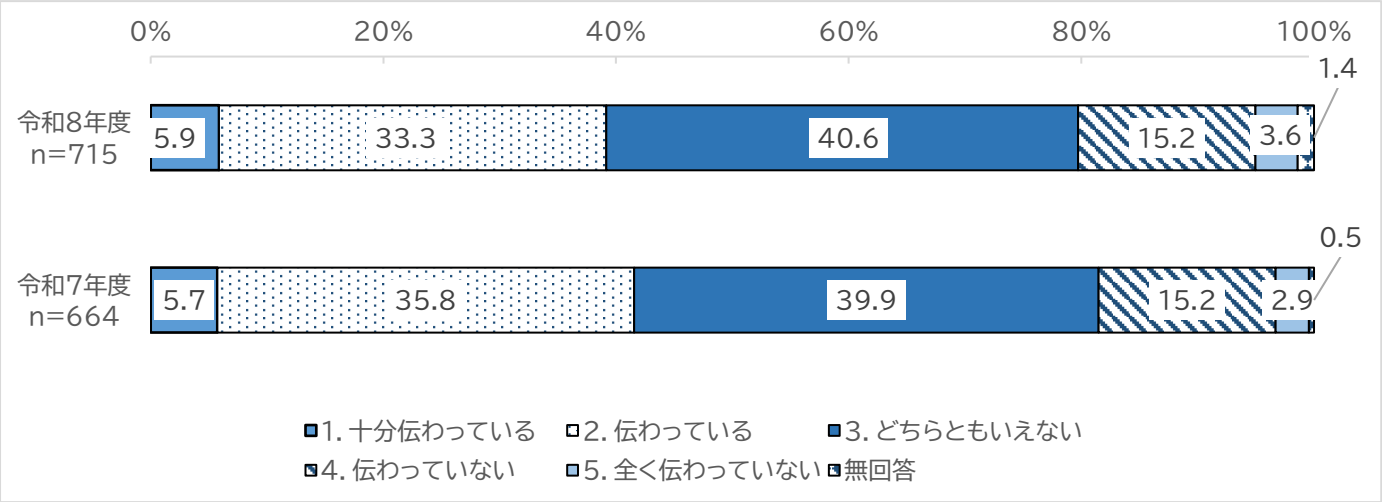
### 問25　定住・移住の促進に効果的な取り組みについて（回答を3つまで）




- 割合が最も高かったのは「8. 医療・福祉・健康づくりの充実」で 45.2%（323 人）であった。次いで「1. 就職の支援」が 39.6%（283 人）、「6. 子育て支援の充実」が 38.9%（278 人）であった。割合が最も低かったのは「3. 産業の活性化支援」で 7.4%（53 人）であった（「14. その他」を除く）。
- 前回調査と比較すると、同様に「8. 医療・福祉・健康づくりの充実」が最多であった。また、割合が最も低かった項目についても、同様に「3. 産業の活性化支援」が最少であった。

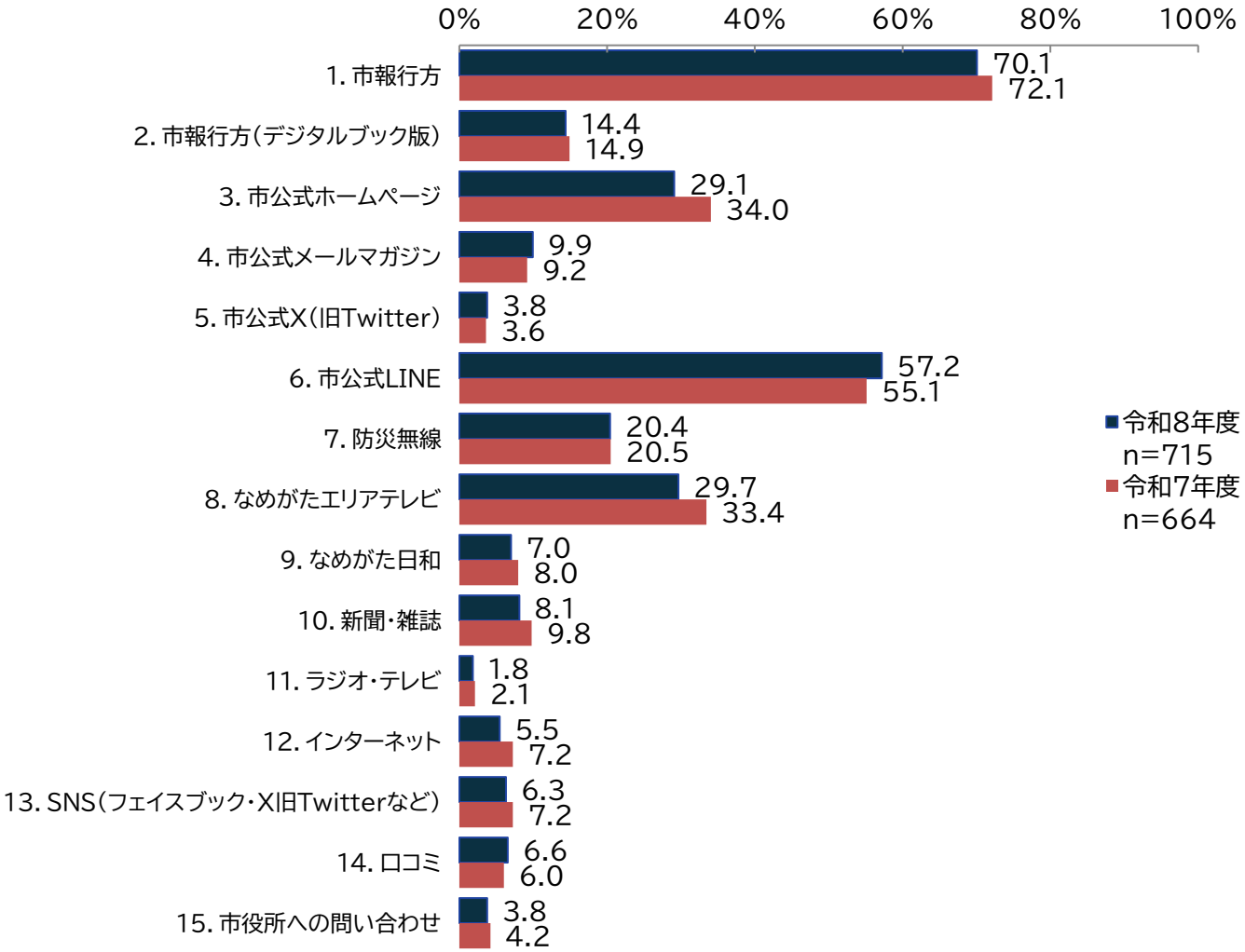
## 9. 行政サービスについて

### 問26　市からの情報が十分に伝わっているか（回答を1つ）



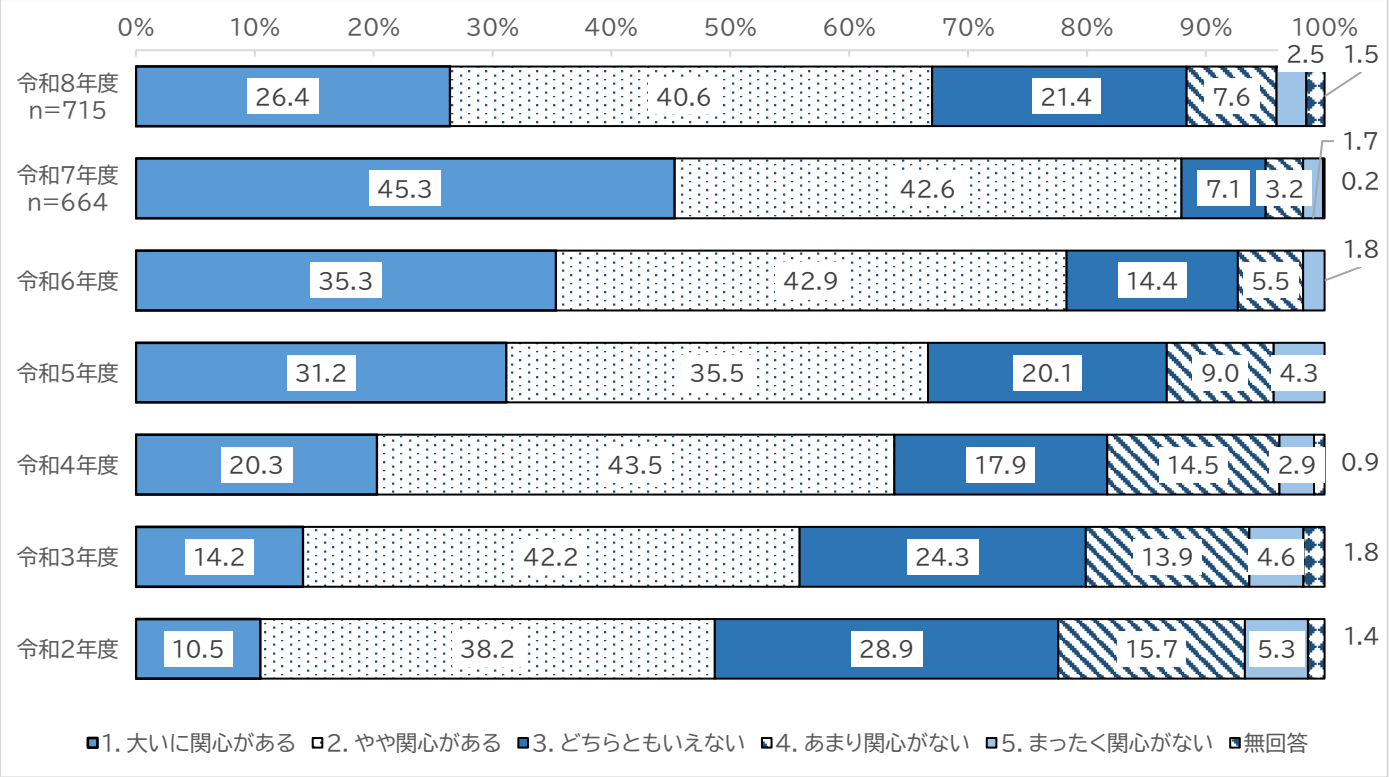

- 割合が最も高かったのは「3. どちらともいえない」で 40.6%（290 人）であった。次いで「2. 伝わっている」が 33.3%（238 人）、「4. 伝わっていない」が 15.2%（109 人）であった。肯定的な回答である「十分伝わっている」と「伝わっている」を合わせた割合は 39.2%（280 人）であり、昨年度比でほぼ横ばいであった。
- 割合が最も低かったのは「5. 全く伝わっていない」で 3.6%（26 人）であった（「無回答」を除く）。否定的な回答である「伝わっていない」と「全く伝わっていない」を合わせた割合は 18.8%（135 人）であった。

## 問27　市政や地域に関する情報の取得方法について（複数回答）




- 割合が最も高かったのは「1. 市報行方」で 70.1%（501 人）であった。次いで「6. 市公式LINE」が 57.2%（409 人）、「8. なめがたエリアテレビ」が 29.7%（212 人）であった。割合が最も低かったのは「11. ラジオ・テレビ」で 1.8%（13 人）であった。前回調査の傾向と大きくは変動していない。

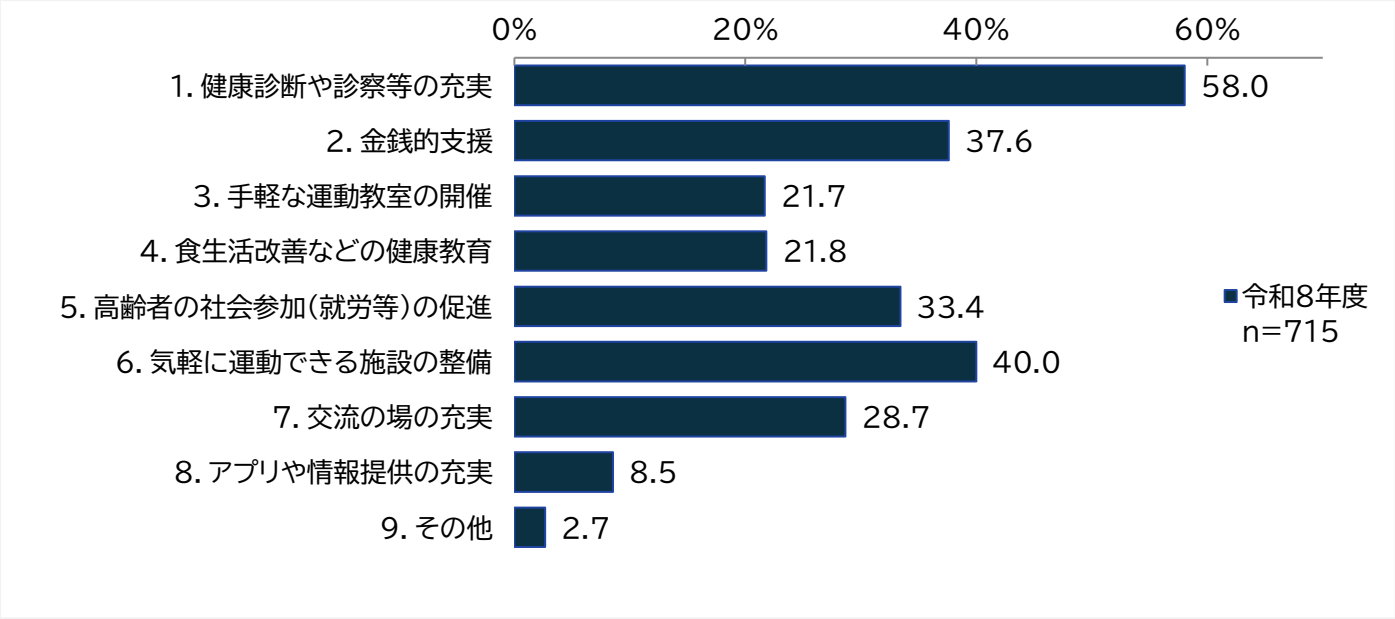
## 問28　市政に対する関心について（回答を1つ）




- 割合が最も高かったのは「2. やや関心がある」で 40.6%（290 人）であった。次いで「1. 大いに関心がある」が 26.4%（189 人）、「3. どちらともいえない」が 21.4%（153 人）であった。割合が最も低かったのは「5. まったく関心がない」で 2.5%（18 人）であった（「無回答」を除く）。
- 肯定的な回答である「大いに関心がある」と「やや関心がある」を合わせた割合は 67.0%（479 人）であり、前回調査より 20 ポイント以上減少した。一方で「どちらともいえない」が大きく増加している。否定的な回答である「あまり関心がない」と「まったく関心がない」を合わせた割合は 10.1%（72 人）であった。
- 前回調査と比較すると、最も割合が高かったのは「1. 大いに関心がある」であり、今回の調査結果とは異なる結果となった。

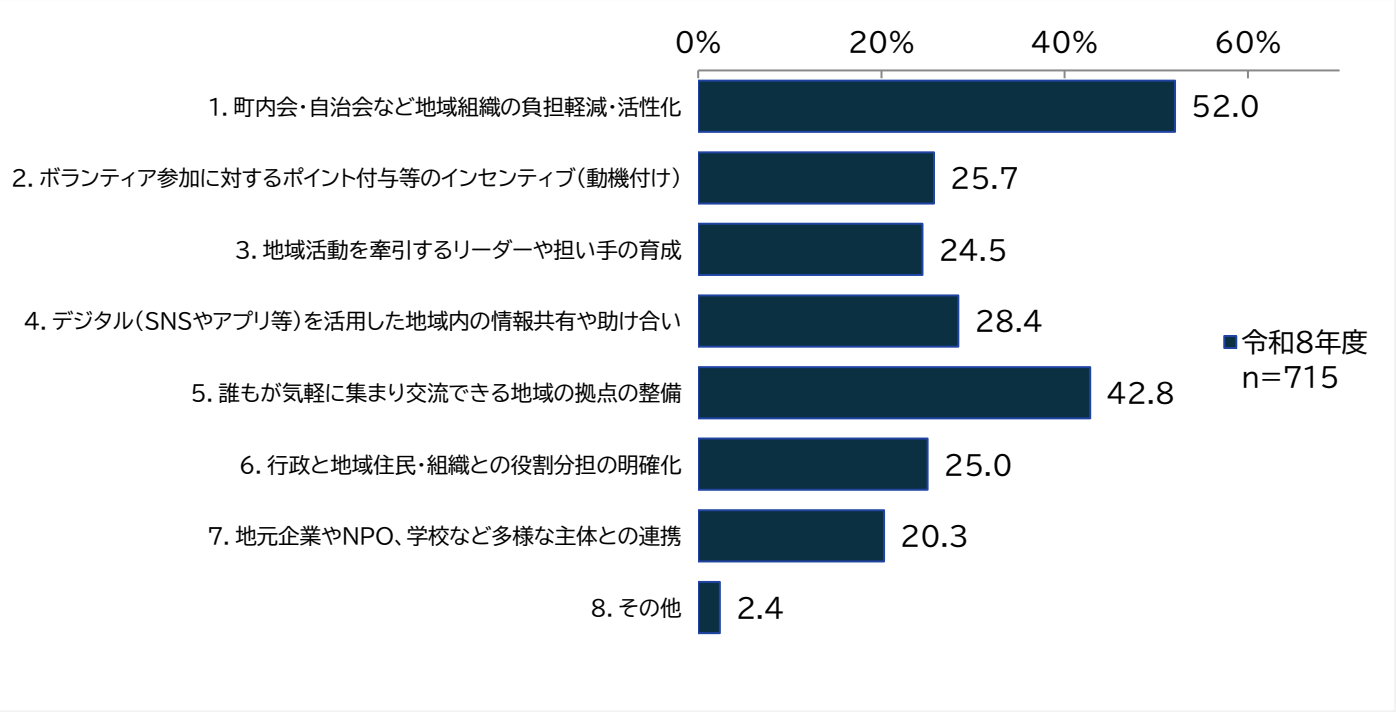
## 10. 住みやすいまちづくりについて

### 問29　健康寿命を延ばすために必要な施策や支援について（回答を3つまで）



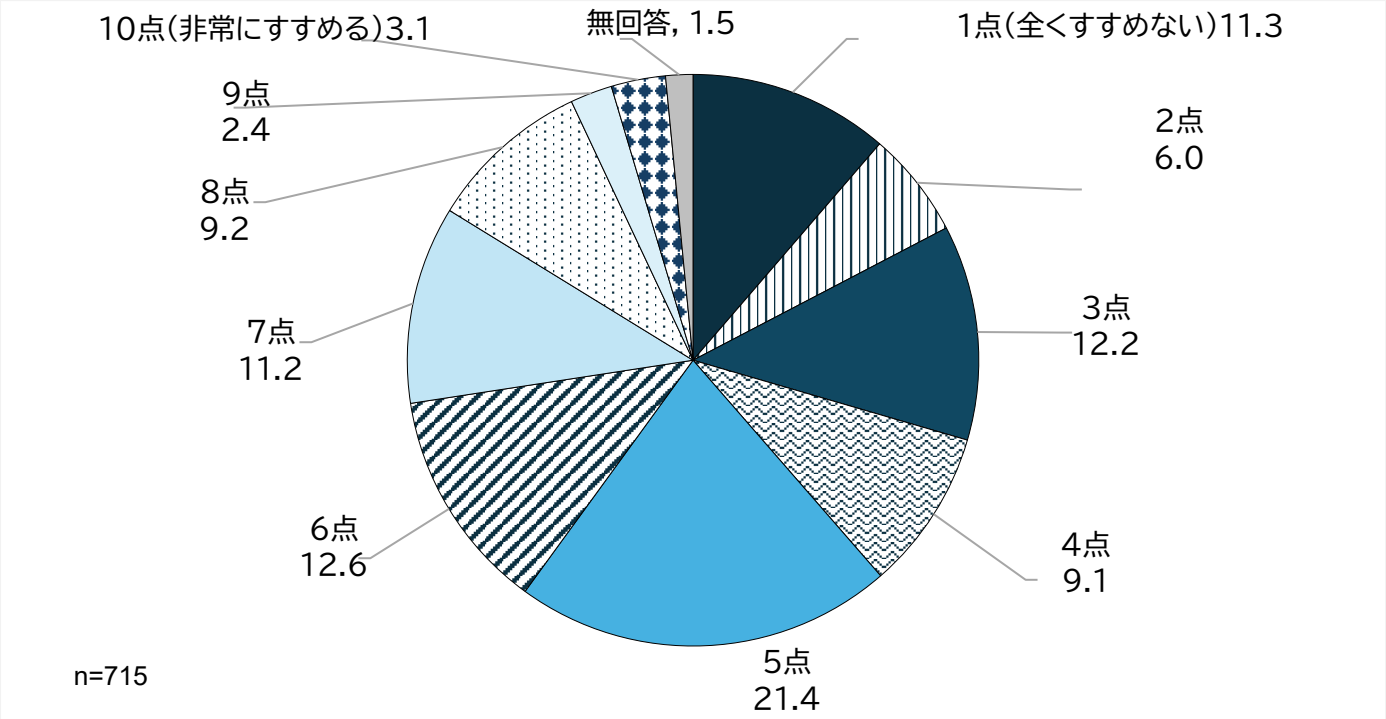

- 割合が最も高かったのは「1. 健康診断や診察等の充実」で 58.0%（415 人）であった。次いで「6. 気軽に運動できる施設の整備」が 40.0%（286 人）、「2. 金銭的支援」が 37.6%（269 人）であった。
- 割合が最も低かったのは「8. アプリや情報提供の充実」で 8.5%（61 人）であった（「9. その他」を除く）。
- なお、本設問は今回調査の新規項目のため、前回調査のデータはない。

## 問30　地域における「共助」の仕組みの維持・発展において重要なことについて（回答を3つまで）




- 割合が最も高かったのは「1. 町内会・自治会など地域組織の負担軽減・活性化」で 52.0%（372 人）であった。次いで「5. 誰もが気軽に集まり交流できる地域の拠点の整備」が 42.8%（306 人）、「4. デジタル（SNS やアプリ等）を活用した地域内の情報共有や助け合い」が 28.4%（203 人）であった。
- 割合が最も低かったのは「7. 地元企業や NPO、学校など多様な主体との連携」で 20.3%（145 人）であった（「8. その他」を除く）。
- なお、本設問は今回調査の新規項目のため、前回調査のデータはない。

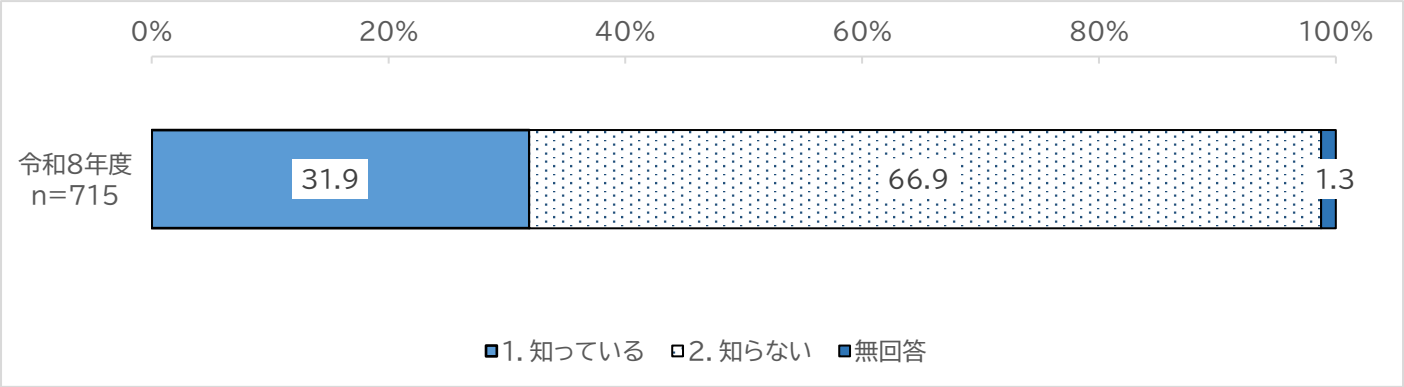
## 問31　親しい友人や家族への行方市のおすすめ度（NPS）について（回答を1つ）




- 親しい友人や家族への行方市のおすすめ度（10 段階評価）は、割合が最も高かったのは「5 点」で 21.4%（153 人）であった。次いで「6 点」が 12.6%（90 人）、「3 点」が 12.2%（87 人）であった。
- 平均は 4.91 ポイントとなり、全体のほぼ中央に位置した。
- 割合が最も低かったのは「9 点」で 2.4%（17 人）であった（「無回答」を除く）。
- なお、本設問は今回調査の新規項目のため、前回調査のデータは存在しない。

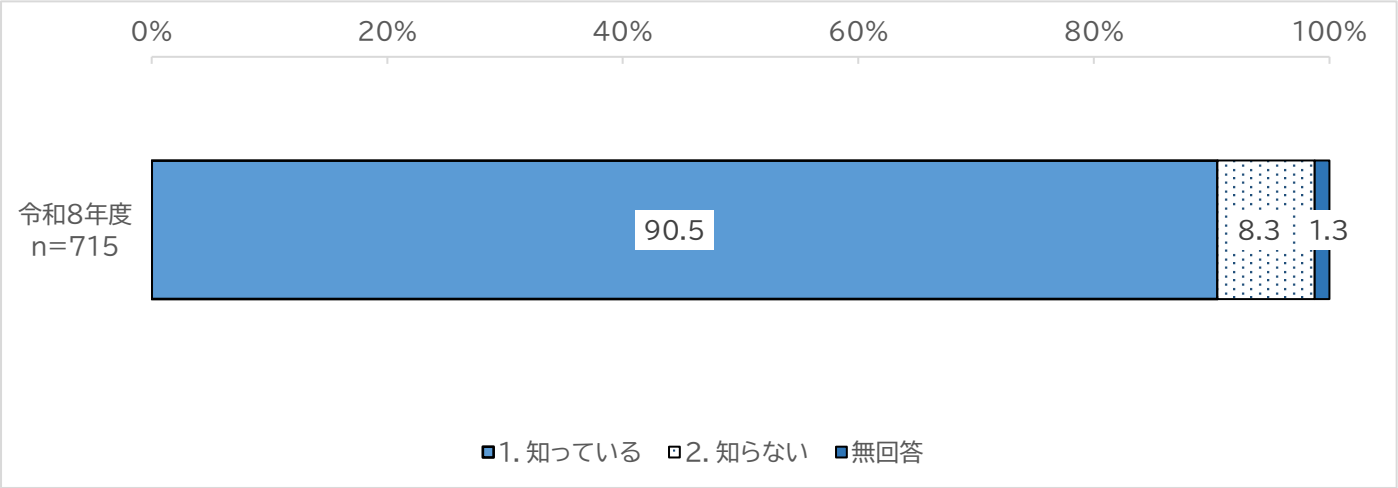
## 11. 行方市が注力している取組について

### 問32 「行方市フォント」の認知度について（回答を1つ）




- 「行方市フォント」の認知度については、「1. 知っている」が31. 9%（228人）、「2. 知らない」が 66.9%（478人）であった。
- なお、本設問は今回調査の新規項目のため、前回調査のデータは存在しない。

### 問33 ロケ地（フィルムコミッション）としての活用の認知度について（回答を1つ）




- ロケ地としての活用の認知度については、「1. 知っている」が 90.5%（647 人）にのぼった。
- なお、本設問は今回調査の新規項目のため、前回調査のデータは存在しない。

# 『令和8年度　行方市民意識調査』

今後のまちづくりのために、あなたの声をお聞かせください。

行方市では、これからのまちづくりのために「市民意識調査」を実施しています。
皆さまのご意見を、今後の市政運営の貴重な資料として活用してまいりますので、何とぞご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和８年7月吉日　　行方市長　高須敏美

**1　調査期間**　令和8年7月1日(水)から令和8年7月 31 日(金)まで

**2　調査対象**　行方市内に居住する満 18 歳以上の方(令和8年7月1日現在)

**3　回答方法**

(1)インターネットで回答する場合

スマートフォンなどで右の二次元コードを読み込むか、パソコン等で次のアドレスにアクセスしてください。

調査票二次元コード

回答先 URL:
https://questant.jp/q/XMYOTCIS

(2)郵送で回答する場合

ア　回答は、本調査票に直接、ボールペンまたは濃い鉛筆でご記入ください。選択式では□に✓を入れるか、または番号に○をつけてください。

イ　回答票は無記名方式のため、お名前を記入する必要はありません。

ウ　記入が終わった回答票は、**令和8年7月31日(金)まで**に同封の返信用封筒に入れて、郵便ポストに投函してください。

※インターネットで回答した場合は、郵送は不要です。

**4　回答所要時間**　　約 10 分

**5　その他**

調査にご協力いただいた方の中から抽選で、回答のお礼(QUO カード 1,000 円分)をお送りいたします。希望される方は、以下の欄に住所・氏名・電話番号をご記入ください。
なお、当選は発送をもって代えさせていただきます。
※希望されない方は、記入不要です。

住　　所:
氏　　名:
電話番号:

**6　問い合わせ**

行方市　企画政策課　政策調整グループ(麻生庁舎)
℡0299-72-0811(代表)　9:00~12:00、13:00~16:30

## ○あなたご自身についてお伺いします

あなたご自身のことについて、それぞれの項目ごとに、あてはまる番号を選んでください。

| | |
|---|---|
| (1)性 別 | □1. 男性　□2. 女性　□3. その他　□4. 回答しない |
| (2)地 区 | □1. 麻生　□2. 玉造　□3. 北浦 |
| (3)年 齢 | □1. 10歳代　□2. 20歳代　□3. 30歳代　□4. 40歳代<br>□5. 50歳代　□6. 60歳代　□7. 70歳代　□8. 80歳以上 |
| (4)職 業 | □1. 会社員・公務員　□2. 自営業<br>□3. 農林水産業　□4. パート・アルバイト<br>□5. 家事従事者　□6. 学生<br>□7. 無職　□8. その他（　　） |
| (5)居住年数 | □1. 5年未満である<br>□2. 5年以上10年未満である<br>□3. 10年以上20年未満である<br>□4. 20年以上である |
| (6)世帯構成 | □1. ひとり暮らし　□2. 夫婦のみ<br>□3. 親子　□4. 三世代同居<br>□5. その他 |
| (7)子どもの就学状況<br>【複数選択可】 | □1. 小学校入学前　□2. 小学生<br>□3. 中学生　□4. 高校生<br>□5. 大学生・短大生・専門学生　□6. 該当なし(こどもなし、社会人等) |

## 1. 市政への関心・市への愛着・幸福度について

**問1** 行方市に愛着を持っていますか。(回答を1つ)

- □ 1. 愛着がある
- □ 2. どちらかといえば愛着がある
- □ 3. どちらでもない
- □ 4. どちらかといえば愛着がない
- □ 5. 愛着がない

**問2** 現在、どのくらいの幸福を感じていますか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を1点として、あてはまる点数をお選びください。(回答を1つ)

1. とても不幸　　10. とても幸せ

□1.　□2.　□3.　□4.　□5.　□6.　□7.　□8.　□9.　□10.

## 2. 暮らしやすさについて

**問3** 行方市の「住み心地」についてどう感じていますか。(回答を1つ)

- □ 1. 住みやすい ⇒**問4へ**
- □ 2. どちらかといえば住みやすい ⇒**問4へ**
- □ 3. どちらともいえない
- □ 4. どちらかといえば住みにくい ⇒**問5へ**
- □ 5. 住みにくい ⇒**問5へ**

【問3で『1・2』を選んだ方のみ回答】
問4　住みやすいと感じる理由は何ですか。(回答を3つまで)

□ 1. 職場・学校などが市内または近くにある
□ 2. 長年住み慣れており、愛着がある
□ 3. 自然環境が良い
□ 4. 家族、親戚が近くにいる
□ 5. 買い物など日常生活が便利である
□ 6. 医療機関・福祉サービスが充実している
□ 7. 公共施設が充実している
□ 8. 教育・文化環境が良い
□ 9. 暮らしていて安全で安心できる
□ 10. 公共交通が便利である
□ 11. その他 (　　)

【問3で『4・5』を選んだ方のみ回答】
問5　住みにくいと感じる理由は何ですか。(回答を3つまで)

□ 1. 職場・学校などが市内または近くにない
□ 2. 住み慣れておらず、愛着がない
□ 3. 自然環境が悪い
□ 4. 家族、親戚が近くにいない
□ 5. 買い物など日常生活が不便である
□ 6. 医療機関・福祉サービスが充実していない
□ 7. 公共施設が充実していない
□ 8. 教育・文化環境が悪い
□ 9. 暮らしていて不安である
□ 10. 公共交通が不便である
□ 11. その他 (　　)

問6　今後も行方市に住み続けたいと思いますか。(回答を1つ)

□ 1. 住み続けたい
□ 2. どちらかといえば住み続けたい
□ 3. どちらともいえない
□ 4. どちらかといえば住み続けたくない
□ 5. 住み続けたくない

## 3. まちづくりへの満足度

問7　普段の生活の中で、次の項目の取り組みについて、どの程度満足していますか。直接関係がない項目についても、お答えください。(項目ごとに回答を1つ)

| 項　　目 | 満足 | どちらかというと満足 | どちらかというと不満 | 不満 | わからない |
|---|---|---|---|---|---|
| 健康・福祉 | | | | | |
| ① 健康づくり | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ② 病院や診療所などの医療体制 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ③ 障がい者に対する支援 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ④ 高齢者に対する支援 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑤ 子育てに対する支援 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 生活環境 | | | | | |
| ⑥ 地域での交流 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑦ 防災・防犯・交通安全対策 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑧ 道路の整備 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑨ 日常生活の移動 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑩ 自然と調和のとれた住環境 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑪ 公園や遊び場 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑫ ゴミ処理・生活環境(騒音・悪臭など)対策 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑬ 下水道・雨水排水設備の整備 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 教育・文化 | | | | | |
| ⑭ 学校教育の充実 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑮ 生涯学習の充実 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑯ 青少年の健全育成 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑰ 文化・芸術・スポーツ活動や施設 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑱ 国際化への対応(外国人へのサポート) | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 産業 | | | | | |
| ⑲ 農林水産業の振興 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑳ 商業の振興 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ㉑ 観光の振興 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ㉒ 雇用促進(商業支援) | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| その他 | | | | | |
| ㉓ 市内の公共交通の整備状況 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ㉔ 市の行政サービス全般 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ㉕ 市内の公共施設の整備状況 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

問8　問7の取り組みの中で、あなたが市に求める特に重要な取り組みは何ですか。
（①から㉕の中から３つまで番号を記入）

番号　→　（　　）（　　）（　　）

## 4. 健康・福祉について

**問9　健康診断を受けていますか。(回答を1つ)**

- □ 1. 毎年受けている
- □ 2. 2～3年に一度受けている　⇒**問10へ**
- □ 3. 以前受けたことがある　⇒**問10へ**
- □ 4. 健康診断を受けたことがない　⇒**問10へ**

**【問9で『2・3・4』を選んだ方のみ回答】**
**問10　健康診断を毎年受けない理由は何ですか。(回答を3つまで)**

- □ 1. 受ける時間がない
- □ 2. 受けるための手続きが面倒
- □ 3. 受けるための申込方法がわからない
- □ 4. 受けられる場所が遠い
- □ 5. 受けられる場所がわからない
- □ 6. 検査が苦手・不快感がある
- □ 7. 結果を知りたくない
- □ 8. 費用がかかる
- □ 9. 受ける必要性を感じない
- □ 10. その他(　　)

**問11　この1年間にスポーツや運動をしましたか。(回答を1つ)**
※体を動かすことを目的とした軽い運動(ウォーキング《散歩》・サイクリング・ヨガ・ダンス・体操等)も含みます。

- □ 1. 週に3回以上
- □ 2. 週に1～2回
- □ 3. 月に1～2回
- □ 4. 3か月に1～2回
- □ 5. 年に数回
- □ 6. していない

問12　健康づくりについて、関心のある内容を教えてください。(複数回答)

□ 1. 食生活・栄養
□ 2. 運動・体力づくり
□ 3. 生活習慣病予防(高血圧・糖尿病・脂質異常症など)
□ 4. がん予防
□ 5. 歯と口の健康
□ 6. 睡眠・休養
□ 7. こころの健康
□ 8. 認知症予防
□ 9. 介護予防
□ 10. フレイル予防
□ 11. 禁煙
□ 12. アルコール
□ 13. 健康診断
□ 14. その他(　　)

問13　障がい者福祉について、最も重要だと思うものを選んでください。(回答を1つ)

□ 1. 障がいを理由とする差別の解消の推進
□ 2. 障がい者が地域で安心して暮らせる支援体制の強化
□ 3. 障がいのある人への雇用・就労の支援
□ 4. 障がい児への支援や相談体制の充実
□ 5. 福祉人材の養成や確保
□ 6. その他(　　)

問14　行方市は高齢者が安心して住み続けられる環境が整っていると思いますか。(回答を1つ)

□ 1. そう思う
□ 2. どちらかといえばそう思う
□ 3. どちらかといえばそう思わない
□ 4. そう思わない
□ 5. どちらともいえない

問15　高齢者が安心して住み続けられるための取り組みとして、重要だと考えるものを3つまで選んでください。(回答を3つまで)

□ 1. 健康づくりや介護予防事業
□ 2. 高齢者の生きがいづくり支援
□ 3. 送迎・買い物など日常生活支援
□ 4. 地域で高齢者を支える仕組み
□ 5. 自宅外で受けられる介護サービス
□ 6. 自宅で受けられる介護サービス
□ 7. 在宅で介護する家族への支援
□ 8. 医療体制の充実
□ 9. 行政の支援(金銭・相談・サポートなど)
□ 10. その他(　　)

問16　行方市は安心して子供を産み育てられる環境が整っていると思いますか。(回答を1つ)

□ 1. そう思う
□ 2. どちらかといえばそう思う
□ 3. どちらかといえばそう思わない
□ 4. そう思わない
□ 5. どちらともいえない

問17　安心して結婚・妊娠・子育てをするために、重要だと考えるものを3つまで選んでください。(回答を3つまで)

□ 1. 雇用の確保による経済的な安定
□ 2. 結婚・妊娠・子育てに関する職場の理解(仕事と生活の調和の実現)
□ 3. 子育てに関する包括的な相談機関
□ 4. 子育て世帯に対する地域(地区)住民の協力、支援
□ 5. 安心して妊婦、子どもが受診できる病院、診療所
□ 6. 行政の支援(金銭・相談・サポートなど)
□ 7. その他(　　)

## 5. 生活環境について

**問18** 住んでいる地区に対して、次の項目についてどう感じていますか。
（項目ごとに回答を1つ）

| 項　目 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらかというとそう思わない | そう思わない | どちらともいえない |
|---|---|---|---|---|---|
| ① 近所付き合いや地域活動が活発である | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ② 困っている人を助ける仕組みができている | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ③ 日頃から防犯のための目配りができている | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ④ 環境美化活動に熱心である | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑤ 性別に関係なく社会進出(参加)ができている | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

**問19** 過去5年間、地域でどのような活動に参加していますか。(複数回答)

- ☐ 1. 自治会・町内会の行事
- ☐ 2. 地域でのお祭り
- ☐ 3. 子ども会・育成会
- ☐ 4. PTA・学校の行事
- ☐ 5. スポーツ少年団
- ☐ 6. スポーツ協会の行事
- ☐ 7. 消防団・自主防災組織
- ☐ 8. 老人クラブ
- ☐ 9. 婦人会・女性の会
- ☐ 10. ボランティア活動
- ☐ 11. 参加していない　⇒**問20へ**

【問19で『11』を選んだ方のみ回答】
**問20** 活動に参加していない理由は何ですか。(回答を1つ)

- ☐ 1. 時間がない
- ☐ 2. 活動がわずらわしい
- ☐ 3. 人間関係がわずらわしい
- ☐ 4. 組織がない
- ☐ 5. 組織があるかわからない
- ☐ 6. 必要だと思わない

## 6. 教育・文化について

問21　学校教育について、最も重要だと思うものを選んでください。(回答を1つ)

□ 1. 郷土愛を育む地域学習の推進
□ 2. 特別な支援を要する児童生徒への支援の充実
□ 3. 学校教育における資質・能力の確実な育成のためのICT活用の推進
□ 4. 教職員が子どもと向き合う時間を確保するための、学校の働き方改革の推進
□ 5. 英語教育など国際社会に対応した教育の推進
□ 6. いじめや不登校の悩みなど、子どもや保護者が安心して相談できる体制の充実
□ 7. 学力の向上・豊かな心・健やかな体を育成するための教育内容の充実
□ 8. その他(　　)

問22　生涯学習・文化・スポーツ振興について最も重要だと思うものを選んでください。
(回答を1つ)

□ 1. 学習講座やサークル活動
□ 2. 人権教育の推進
□ 3. 様々な体験や世代間交流ができる機会
□ 4. 文化・芸術公演の開催
□ 5. 文化活動やサークル活動
□ 6. 運動場や体育館等の施設
□ 7. スポーツに関する活動
□ 8. 文化やスポーツ活動指導者の育成
□ 9. その他(　　)

## 7. 産業について

**問 23　農林水産業について、重要だと考えるものを選んでください。(回答を3つまで)**

- □ 1. 農産物など市内特産物の PR や地域ブランドの育成
- □ 2. 地産地消を推進するため学校給食や市内飲食店での利用促進
- □ 3. ふるさと納税など市内特産物を使用した加工品の開発・販路拡大への支援
- □ 4. 新技術(農林水産業のスマート化)による農業・林業・漁業従事者の育成支援
- □ 5. 農業や漁業を就業体験できる機会の提供による担い手育成
- □ 6. 担い手の育成と定着への支援
- □ 7. 生産者や地域企業など異業種連携のサポート
- □ 8. その他(　　)

**問 24　商業・工業の振興について、重要だと考えるものを選んでください。**
**(回答を3つまで)**

- □ 1. 市内企業の製品や技術力の PR、情報発信
- □ 2. 商店街活性化など推進や空き店舗活用などの推進
- □ 3. 中小企業やベンチャー企業の技術力や開発力の向上や販路拡大の支援
- □ 4. 企業誘致の促進
- □ 5. 技術者・起業者の育成と支援の充実
- □ 6. 地域の農産品を活用した食品関連産業分野の促進
- □ 7. その他(　　)

## 8. 定住・移住の促進について

問 25　行方市への定住・移住の促進にどのような取り組みが効果的だと思いますか。
（回答を3つまで）

- □ 1. 就職の支援
- □ 2. 農業の担い手確保に向けた支援
- □ 3. 産業の活性化支援
- □ 4. 企業誘致・創業支援
- □ 5. 結婚支援の充実
- □ 6. 子育て支援の充実
- □ 7. 教育環境の充実
- □ 8. 医療・福祉・健康づくりの充実
- □ 9. 快適な住環境の充実
- □ 10. 地域公共交通・道路環境の整備
- □ 11. 安全・安心な生活環境の充実
- □ 12. 市の魅力等の情報発信・PRの充実
- □ 13. 定住・移住へのきっかけづくり及び相談受け入れ体制の充実
- □ 14. その他（　　）

## 9. 行政サービスについて

問26　行方市からの情報が十分に伝わっていますか。(回答を1つ)

- □ 1. 十分伝わっている
- □ 2. 伝わっている
- □ 3. どちらともいえない
- □ 4. 伝わっていない
- □ 5. 全く伝わっていない

問27　主にどのような方法で、市政や市・地域の情報を得ていますか。(複数回答)

- □ 1. 市報行方
- □ 2. 市報行方(デジタルブック版)
- □ 3. 市公式ホームページ
- □ 4. 市公式メールマガジン
- □ 5. 市公式 X(旧 Twitter)
- □ 6. 市公式LINE
- □ 7. 防災無線
- □ 8. なめがたエリアテレビ
- □ 9. なめがた日和
- □ 10. 新聞・雑誌
- □ 11. ラジオ・テレビ
- □ 12. インターネット
- □ 13. SNS(フェイスブック・X《旧 Twitter》など)
- □ 14. 口コミ
- □ 15. 市役所への問い合わせ

問28　行方市の市政に関心はありますか。(回答を1つ)

- □ 1. 大いに関心がある
- □ 2. やや関心がある
- □ 3. どちらともいえない
- □ 4. あまり関心がない
- □ 5. まったく関心がない

## 10. 住みやすいまちづくりについて

**問29　健康で長生きするため(健康寿命を延ばすため)に、行政のどのような施策や支援が必要だと思いますか。(回答を3つまで)**

- □ 1. 健康診断や診察等の充実
- □ 2. 金銭的支援
- □ 3. 手軽な運動教室の開催
- □ 4. 食生活改善などの健康教育
- □ 5. 高齢者の社会参加(就労等)の促進
- □ 6. 気軽に運動できる施設の整備
- □ 7. 交流の場の充実
- □ 8. アプリや情報提供の充実
- □ 9. その他(　　)

**問30　少子高齢化が進む中、地域住民同士で助け合う「共助」の仕組みを維持・発展させるために、何が重要だと思いますか。(回答を3つまで)**

- □ 1. 町内会・自治会など地域組織の負担軽減・活性化
- □ 2. ボランティア参加に対するポイント付与等のインセンティブ(動機付け)
- □ 3. 地域活動を牽引するリーダーや担い手の育成
- □ 4. デジタル(SNS やアプリ等)を活用した地域内の情報共有や助け合い
- □ 5. 誰もが気軽に集まり交流できる地域の拠点の整備
- □ 6. 行政と地域住民・組織との役割分担の明確化
- □ 7. 地元企業や NPO、学校など多様な主体との連携
- □ 8. その他(　　)

**問31　あなたは行方市に住むことを、親しい友人や家族にどの程度おすすめしたいですか。「非常にすすめる」を10点、「全くすすめない」を1点として、あてはまる点数をお選びください。(回答を1つ)**

1. 全くすすめない　　10. 非常にすすめる

□1.　□2.　□3.　□4.　□5.　□6.　□7.　□8.　□9.　□10.

## 11.行方市が注力している取組について

問32　あなたは「行方市フォント」を知っていますか。(回答を1つ)

□ 1. 知っている
□ 2. 知らない

問33　あなたは近年、行方市がテレビ番組や映画などのロケ地として多く活用されていることを知っていますか。(回答を1つ)

□ 1. 知っている
□ 2. 知らない

行方市民意識調査はこれで終了です。ご協力ありがとうございました。

